

朝鮮學報總目錄

第1輯～第257輯

(1951/昭和26年～2021/令和3年)

朝鮮學會

目 次

凡例-----	i
輯別総目録-----	1
資料一覧-----	144
〈付録〉朝鮮学会会報第 1 号～第 25 号総目次-----	147

〈凡例〉

- I. 本目録は、『朝鮮学報』第1輯（1951年5月刊）から第249・250輯合併号（2019年1月刊）までの輯別総目録および資料一覧からなる。また付録として『朝鮮学会会報』第1号から第25号までの総目次を収める。

- II. 輯別総目録
 1. 輯別総目録には、各輯に掲載された論説、研究ノート、資料紹介、動向、書評、批評と紹介、彙報などの全内容を輯別・掲載順に収録した。
 2. 輯別の表示のあとに、奥付による発行年月日を記載した。
 3. 論説、研究ノート、書評の執筆者名のほかに、翻訳者名、資料の校訂・解説、彙報等の担当者名もわかる範囲で記載した。
 4. 論説以外の記事には、題目の前に〈研究ノート〉〈書評〉〈批評と紹介〉〈資料〉〈彙報〉等の区分を明示した。影印資料については、資料名の前に【影印】と表示した。
 5. 目次と本文の題目が異なる場合は、本文にしたがった。ただし、番号にわたる論説の回数表示（一・二、1・2、上・下など）がないものなどには補正を加えた。
 6. 明らかな誤記・誤植・脱字は訂正した。
 7. 彙報欄の、新入会員、住所変更、住所・地番変更、会員移動、退会、逝去などは全て「会員消息」として一括した。
 8. 各題目・項目の末尾にページ数を示した。なお、横組のページ数は（ ）を付したほか、別途ページ数の付された記事などには、ページ数の前に「別」字を付して区別した。
 9. 漢字表記について、『朝鮮学報』では正字・異体字・略字等が混用されているが、検索の便を図ることを第一義とする本目録の性格上、人名を含め、原則として常用漢字に統一した。なお、PC上で入力が困難な漢字については≡で表記したままのものもある。

- III. 資料一覧
 1. 本一覧は、影印・校訂等のかたちで『朝鮮学報』に掲載された資料の一覧である。資料名のあとに輯数およびページ数を示した。

輯別総目録

1 (1951/昭和26年5月26日)

- 中山 正善 卷頭言 別1~4
幣原 坦 対馬問題 1~13
三品 彰英 高句麗王都考—三国史記高句麗本紀の批判を中心として
— 15~54
末松 保和 三峯集編刊考 55~68
金沢 庄三郎 朝鮮研究と日本書紀 69~91
河野 六郎 諺文古文献の声点に就いて 93~140
高橋 亨 李朝僧将の詩 141~181
秋葉 隆 祈子の習俗について—朝鮮社会の家族主義的性格— 183
~192
四方 博 旧来の朝鮮社会の歴史的 성격について 193~206
森 為三 朝鮮の動物概観 207~221
上田 常一 朝鮮人の体型上の特徴 223~237
池内 宏 朝鮮関北の四地誌 239~244
藤田 亮策 朝鮮古文化財の保存 245~262
三木 栄 養安院蔵書中の朝鮮医書 263~270
佐藤 剛蔵 朝鮮医育史—前篇— 271~297
関野 真吉 欧文朝鮮関係文献—一九四〇年以後刊行書目— 299~310
(彙報) 朝鮮学会の創立、朝鮮学会発会式、朝鮮学会東京
支部発会式、朝鮮学会東京支部例会、朝鮮文化資料展覧会、
執筆者紹介、朝鮮学会会則、朝鮮学会役員名簿 309~312

2 (1951/昭和26年10月26日)

- 三上 次男 穢人とその民族的性格について (一) 1~24
青山 公亮 王氏高麗朝の末葉に於ける彼我の外交に就いて 25~39
稲葉 正就 朝鮮出身僧「円測法師」について 41~51
杉山 信三 麗末鮮初代の造営工事とその監董者について 53~74
宮原 兎一 朝鮮初期の銅銭について 75~101

- 岡田 英弘 新羅国記と大中遺事とについて 103~119
- 山口 正之 訳註黄嗣永帛書 121~154
- 四方 博 旧来の朝鮮社会の歴史的な性格について (二) 155~173
- 佐藤 剛蔵 朝鮮医育史—中篇— 175~210
- 高橋 亨 高麗大蔵経板印出願末 211~224
- 石原 六三 〈新刊紹介〉李崇寧著『朝鮮語音韻論第一輯「・」音攷』
(1949年、乙酉文化社) 225~227
- 高橋 亨 〈新刊紹介〉朝鮮文化叢書(1947年~、乙酉文化社) 227
~229
- 高橋 亨 〈新刊紹介〉文一平著『湖岩全集』(1948年、一成堂書店)
229~230
- 新刊朝鮮図書目録 230~233
- 〈彙報〉定例研究会、東京支部例会、会報の発行 234~235
- 執筆者紹介 235

3 (1952/昭和27年5月26日)

- 金沢 庄三郎 朝鮮古地名の研究 1~21
- 三上 次男 朝鮮における櫛目文土器社会と穢人一穢人とその民族的
性格 (二) — 23~51
- 黒田 源次 漫愁懐古 53~61
- 榎本 杜人 石上神宮の七支刀とその銘文 63~81
- 高橋 盛孝 人鐘考 83~100
- 鏑方 貞亮 朝鮮古代の家畜について—猪・犬・雞— 101~117
- 四方 博 旧来の朝鮮社会の歴史的な性格 (三) 119~147
- 佐藤 剛蔵 朝鮮医育史—後篇— 149~186
- 高橋 亨 〈書評〉玄相充著『朝鮮儒学史』(1949年、民衆書館) 187
~188
- 末松 保和 〈書評〉旗田巍著『朝鮮史』(1951年、岩波書店) 188~190
〈彙報〉昭和26年度朝鮮学会大会、定例研究会、東京支
部例会、会報 191~193

4 (1953/昭和28年3月26日)

- 三品 彰英 穢貊族小考—民族関係文献批判に因んで— 1~28
田川 孝三 通文館志の編纂とその重刊について 29~56
善生 永助 朝鮮における市場経済生活 57~77
田中 健夫 初期日鮮交通と博多貿易商人 79~105
丸亀 金作 朝鮮の活字鑄造所について 107~116
石原 道博 朝鮮側より見た明末の日本乞師について 117~129
高橋 亨 朝鮮の陽明学派 131~156
森 為三 〈新刊紹介及解題〉朝鮮魚類目を編纂して 157~158
〈彙報〉昭和27年度朝鮮学会大会、定例研究会、東京支部例会、会報、人事 171~181
執筆者紹介 181
朝鮮学報第1輯~第3輯目次 182
Sunoo, Hag-won(鮮于 学源) Korea's Relation with Russia : 1884-1904
(1)~(18)

5 (1953/昭和28年10月26日)

- 前間 恭作 庶孽考(一) 1~27
金沢 庄三郎 出挙の研究 29~43
山崎 忠 我が国における華夷訳語研究史 45~58
浜田 秀男 朝鮮在来稻 59~72
三須 英雄 朝鮮農業のありし姿 73~76
石田 茂作 百濟寺院と法隆寺 77~86
藤田 亮策 新羅九州五京攷 87~125
田花 為雄 郷約教法と道義郷約 127~154
三木 栄 李朝に於けるコレラ Cholera asiatica の流行 155~
173

- 中吉 功 松広寺の小仏龕像について 175~179
- H・N・アレン 著 (桜井 義之 訳) 外人去来朝鮮年表 (一) 181~214
- 宮原 兎一 (書評) G. M. McCune, *Korea Today*, Harvard University Press, 1950 (G・M・マッキューン著『今日の朝鮮』) 215~231
- (彙報) 昭和 28 年度朝鮮学会大会、会報、会員消息 231~232
- 執筆者紹介 巻末

6 (1954/昭和 29 年 8 月 26 日)

- 岩生 成一 安南国渡航朝鮮人趙完璧伝について 1~12
- 三品 彰英 高句麗の五族について 13~57
- 前間 恭作 庶孽考 (二) 59~91
- 宮原 兎一 朝鮮における債務支配の一考察—公私債について— 93~108
- 石原 道博 日本・朝鮮の班列に関する明史日本伝の記事について 109~122
- 大塚 鏡 朝鮮写本「東話」 123~129
- H・N・アレン 著 (桜井 義之 訳) 外人去来朝鮮年表 (二) 131~162
- 山崎 忠 我が国に於ける華夷訳語研究史補遺 163~165
- 石原 道博 (書評) 普及版『李朝実録』(学習院大学東洋文化研究所刊)の刊行によせて 167~168
- 高橋 亨 (書評) 秋葉隆著『朝鮮民俗誌』(1954 年、六三書院) 168~169
- 執筆者紹介 169
- (彙報) 昭和 29 年度幹事会、定例研究会、東京支部例会、会報 170
- Zong, In-sob, W.E. Skillend The Unified System for the Romanization of Korean (1)~ (28)

7 (1955/昭和 30 年 3 月 25 日)

- 鮎貝 房之進 借字攷 (一) 1~62
高橋 亨 三国遺事の註及檀君伝説の發展 63~90
善生 永助 朝鮮における契の普及 91~115
梅原 末治 朝鮮鐘雜記 117~140
李 弘植 貞元廿年在銘新羅梵鐘—襄陽雪山出土品— 141~160
佐藤 剛蔵 朝鮮医育史補遺 161~174
渡部 学 J・S・ゲールの「朝鮮印象記」—十九世紀末朝鮮教育の実情— 175~188
宮原 兎一 〈書評〉 Cornelius Osgood, *The Koreans and Their Culture*, Ronald Press Co. New York, 1951, Charles E. Tuttle Co. Tokyo, 1954 189~190
高橋 亨 〈書評〉 金元植著『韓国古活字概要』(1954年、乙酉文化社) 190
高橋 亨 〈書評〉 National Museum of Korea Seoul, *War Damage to Korean Historical Monuments* 190~191
高橋 亨 〈書評〉『東方学志』第一輯(延禧大学校東方学研究所) 191~192
Zong, In-sob Korean Drama 232~193
〈彙報〉昭和 29 年度大会、会報 233~235
執筆者紹介 235

8 (1955/昭和 30 年 10 月 25 日)

- 鮎貝 房之進 借字攷 (二) 1~20
金沢 庄三郎 日鮮語比較雜考 21~31
有光 教一 慶州邑南古墳群について 33~49
酒井 改蔵 好太王碑面の地名について 51~63
内藤 雋輔 高麗時代の鷹坊について 65~82
高橋 盛孝 職業占 83~96
岸 謙 近代朝鮮に於ける電気知識の伝来とその發展 97~134

- H・N・アレン 著 (桜井 義之 訳) 外人去来朝鮮年表 (三) 完 135~175
- 森 為三 (書評) 南泰卿編『韓国鳥類名彙』(1950年) 177
- 森 為三 (書評) 鄭文基編『韓国魚譜』 177~178
- 青山 秀夫 (書評) 宋枝学・梶井陟共著『新しい朝鮮語の学習』(1954年、学友書房) 178
- (彙報) 昭和 30 年度大会、会報 179
- 村上 四男 編 三国史記地理志索引 (1)~(10)
- 執筆者紹介 190

9 (1956/昭和 31 年 10 月 25 日) 天理教祖 70 年祭記念号

- 中山 正善 朝鮮学報記念号によせて 別 1~2
- 末松 保和 朝鮮議政府考 1~35
- 深谷 敏鉄 朝鮮世宗朝における東北边疆への第一次の徙民入居について 37~65
- 石原 道博 倭寇と朝鮮人俘虜の送還問題 (一) 67~102
- 田川 孝三 李朝貢物考 103~163
- 宮原 兎一 十五・六世紀朝鮮における地方市 165~184
- 善生 永助 朝鮮在来の商業慣習 185~216
- 丸亀 金作 朝鮮の一古文記 217~221
- 森 克己 日本・高麗来航の宋商人 223~234
- 二宮 啓任 高麗の八開会について 235~251
- 岡田 英弘 高麗宗室世系表 253~274
- 中吉 功 新羅甘山寺石造弥勒・阿弥陀像について 275~288
- 村山 正雄 魏志韓伝に見える蘇塗の一解釈 289~302
- 島本 彦次郎 秋葉隆博士の生涯と業績 303~322
- 森 為三 朝鮮の天然記念物総括 (一、動物編) 323~336
- 上田 常一 朝鮮の理科教育史概説 337~346
- 金沢 庄三郎 塩と味噌 347~391
- 高橋 亨 濟州島名考 393~412
- 鮎貝 房之進 借字攷 (三) 413~454

- 桜井 義之 宝迫繁勝の朝鮮語学書について—附 朝鮮語学書目—
455~465
執筆者紹介 466
- 高橋 盛孝 ウラル・アルタイ語に於ける人称詞について (81)~(97)
- 青山 秀夫 現代朝鮮語における母音調和と中性母音の有無 (49)~
(80)
- Zong, In-sob Korean Novel (1)~(48)

10 (1956/昭和31年12月25日)

- 阿部 吉雄 林羅山の儒学と朝鮮 1~45
- 石原 道博 倭寇と朝鮮人俘虜の送還問題 (二) 47~82
- 森 為三 朝鮮の天然記念物総括 (植物編) 83~112
- 高橋 亨 大覚国師義天の高麗仏教に対する経綸に就いて 113~
147
- 三木 栄 朝鮮医学史及疾病史の刊行について 149~161
- 三品 彰英 ヨンドン神小考—脱解伝説の一側面— 163~177
- 大塚 鐙 芳洲文庫本「朝鮮信使東槎紀行」について 179~187
- アレキサンドル・ド・グヴェーア (田中 秀央 訳) 朝鮮に於けるキリス
ト教伝来報告書 189~238
- 高橋 亨 〈書評〉『서울大学校論文集 人文・社会科学』第一輯~第
三輯 (서울大学校) 239~241
〈彙報〉昭和31年度大会、近着図書、受贈 242~243
- 村上 四男 編 三国史記地理志索引 (二) (11)~(52)

11 (1957/昭和32年12月25日)

- 梅原 末治 古代日鮮間の文物の交流 1~19
- 鄭 万朝 茂亭遺草 21~31
- 金沢 庄三郎 語原雑考 33~41
- 森 為三 朝鮮の天然記念物総括 (続植物・地質・鉱物篇) 43~59

- 三木 栄 「司馬傍目」について一見在「司馬傍目」一覧表— 61
~92
- 宮原 兎一 十五・六世紀朝鮮の雇工について 93~116
- 井上 秀雄 新羅軍制考(上)一職官志軍制の組織を中心として— 117
~149
〈彙報〉第8回朝鮮学会大会予告、朝鮮学会臨時集会、近
着図書、受贈 150
執筆者紹介 150
- 村上 四男 編 三国史記地理志索引(三) 166~151/(53) ~ (68)

12 (1958/昭和33年3月25日)

- 有光 教一 日鮮石剣の比較 1~20
- 今西 春秋 漢清文鑑解説 21~58
- 阿部 吉雄 藤原惺窩の儒学と朝鮮—姜沆の彙抄十六種の新調査にち
なんで— 59~95
- 中吉 功 造像銘のある新羅の鉄仏二種—高麗仏の先駆的彫像—
97~110
- 二宮 啓任 高麗朝の上元燃灯会について 111~122
- 大江 孝男 中期朝鮮語動詞のㄷ~ㄸ語幹に就いて 123~140
- 井上 秀雄 新羅軍制考(下)一職官志軍制の組織を中心として— 141
~171
- 高橋 亨 〈書評〉李丙燾著『斗溪雜筆』(1956年、一潮閣) 173~174
- 高橋 亨 〈書評〉鄭寅晋著『蒼園国学散藁』(1955年、文教社) 174
~181
- 大谷 森繁 〈書評〉前間恭作編『古鮮冊譜』(1944~57年、東洋文庫)
181~184
〈彙報〉昭和32年度大会、近着図書 185
- 村上 四男 編 三国史記地理志索引(四) 196~186/(69)~(79)

13 (1958/昭和33年9月26日)

- 三品 彰英 麻立干の原義を尋ねて 1~25
- 田川 孝三 李朝進上考(上) 27~72
- 鈴木 治 朝鮮半島出土の轡について—附 鐵考— 73~117
- 有井 智徳 高麗朝初期における公田制—特に均田制を中心として—
119~161
- 片山 隆三 衿陽雜録の研究 163~178
- 呂 圭亭(高橋 亨 解説) 荷亭遺作—演本沈青伝— 179~201
- 中村 栄孝 蓬左文庫朝鮮本展観書解説 203~220
- 森田 芳夫 「日本人の朝鮮引揚」に関する文献資料 221~258
- 大谷 森繁 〈書評〉M・C・バックス編『槿域攷 露語文献 (Russian Supplement to the Korean studies Guide)』(1954年、カリフォルニア州立大学極東学院) 259~260
- 〈彙報〉朝鮮学会会員名簿発行、近着図書、昭和33年度大会予告、国内交換雑誌 261~262
- 朝鮮学報総目次 第1輯~第12輯 262~266
- 執筆者紹介 266

14 (1959/昭和34年10月17日) 高橋先生頌寿記念号

- 中山 正善 寿辞 別1~4
- 岸 勇一 序 別1~3
- 例言 別1
- 大谷 森繁・中村 完 共編 高橋亨先生年譜略 別1~13
- 大谷 森繁・中村 完 共編 高橋亨先生著作年表 別15~21
- 高橋 亨 虚応堂集及普雨大師 1~72
- 三木 栄 朝鮮医学教育史—百濟—新羅—高麗—李朝— 73~95
- 田川 孝三 李朝の鷹房と鷹子進上 97~128
- 深谷 敏鉄 朝鮮世宗朝における東北边疆への第二次の徙民入居について 129~144

- 森 為三 金剛山の動植物 145~153
- 二宮 啓任 朝鮮における仁王会の開設 155~163
- 中吉 功 華嚴寺舍利塔彫像攷—附 法藏法師の尺牘— 165~186
- 藤田 亮策 高麗鐘の銘文 187~231
- 宮原 兎一 オランダ人のみた十七世紀の朝鮮 233~243
- 石原 道博 壬辰丁酉倭乱論 245~252
- 宮崎 市定 三韓時代の位階制について 253~280
- 善生 永助 朝鮮の民族性 281~290
- 旗田 巍 高麗時代の白丁—身分・職役・土地— 291~308
- 三上 次男 朝鮮における有文土器の分布とその文化の拡がりについて 309~321
- 岩井 大慧 明史朝鮮伝有頭注日本複製本について 323~347
- 青山 公亮 事大と華化—特に高麗朝のそれについて— 349~356
- 山口 正之 朝鮮文学のフランス西漸—パリ—留学時代の洪鐘宇— 357~362
- 桜井 義之 花房義質代理公使『入京路程概測図』について 363~379
- 河内 良弘 李朝初期の女真人侍衛 381~422
- 阿部 吉雄 日鮮明における主理派主気派の系譜とその特質—困知記・天命図説・自省録をめぐって— 423~442
- 河野 六郎 再び「東国正韻」に就いて 443~462
- 大谷 森繁 東西分党に於ける先輩後輩の対立について 463~476
- 梅原 末治 羅州潘南面の宝冠 477~488
- 有光 教一 慶州月城・大邱達城の城壁下の遺跡について 489~502
- 三品 彰英 日本書紀日韓関係記事考証 503~532
- 岡田 英弘 元の瀋王と遼陽行省 533~543
- 森 克己 日・宋と高麗との私献貿易 545~556
- 中村 栄孝 「右武衛殿」の朝鮮遣使について 557~575
- 末松 保和 高麗四十二都府考略 577~585
- 小泉 顕夫 勸修寺繡帳と高句麗の壁画文様 587~598
- 今西 春秋 天命建元考 599~621
- 今西 春秋 編輯後記 623

Suzuki, Osamu A Concave Mirror of Koryo Dynasty and its
Earlier Phases (17)~(56)

Takahashi, Moritaka Loan Words in Gilyak (1)~(15)
Contents 別(1) ~ (2)

15 (1960/昭和 35 年 4 月 1 日)

- 深谷 敏鉄 高麗足丁・半丁考 1~18
二宮 啓任 高麗朝の恒例法会 19~30
田川 孝三 李朝進上考(中) 31~48
岩井 大慧 明史朝鮮伝有頭注日本複製本についての補遺 49~50
宮原 兔一 〈書評〉田中健夫著『中世海外交渉史の研究』(1959年、東京大学出版会) 51~54
末松 保和 〈書評〉震檀学会編『韓国史』第一巻古代編・第五巻年表(1959年、乙酉文化社) 54~56
金 鍾国 〈書評〉金錫亨著『両班論』(朝鮮民主主義人民共和国科学院歴史研究所編『歴史論文集』第三集所収、1959年) 56~60
〈彙報〉朝鮮学会第10回大会記事 61~75
旗田 巍 〈彙報〉朝鮮史研究会記事 75~76
〈彙報〉会務報告 77
高橋 盛孝 満州トウングス語と日本語 (81)~(91)
Edward W. Wagner The Recommendation Examination of 1519
(1)~(80)

16 (1960/昭和 35 年 7 月 1 日)

- 日野 開三郎 羅末三国の鼎立と対大陸海上交通貿易(一) 1~60
藤田 亮策 朝鮮渉史雑記(一) 61~70
三木 栄 朝鮮の道教医学―「東医宝鑑」から見る― 71~76
坪井 良平 朝鮮鐘の資料補遺 77~101
山口 正之 辛酉(李朝純祖元年一八〇一年)致命者列伝 102~127

- 田川 孝三 李朝進上考（下） 128～166
- 河内 良弘 編 文献紹介 167～188
 〈彙報〉朝鮮学会第11回大会予告、朝鮮学会事務室新設、
 彙報欄拡充についてのお願い、35年2月以降の新入会者、
 退会者、近着交換寄贈図書 189～190
- 高橋 亨 物名考解説 193～198
 【影印】柳僖『物名考』巻一（高橋亨氏所蔵） 199～223
- 一色 於菟四郎 濟州島産家畜における内寄生虫病の発生状況と内寄生虫
 相の特異性一、二について (1)～(35)

17 (1960/昭和35年10月25日)

- 丸亀 金作 高麗と宋との通交問題（一） 1～50
- 金 鍾国 高麗武臣政権の特質に関する一考察—私兵集団と経済的
 基盤を中心として— 51～86
- 日野 開三郎 羅末三国の鼎立と対大陸海上交通貿易（二） 87～116
- 山辺 健太郎 甲申日録の研究 117～142
- 原田 種成 朝鮮版貞観政要註解考 143～155
- 中吉 功 実相寺鉄造薬師如来像小論 156～170
- 鄭 白雲（朴 文国 訳） 朝鮮における鉄器使用の開始について
 171～182
- 四方 博 〈書評〉金錫亨著（末松保和・李達憲共訳）『朝鮮封建時
 代農民の階級構成』 183～188
- 村山 正雄 〈書評〉池内宏著『満鮮史研究（上世第二冊）』 189～190
- 末松 保和 〈書評〉小早川九郎編著『（補訂）朝鮮農業発達史』 190
 ～191
- 末松 保和 〈書評〉朝鮮科学院/中国科学院景印『（李朝）高宗・純宗
 実録』 192～193
- 末松 保和 〈書評〉外務省アジア局監修/霞関会編『現代朝鮮人名辞
 典』 193～194
- 森岡 康 〈書評〉三上次男編『図説世界文化史大系 19 朝鮮・東北

アジア篇』 194~195

- 中村 暎枝 編 文献紹介 196~209
- 村山 正雄 〈彙報〉朝鮮史研究会記事 210
〈彙報〉近着交換寄贈図書、会員消息 210~213
執筆者紹介 213
第16輯掲載 一色氏論文正誤 213
- 今西 春秋 物名考の筆写景印について 214
- 柳 僖 【影印】柳僖『物名考』巻二（高橋亨氏所蔵） 215~242
summaries 巻末

18（1961/昭和36年1月20日）

- 鏗方 貞亮 朝鮮における稲栽培の起原—稲由来説批判— 1~31
- 平井 尚志 沿海州出土の磨製石剣について—朝鮮出土例との比較と
検討— 32~45
- 藤田 亮策 朝鮮渉史雑記（二） 46~57
- 丸亀 金作 高麗と宋との通交問題（二） 58~82
- 中村 栄孝 『月峯海上録』を読んで 82
- 大谷 森繁 朝鮮の逃避思想とその文学 83~108
- 金関 恕 松林寺磚塔発見の遺宝 109~120
- 中村 完 〈批評・紹介〉『影印 朴通事 上』付 金思燁解題 121~132
- 青山 秀夫 〈批評・紹介〉宋枝学編『朝鮮語小辞典』 133~134
- 山口 正之 〈動向〉現下の韓国天主教の動向 135~136
藤田亮策氏の逝去 136
- 大谷 森繁 編 文献紹介 137~144
〈彙報〉朝鮮学会第11回大会、近着交換寄贈図書、四方
博氏寄贈本、会員消息、主な来会者 145~158
【影印】柳僖『物名考』巻三（高橋亨氏所蔵） 159~216
朝鮮学報昭和35年（1960年）度総目次 別1~別3
summaries 巻末

19 (1961/昭和36年4月20日)

- 中村 栄孝 『捷解新語』の成立・改修および『倭語類解』成立の時期
について 1~23
- 深谷 敏鉄 朝鮮世宗朝における東北辺疆への第三次の徙民入居につ
いて 24~54
- 田川 孝三 貢納請負の公認 55~104
- 日野 開三郎 羅末三国の鼎立と対大陸海上交通貿易 (三) 105~137
- ヘンドリック・ハメル 著 (生田 滋 訳) 『朝鮮幽囚記(一)』 138~166
- 秦 弘燮 (大谷 森繁 訳) 新発見南山新城碑小考 167~172
- 末松 保和 (批評・紹介) 普及版『高麗史節要』の刊行 173~175
- 中村 完 編 文献紹介 176~190
- 〈彙報〉 会員消息、近着交換寄贈図書、主な来会者 191
~192
- 第18輯正誤表 192
- 【影印】柳僖『物名考』巻四 (高橋亨氏所蔵) 193~218
- Summaries 巻末

20 (1961/昭和36年4月20日)

- 金 思燁 歌辞文学の展開 1~74
- 日野 開三郎 羅末三国の鼎立と対大陸海上交通貿易 (四) 75~116
- 酒井 改蔵 音の転化による朝鮮地名の考察 117~125
- 執筆者紹介 125
- 今西 春秋 天命建元考補 126~129
- 今西 春秋 Soki について 129~130
- 玄 昌厦 (批評・紹介) 金時習原著/李家源訳注『金驚新話』 131
~136
- 河内 良弘 (批評・紹介) H・N・アレン著/桜井義之訳『朝鮮近代外
交史年表』 134~135
- 最近の朝鮮関係論文 135

- 河内 良弘 編 文献紹介 136~145
 〈彙報〉会員消息、学報の体裁について、近着交換寄贈図書、大会予定 146~148
 故藤田亮策先生追悼特輯（肖影/筆蹟/弔辞：岸勇一/藤田亮策先生略年譜/藤田亮策先生著作目録：朝鮮学会編集部・日本考古学協会藤田記念事業小委員会） 149~178
 【影印】柳僖『物名考』巻五・正誤・攷正（高橋亨氏所蔵）
 179~212
- 中村 完・中村 暎枝 編 物名考索引 (5)~(40)
 金 思燁 「みかぐらうた」の韓語訳 (4)
 Summaries 巻末

21/22 (1961/昭和 36 年 10 月 23 日) 扶桑権域学術文化交流特集

- 中山 正善 序 別 1~4
 執筆者紹介 別 6
- 那波 利貞 月峯海上録攷釈 1~65
 三木 栄 日鮮中・医学交流史鳥瞰 66~79
 坪井 良平 無銘朝鮮鐘資料 80~117
 日野 開三郎 統和初期に於ける契丹聖宗の東方経略と九年の鴨緑江口築城 118~157
 会告一（会員消息） 157
- 善生 永助 日韓合邦前後における朝鮮の人口集落 158~214
 石原 道博 万曆東征論 215~227
 二宮 啓任 高麗朝の齋会について 228~236
 村上 四男 金官国の世系と卒支公（率友公） 237~264
 深谷 敏鉄 朝鮮世宗朝における東北辺疆への第四次の徙民入居について 265~294
- 有井 智徳 李朝補充軍考 295~338
 中吉 功 高麗の一銅製仏龕について 339~347
 渡部 学 李朝中期の書堂教育の形態について—「冶谷（趙克善）先

- 生集」を通して— 348~369
- 玄 昌厦 菊初李人植の開化思想と文学 370~392
- 大塚 鏡 癸未活字について 393~402
- 大里 武八郎 手記(内藤 戊申 編) 内藤湖南・北韓吉林旅行日記
403~429
- 崔 虎鎮 旧来韓国農村における共同労働について 430~450
会告二(近着交換寄贈図書) 450
- 旗田 巍 高麗の「武散階」—郷吏・耽羅の王族・女眞の酋長・老兵・
工匠・樂人の位階— 451~482
- 山口 正之 アンペール主教(一八三八年)の書翰について 483~494
- 三田村 泰助 朝鮮側史料より見た清初の疆域—主として鴨緑江方面—
495~513
- 青山 公亮 南満・北鮮史の序説 514~521
- 森 克己 日宋交通と耽羅 522~531
- 中村 完 「朴通事 上」の漢字の表音について 532~566
- 金 鍾国 高麗武臣政権と僧徒の対立抗争に関する一考察 567~
589
- 河内 良弘 幹朶里族に於ける奴碑の供給源問題—幹朶里族の非侵掠
性— 590~627
- 小泉 顕夫 新羅時代の特殊の墓制 628~641
- 井上 秀雄 三国史記地理志の史料批判 642~672
- 木下 礼仁 日本書紀にみえる百濟史料の史料的価値について 673~723
- 鈴木 治 奈良博蔵螺鈿黒漆異形鞍について—朝鮮鞍考— 724~746
- 李 恵求 韓国に於ける左方楽と右方楽 747~772
- 四方 博 朝鮮近時の經濟情勢 773~816
- 森岡 康 仁祖朝に於ける告尊長論に就て 817~843
- 河野 六郎 古代朝鮮語に於ける母音間のロの変化 844~849
- 石田 茂作 日鮮につながる矩形の研究—特に裏尺矩形について—
850~855
- 李 丙燾 韓国漢文学上の 杜少陵 856~881
- 李 相殷 휴매니즘에서 본 儒敎思想—現代思潮와 「仁」의 人性觀—

882~915

会告三 915

- 今西 春秋 編輯後記 916
今西 春秋 NINGGUTA 考 (147)~(180)
榎本 杜人 楽浪古墳の双印—「漢委奴国王」金印の再検討(前説)—
(132)~(146)
元 炳旣・禹 漢貞 韓国産嚙齒類에 관한 分類学的研究 (第一報)
(106)~(131)
黄 明燁・元 炳旣 韓国産鳥類数種の 採集標本에 대하여 (98)~(105)
在庫既刊号 (97)
金 亨奎 「-(오/우)-」挿入母音攷 (64)~(97)
劉 昌惇 ㄱ>ㅇ考究 (46)~(63)
kang, Yung-sun & Cho, Wan-kyoo Biological Studies of Korean
Population (22)~(45)
Choe, Sang-su The Descent and the Evolution of the Korean Puppet
Play (12)~(21)
Takahashi, Moritaka On the Numeral Terms in Far East (1)~(11)
Summaries 卷末/別(1)~(44)

23 (1962/昭和37年4月20日)

- 洪 起文 朝鮮에서의 漢字語彙에 대하여 1~36
田村 洋幸 鮮初倭寇の系譜について 37~72
佐藤 俊彦 剪燈新話、伽婢子及び金鰲新話の比較研究 73~82
李 大熙 李朝時代の漕運制について 83~102
ヘンドリック・ハメル 著(生田 滋 訳) 『朝鮮幽囚記(二)』 103~132
李 丙燾 旧三国の墓制の二三について—特に四神図と護石・床石な
どの発達について—(第12回大会公開講演要旨) 134~139
執筆紹介 139
石原 道博 月峰海上録について 140~141
今西 龍 遺稿 朝鮮事情傍聴筆記 142~154

- 中村 完 (批評・紹介) 最近の朝鮮語辞典について (一) 155~163
 那波 利貞 朝鮮学報第 21・22 号所掲『月峯海上録攷釈』の誤植・脱落の訂正表 163
- 中村 暎枝 編 文献紹介 164~177, 133
 第 21・22 輯正誤表 177, 192
 (彙報) 朝鮮学会第 12 回大会、会員消息、近着交換寄贈図書 178~191
- 今西 春秋 編輯記 191
 李 相殷 「휴매니즘에서 본 儒教思想—現代思潮와 「仁」의人性觀—」
 正誤表 193~194
 【影印】鄭希得『月峯海上録』上 (故今西龍博士所藏) 195~238
 朝鮮学報昭和 36 年 (1961 年) 度総目次 別 1~4
 Summaries 卷末

24 (1962/昭和 37 年 7 月 20 日)

- 三品 彰英 百濟記・百濟新撰・百濟本記について 1~18
 小林 行雄 鉄盾考 19~31
 村上 四男 新羅王都考略 32~46
 中村 栄孝 「海上録」に関する私信より 46
 井上 秀雄 古代朝鮮の文化境域—三国時代地名語尾からみて— 47~83
 会員近著 83
- 笠井 倭人 三国遺事百濟王曆と日本書紀 84~111
 上田 正昭 大化前代における朝鮮派遣氏族の研究 112~129
 執筆者紹介 129
- 玄 昌厦 高麗歌謡試論 130~159
 第 23 輯正誤表 159
- 湯浅 晃 近代日朝関係の一考察—ブルジョアジーの対朝鮮政策を中心として— 160~182

青山 秀夫	同義語에 對한 一考察 183~199 最近の朝鮮關係論文 199
井上 秀雄	〈批評・紹介〉三品彰英著『日本書紀日鮮關係記事考証』 上巻 200~203
安井 良三	〈批評・紹介〉金載元・伊武炳著『感恩寺』(韓国国立博物館 特別調査報告第二冊) 204~209
横田 健一	〈批評・紹介〉三上次男著『満鮮原始墳墓の研究—東北ア ジア史研究第一—』 210~215
窪 徳忠	〈批評・紹介〉李能和著『韓国道敎史』 216~220
深谷 敏鉄	〈批評・紹介〉内藤雋輔著『朝鮮史研究』(東洋史研究叢刊之十) 220~222
金 思燁	〈批評・紹介〉李相宝著『改稿朴蘆溪研究』 222~223
今西 春秋	李能和氏の未刊稿本について 224
井上 秀雄	〈彙報〉朝鮮研究会のあゆみ 225~228
木下 礼仁	〈彙報〉三国遺事研究会小史 228~229
江畑 武	〈彙報〉日本書紀研究会紹介 229~231 〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書、大会予定 232~234
	Summaries 卷末

25 (1962/昭和37年10月13日)

李 弘植	「三国史記」に現れた讖緯的記事 1~22
武田 幸男	淨兜寺五層石塔造成形止記の研究 (I) —高麗顯宗朝にお ける若木郡の構造— 23~70 執筆者紹介 70
金 鍾国	高麗時代の郷吏について 71~122
今西 春秋	李能和氏の未刊稿本について (再び) 122
末松 保和	「高麗式目形止案」について 123~132
田中 健夫	「吉見」の図書について 133~140 最近の朝鮮關係論文 140
朴 菑熙	静嘉堂文庫所蔵「輿地便覽」について 141~147

- 石原 道博 ふたたび月峰海上録について 147
- 中村 栄孝 朝鮮官版の内賜記の国王印について 148~153
第24輯正誤表 153
- 大塚 鏡 癸未活字について追記 154~155
会員近著 155
- 田川 孝三 〈批評・紹介〉国史編纂委員会刊『影印備辺司謄録』 156
~158
- 武田 幸男 〈批評・紹介〉朴時亨著『朝鮮土地制度史』上・中 158
~165
- 旗田 巍 〈批評・紹介〉朝鮮科学院歴史研究所編(朴慶植ほか訳)『朝鮮通史』上巻 165~166
- 末松 保和 〈批評・紹介〉国学研究論著総覧刊行会編『国学研究論著総覧』 167~168
- 末松 保和 〈批評・紹介〉Asiatic Research Center, Korea University
編『Bibliography of Korean Studies』 168~169
- 中村 完 最近の朝鮮語辞典について(二) 169~179
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 180~181
- 今西 春秋 ミョウチャン考 182
【影印】鄭希得『月峯海上録』下(故今西龍博士所蔵) 183
~224
- 中村 栄孝 『月峯海上録』について 225~243
Summaries 巻末

26 (1963/昭和38年1月20日)

- 前間 恭作 開京宮殿簿 1~55
- 森岡 康 贖還被擄婦人の離異問題について 56~93
- 池上 二良 ふたたび満州語の諺文文献について 94~100
- 鏑木 徳二 朝鮮の森林樹木考 101~110
第25輯正誤表 110
- 塚本 勲 〈批評・紹介〉石原六三・青山秀夫共編『朝鮮語の学習』

111~113

会員近著 113

- 上田 常一 〈彙報一〉森為三先生の追憶 114~123
〈彙報二〉朝鮮学会第13回大会記事、東京天理教館東亜
の古瓦埴展示会 124~137
- 田川 孝三 〈彙報二〉東洋文庫貴重書展示会 137~152
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 153~155
最近の朝鮮関係論文 155
執筆者紹介 155
- 中村 完 編 文献紹介 156~170
【影印】鄭希得『月峰海上録』補影（東京大学図書館所蔵）
171~182
朝鮮学報昭和37年（1962年）度総目次別 別(1)~(6)
- 村山 七郎 高句麗語と朝鮮語との関係に関する考察 (25)~(34)
- 金 用珩 미송리 유적의 고고학적 위치—년대론을 중심으로
하여— (1)~(24)
- 今西 春秋 『月峰海上録』の取上げられたいきさつ 別(8)
Summaries 巻末

27 (1963/昭和38年4月20日)

- 坪井 良平 朝鮮鐘の新資料 1~16
第26輯正誤表 16
- 金 思燁 元暁大師と願往生歌 17~61
- 田川 孝三 庚辰字本孝經諺解と小学諺解 62~86
【影印】『孝經諺解』（尊經閣文庫所蔵） 87~106
- 井上 秀雄 〈批評・紹介〉崔常寿著『韓国の歳時風俗』 107~110
- 井上 秀雄 〈批評・紹介〉崔常寿著『河回仮面劇의 研究』 110~113
- 井上 秀雄 〈批評・紹介〉崔常寿著『韓国紙鳶의 研究』 114~116
最近の朝鮮関係論文 116
〈彙報一〉会員消息、近着交換寄贈図書 117~118

	執筆者紹介 118
	藤田亮策先生著作目録追補 119
金 思燁	〈彙報二〉韓国の民謡楽譜八曲 (106)~(121)
Lee, Ki-moon	A Genetic View on Japanese (94)~(105)
	会員近著論文 (93)
菅野 裕臣	「捷解蒙語」のモンゴル語について (65)~(93)
中村 完	蒙山法語の中期朝鮮語 (26)~(64)
梅田 博之	朝鮮語諸方言の基礎語彙統計学的研究 (1)~(25)
	Summaries 卷末

28 (1963/昭和 38 年 7 月 20 日)

武田 幸男	高麗時代の「百姓」 1~34
中村 完	続ミョウチャン考 34
江原 正昭	高麗の州県軍に関する一考察—女真人の高麗軍への編入 を中心にして— 35~74
	第 27 輯正誤表 74
朴 宗根	茶山・丁若鏞の土地改革思想の考察—耕作「能力に応じた」 土地分配を中心として— 75~111
宮原 兎一	李朝の軍役制度「保」の成立 112~131
武田 幸男	〈批評・紹介〉朝鮮民主主義人民共和国科学院歴史研究所 編『朝鮮通史』上 132~139
	最近の朝鮮関係論文 139, 141
江原 正昭	〈批評・紹介〉鄭鎮石・鄭聖哲・金昌元共著 (宋枝学訳)『朝 鮮哲学史』 139~141
徐 台洙	〈批評・紹介〉金錫亨著『封建支配階級に反対する農民の 闘争—高麗篇—』 142~144
	執筆者紹介 144
中村 暎枝 編	文献紹介 145~155
朴 宗根	朝鮮史研究会の近況 156~157
旗田 巍	日本朝鮮研究所のあゆみ 157~158

〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書、大会お知らせ 158
～160

Summaries 卷末

29 (1963/昭和38年10月19日)

- 宮崎 市定 宣祖時代の科挙恩榮宴図について 1～24
会員近著論文 24, 170
- 三木 栄 明治十六～十九年仁川日本医院記録こつて 25～72
内藤 雋輔 壬辰・丁酉役における被擄朝鮮人の刷還問題について—朝鮮史料による— (上) 73～99
第27輯正誤表 補 99
- 中吉 功 新羅彫刻覚書 100～134
長 正統 景轍玄蘇について—外交僧の出自と法系— 135～147
三品 彰英 撰 三国遺事考証—駕洛国記 (一) — 148～170
会員近著 170
最近の朝鮮関係論文 170
- 中村 栄孝 〈批評・紹介〉三木栄著『朝鮮医学史及疾病史』 171～172
玄 昌厦 〈批評・紹介〉金思燁著『校註解題 春香伝』 172～175
中村 完 〈批評・紹介〉許雄・李江魯共著『註解 月印千江之曲』上
175～182
- 今西 春秋・中村 栄孝 虚応堂集版式問答 182
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 183～184
執筆者紹介 184
【影印】申綽『石泉遺集』前集 卷一之三 185～249
- 稲葉 誠一 石泉遺集解題 250～257
Summaries 卷末

30 (1964/昭和39年1月20日)

- 仁井田 陞 高麗および李氏朝鮮の財産相続法と中国法 1～10

- 最近の朝鮮関係論文 10
- 三上 次男 楽浪郡社会の支配構造 11~61
執筆者紹介 61
- 有井 智徳 李朝初期の徭役（上） 62~106
第28輯正誤表 10
- 三品 彰英 撰 三国遺事考証一駕洛国記（二） — 107~137
- 末松 保和 〈批評・紹介〉 藤田亮策著『朝鮮学論考』 138~139
- 旗田 巍 〈批評・紹介〉 関東大震災のときの朝鮮人虐殺に関する諸
研究 139~140, 172
〈彙報〉 朝鮮学会第14回大会記事、会員消息、近着交換
寄贈図書 141~152
【影印】 申綽『石泉遺集』後集 卷一・二 153~166
- 稲葉 誠一 石泉遺集解題（二） 167~171
会員近著論文 172
- 中村 栄孝・田川 孝三 宮崎教授の恩栄宴図解説・科挙賜宴図 172
朝鮮学報昭和38年（1963年）度総目次 別1~4
Summaries 巻末

31（1964/昭和39年4月23日）

- 三品 彰英 荒田別・田道の伝承—帰化人と上毛野氏— 1~24
- 村上 四男 金官国補遺 25~52
- 梅原 末治 平壤平川里出土の金銅半跏思惟像 53~57
- 有井 智徳 李朝初期の徭役（下） 58~101
- 浜田 敦 〈批評・紹介〉 京都大学文学部国語学国文学研究室編『隣
語大方』『捷解新語文釈』 102~105
最近の朝鮮関係論文 105
- 中村 暎枝 編 文献紹介 106~119
執筆者紹介 119
〈彙報〉 会員消息、近着交換寄贈図書、韓国国立図書館よ
り寄贈、朝鮮科学院図書館より寄贈 120~121

朝鮮学会新刊 121, 別4

- 今西 春秋 [高橋亨先生御夫妻近影] 122
【影印】申綽『石泉遺集』後集 卷三 123~181
- 稲葉 誠一 石泉遺集解題 (三) 182~185
第29輯正誤表 185
- 河野 六郎 朝鮮漢字音の研究 (1)~(47)
Summaries 巻末

32 (1964/昭和39年7月20日)

- 北村 秀人 高麗に於ける征東行省について 1~73
執筆者紹介 73
- 森岡 康 丁卯の乱後に於ける贖還問題 74~111
〈彙報〉朝鮮学会第15回大会記事、会員消息、近着交換
寄贈図書 112~129
第30輯正誤表 130
【影印】申綽『石泉遺集』後集 卷四 131~184
- 稲葉 誠一 石泉遺集解題 (四) 185~187
- 河野 六郎 朝鮮漢字音の研究Ⅱ (47)~(115)
New Issue 別(2)
Summaries 巻末

33 (1964/昭和39年10月20日)

- 日野 開三郎 宋初女真の山東來航の大勢とその由来 1~47
- 内藤 雋輔 壬辰・丁酉役における被擄朝鮮人の刷還問題について—朝鮮史料による— (中) 48~103
第31輯正誤表 103
- 長 正統 『朝鮮送使国次之書契覚』の史料的性格 104~116
- 坪井 良平 朝鮮鐘の新資料補遺 117~124
- 内藤 湖南 手記・内藤 戊申 編 游清第四記—京城奉天調査旅行—

125~140

- 武田 幸男 〈批評・紹介〉林建相著『朝鮮の部曲制に関する研究』 141
~150
- 北村 秀人 〈批評・紹介〉金載洪著『元侵略者に反対した高麗人民の
闘争』 150~155
- 岡崎 精郎 〈批評・紹介〉延世大学校東方学研究所編『高麗史索引』
155~158
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 159~160
執筆者紹介 160
【影印】申綽『石泉遺集』後集 卷五・六 161~213
- 稲葉 誠一 石泉遺集解題（五） 214~215
- 河野 六郎 朝鮮漢字音の研究Ⅲ (115)~(161)
Summaries 卷末

34 (1965/昭和40年1月20日)

- 三木 栄 朝鮮牛疫史考 1~28
第32輯正誤表（一） 28
- 田中 健夫 鎖国成立期日朝関係の性格 29~62
- 森 克己 鎌倉時代の日麗交渉 63~73
- 内藤 雋輔 壬辰・丁酉役における被擄朝鮮人の刷還問題について—朝
鮮史料による—（下） 74~140
最近の朝鮮関係論文 140
- 大谷 森繁 〈批評・紹介〉大韓民国芸術院編刊『韓国芸術総覧 概観篇』
141~145
執筆者紹介 145
- 中村 暎枝 編 文献紹介 146~163
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書、本年度幹事会協議
結果 164~165
第32輯正誤表（二） 166
【影印】申綽『石泉遺集』後集 卷七・八 167~226

- 稲葉 誠一 石泉遺集解題 (六) 227~230
 今西 春秋 [易次故について] 230
 朝鮮学報昭和 39 年 (1964 年) 度総目次 別 1~3
 Summaries 卷末

35 (1965/昭和 40 年 5 月 20 日)

- 浜田 敦 主格助詞が成立の過程 1~21
 ヘンドリック・ハメル 著 (生田 滋 訳) 『朝鮮幽囚記 (三・完)』 22
 ~47
 中村 暎枝 編 文献紹介 48~52
 執筆者紹介 52
 第 33 輯正誤表 52
 〈彙報〉 会員消息、近着交換寄贈図書 53~54
 井上 秀雄 〈彙報〉 朝鮮史研究会関西西部会の発足 54
 内藤 雋輔 編 〈資料〉 僧 慶念『朝鮮日々記』 55~154
 内藤 雋輔 僧 慶念の「朝鮮日々記」について 155~167
 最近の朝鮮関係論文 168
 河野 六郎 朝鮮漢字音の研究IV (161)~(208)
 Summaries 卷末

36 (1965/昭和 40 年 10 月 9 日)

- 三品 彰英 上代における吉備氏の朝鮮経営 1~12
 三品 彰英 『百濟本記』の撰述年代について 12
 有光 教一 釜山岩南洞貝塚土器 13~24
 最近の朝鮮関係論文 24
 小林 行雄 神功・応神紀の時代 25~47
 村上 四男 新羅の外位と来投者への授位 48~61
 執筆者紹介 61
 渡部 学 燕巖・朴趾源の教育観—李朝教育十八世紀相へのその位置

づけのための試論— 62~92

- 三田村 泰助 清初の疆域・統一申忠一の建州紀程図記を中心として—
93~130
- 坪井 良平 朝鮮鐘の新資料補遺 (其二) 131~137
- 今西 春秋 張儉・張応魁という画工二名のこと 138
- 長 節子 「おふせん」論考—孤草島釣魚に関する一考察— 139~
147
- 大友 信一 〈批評・紹介〉京都大学文学部国語学国文学研究室編『全
一道人の研究』 148~151
- 岩村 登志夫 〈批評・紹介〉ヴェ・イ・シパエフ著『日本帝国主義の朝
鮮植民地隷属化—一八九五—一九一七年』 151~156
- 中瀬 寿一 〈批評・紹介〉竹内好編『アジア主義』—新植民地主義的
進出のモラリッシュ・エネルギーとしての現代的機能—
156~167
- 安井 良三 〈批評・紹介〉金元竜著『新昌里甕棺墓地』(国立ソウル大
学校考古人類学叢刊第一冊) 167~171
- 宮原 兎一 〈彙報一〉韓国見聞記 172~180
- 宮原 兎一 〈彙報一〉山口正之先生の思出 180~182
- 内藤雋輔: 壬辰・丁酉役における被擄朝鮮人の刷還問題に
ついて (第 29、33、34 輯所収) 正誤表 182
- 有井 智徳 〈彙報二〉朝鮮史研究会第 2 回大会概報 183~191
- 〈彙報二〉会員消息、近着交換寄贈図書 191~193
- 文献紹介 193
- 今西 春秋 契丹字銅印 194
- 菅野 裕臣 現代朝鮮語のリエーションについて (21)~(30)
- 劉 昌惇 硬音史考究 (1)~(20)
- Summaries 巻末

37/38 合併号 (1966/昭和 41 年 1 月 26 日) 天理教教祖 80 年記念号

岸 勇一 序 巻頭

- 中山 正善 親神考序説 別 1~38
- 青山 公亮 漢代の楽浪郡と其の縁辺 1~17
- 三品 彰英 高句麗王暦の一こま—百濟王暦の問題に連関して— 18
~27
- 村上 四男 新羅と小高句麗国 28~72
- 中吉 功 新羅小金銅仏—特に観音・勢至両菩薩像について— 73
~96
- 森 克己 日麗交渉と刀伊賊の来寇 97~107
- 丸亀 金作 高麗の大蔵経と越後安国寺とについて 108~123
- 高橋 盛孝 壬辰倭乱の伝説 124~142
- 石原 道博 壬辰丁酉倭乱と戚継光の新法 143~171
〈会告〉会員消息、近着交換寄贈図書 171, 224, 404, 471
- 内藤 雋輔 壬辰・丁酉役における謂ゆる「降倭」について 172~224
- 森岡 康 許博の疏文と贖還批判(上) 225~253
文献紹介 253
- 渡部 学 沢堂・李植の教育観(上)—李朝教育転回への開扉— 254
~269
- 窪 徳忠 李朝の三尸信仰 270~295
- 大塚 鏡 鮮籍備考 296~315
- 佐伯 富 清代同治朝における郷勇の撤廃問題 316~327
- 佐伯 富 石を蒐集する趣味 327
- 内藤 湖南 述・内藤 戊申 編 日韓の開闢説 328~338
- 内藤 戊申 内藤湖南朝鮮史関係文献目録 339
- 大谷 森繁 「雲英伝」小考 340~370
- 日野 開三郎 宋初女真の山東来航と貿易 371~404
- 鈴木 治 高麗・契丹・満州鞍について 405~438
- 神田 信夫 『満文老檔』に見える毛文竜等の書簡について 439~458
最近の朝鮮関係論文(一)(二) 458, 295
- 河内 良弘 温河衛考—朝鮮史料による明代満州歴史地理考証— 459
~471

- 酒井 改蔵 朝鮮語の観察 472~487
執筆者紹介 487
- 今西 春秋 編輯後記 488
次号(第39・40合併号)予告 (56)
- 梅田 博之・金 東俊 韓国語の文章中の母音の分析 (31)~(56)
- 劉 昌惇 数詞史考究 (1)~(30)
Summaries 卷末

39/40 合併号 (1966/昭和41年4月23日) 天理教教祖80年祭記念号・続

- 末松 保和 旧三国史と三国史記 1~9
- 大坂 金太郎 掛陵考 10~17
- 武田 幸男 高麗・李朝時代の邑吏田 18~41
- 有井 智徳 李朝初期の戸籍法について 42~93
- 渡部 学 沢堂・李植の教育観(下)―李朝教育転回への開扉― 94
~119
執筆者紹介 119
- 田中 健夫 朝鮮・琉球間における中世の対馬 120~151
- 中村 栄孝 朝鮮の日本通信使と大坂 152~181
- 長 節子 対馬島宗氏領国支配の発展と朝鮮関係諸権益 182~209
- 安田 章 苗代川の朝鮮語写本類について―朝鮮資料との関連を中心― 210~237
- 森岡 康 許博の疏文と贖還批判(下) 238~268
- 宮原 兎一 西欧人のみた天道教―朝鮮近代史の一側面― 269~278
- 梶村 秀樹 北朝鮮における農業協同化運動(1953~58年)について
の一考察 279~321
- 岡崎 精郎 朝鮮寺調査記―中間報告として― 322~337
〈会告〉会員消息 338
- 青山 秀夫 朝鮮語の色彩形容詞について 339~367
- 今西 春秋 清文鑑―単体から五体まで― (121)~(163)
文献紹介 (120)

- 長田 夏樹 朝鮮語一音節名詞の史的比較言語学的考察 (74)~(120)
最近の朝鮮関係論文 (73)
- 中村 拓 朝鮮に伝わる古きシナ世界地図 (1)~(73)
Summaries 巻末

41 (1966/昭和41年10月8日)

- 武田 幸男 高麗初期の官階—高麗王朝確立過程の一考察— 1~50
最近の朝鮮関係論文 51
- 長 正統 中世日鮮関係における巨曾使の成立 52~86
- 坪井 良平 朝鮮鐘の新資料補遺 (其三) 87~92
- 内藤 雋輔 「朝鮮日々記」追考并に正誤 93~95
- 坪井 良平 〈批評・紹介〉趙奎東編著『韓國의 梵鐘』 96~97
- 武田 幸男 〈批評・紹介〉末松保和著『青丘史草 第一』 97~100
- 青山 秀夫 〈批評・紹介〉小倉進平著・河野六郎補注『増訂補注朝鮮語学史』 100~103
- 三木 栄 〈批評・紹介〉慶熙大学校医科大学刊『医方類聚』 103
~104
- 黒田 省三 〈批評・紹介〉中村栄孝著『日鮮関係史の研究』上 104
~115
〈彙報〉朝鮮学会第16回大会 116~122
- 宮原 兔一 〈彙報〉朝鮮史研究会第3回大会 122~123
〈彙報〉会報(幹事会協議結果、会員消息、近着交換寄贈
図書) 123~126
第37・38輯正誤表 126
執筆者紹介 (82)
- Albert Mohr, C. S. Chard, L. L. Sample (岡田 宏明 訳) 朝鮮新
石器時代初期の土器編年に関する資料 (73)~(82)
- 河野 六郎 朝鮮漢字音の研究V 資料音韻表 I (1)~(70)
Summaries 巻末

42 (1966/昭和42年1月20日)

- 那波 利貞 明和元年の朝鮮国修好通信使団の渡来と我国の学者文人との翰墨上に於ける応酬唱和の一例に就きて 1~48
- 那波 利貞 題明和元年朝鮮修好通信使渡来記詩五首 48
- 船越 昭生 ウイットセンの一地図にあらわれた長白山—その基礎資料をめぐる— 49~82
- 浜中 昇 麗末鮮初の閑良について 83~103
第36、37・38、39・40輯正誤表 104
- 長 節子 朝鮮役における明福建軍門の島津氏工作—『錦溪日記』より— 105~112
- 有井 智徳 〈批評・紹介〉田川孝三著『李朝貢納制の研究』 113~129
- 岡崎 精郎 〈批評・紹介〉阿部吉雄著『日本朱子学と朝鮮』 129~132
- 宮原 兔一 〈批評・紹介〉韓基彦著『韓国教育史』 132~134
文献紹介 134
- 青山 秀夫・井上 秀雄 〈彙報一〉朝鮮学会第17回大会記事 135~172
- 大谷 森繁・河内 良弘・中村 完・中村 栄孝 〈彙報一〉第17回大会資料展示目録 173~192
〈彙報二〉会報(会員消息、近着交換寄贈図書) 193~194
執筆者紹介 194
- 河野 六郎 朝鮮漢字音の研究VI 資料音韻表II (1) ~ (2), (71) ~ (140)
Summaries 巻末

43 (1967/昭和42年5月20日)

- 近江 昌司 伯耆国駄経寺址出土鬼板の源流—新羅時代に於ける一類の鬼板— 1~22
- 今井 啓一 帰化人系と郡・郡領 23~47
最近の朝鮮関係論文 48
- 小林 茂 徳川時代における朝鮮通信使の助郷問題—淀藩の場合を

- 中心として— 49~82
- 権 寧旭 大邱地方における経済的動向—日本帝国主義による植民地経済への編成過程— 83~106
- 坪井 良平 朝鮮鐘の新資料補遺 (其四) 107~120
- 坪井 良平 朝鮮鐘の重量に就て 120
- 大坂 金太郎 新羅花郎の誓記石 121~128
第41輯正誤表 128
- 宮原 兎一 〈動向〉李朝後期の実学についての研究動向 129~150
- 榎本 杜人 〈批評と紹介〉梅原末治・藤田亮策編著『朝鮮古文化綜鑑』 151~160
- 室賀 信夫 〈批評と紹介〉川上健三著『竹島の歴史地理学的研究』 160~165
- 藤村 道生 〈批評と紹介〉山辺健太郎著『日韓併合小史』『日本の韓国併合』 165~171
- 旗田 巍 〈批評と紹介〉朝鮮民主主義人民共和国社会科学院歴史研究所編 (日本朝鮮研究所訳)『朝鮮文化史』上・下 172~176
〈彙報〉会員消息、新着交換寄贈図書、昭和41年度幹事会協議事項 177~178
執筆者紹介 178
- 河野 六郎 朝鮮漢字音の研究Ⅶ 資料音韻表Ⅲ (1) ~ (2), (141) ~ (188)
- 中村 完 諺文文献史における英・正時代について (1)~(30)
Summaries 巻末

44 (1967/昭和42年5月20日)

- 熊谷 宣夫 朝鮮仏画徴 1~114
- 内藤 雋輔 文禄・慶長役における被虜朝鮮人の遺聞について 上 115~187
最近の朝鮮関係論文 188, 192

- 大坂 金太郎 朝鮮慶州出土の彫三島厨子に就て 189~192
- 宮原 兔一 〈批評と紹介〉 泉靖一著『濟州島—東京大学東洋文化研究所報告—』 193~194
 〈彙報〉 会員消息、第18回大会予告 195~196
 執筆者紹介 196
 【影印】 徐有桀『種譜』(天理図書館所蔵) 197~212
- 篠田 統 『種譜』と朝鮮の甘藷 213~226
- 河野 六郎 朝鮮漢字音の研究Ⅷ 資料音韻表Ⅳ 〈1〉 ~ 〈2〉, (187) ~ (240)
 Summaries 卷末

45 (1967/昭和42年10月7日)

- 榎本 杜人 小場恒吉摸「漆奩彩絵」 巻頭
- 中村 栄孝 前近代アジア外交史上の徳川政権—「日本国大君」外交の成立とその終末— 1~20
- 鈴木 靖民 金順貞・金崑論—新羅政治史の一考察— 21~38
- 二宮 啓任 朝鮮の仏舍利について 39~55
 最近の朝鮮関係論文 56
- 大谷 森繁 李朝小説の覚書(一)—主に読者に関する考察— 57~69
- 井上 秀雄 朝鮮史研究会関西西部会の複印事業 70, 132
- 大坂 金太郎 在鮮回顧十題 71~110
- 今西 春秋 在鮮回顧十題追記一・追記二 大坂氏略歴 110
- 佐伯 有清 〈批評と紹介〉 上田正昭著『帰化人』 111~114
- 大谷 森繁 〈批評と紹介〉 末松保和著『青丘史草 第二』 114~118
- 中村 完 〈批評と紹介〉 李丙疇編校『老朴集覽考』 118~124
- 菅野 裕臣 天理大学朝鮮学科研究室編『現代朝鮮語辞典』 124~128
- 青山 秀夫 三つの Japanese-Korean Dictionary 128~131
- 中村 完 金沢庄三郎の朝鮮学 133~136
- 青山 秀夫 斎藤辰雄氏の逝去 137~138
 〈彙報〉 会員消息、近着交換寄贈図書 139~140

執筆者紹介 140

宋 希璟 撰 【影印】宋希璟撰『老松堂日本行録』上 (井上周一郎氏所蔵)
141~238

中村 栄孝 『老松堂日本行録』(井上本)の景印によせて 239~242
Summaries 巻末

朝鮮学報昭和40年(1965年)度総目次 別1~5

46 (1968/昭和43年1月20日)

榎本 杜人 小場恒吉摸「漢始元二年銘漆耳杯」 巻頭

梅原 末治 多紐細紋鏡の再検討 1~23

最近の朝鮮関係論文 24

榎本 杜人 咸北先史遺跡の調査(一) —青丘考古記— 25~44

榎本 杜人 先史の両脚器 44

岡崎 敬 「夫祖歳君」銀印をめぐる諸問題 45~60

崔 敬洛 第一次甲午更張攷—『高宗実録』から見た制度・改革内容
とその運営— 61~104

善生 永助 開城の商人と商業慣習 105~124

旗田 巍 〈批評と紹介〉金竜徳著『韓国史の探求』 125~128

増田 精一 〈批評と紹介〉三上次男・小山富士夫編『世界美術全集 18
朝鮮』 128~130

大谷 森繁 高橋副会長の逝去をいたむ 131~132

宮原 兎一 〈彙報一〉朝鮮学会第18回大会記事 133~152

〈彙報二〉会員消息、役員委嘱について、新着交換寄贈図
書 153~154

執筆者紹介 154

宋 希璟 撰 【影印】宋希璟撰『老松堂日本行録』下 (井上周一郎氏所蔵)
155~214

Summaries 巻末

朝鮮学報昭和41年(1966年)度総目次 別1~4

47 (1968/昭和43年5月20日)

- 榎本 杜人 小場恒吉摸「金銀平文漆奩」 巻頭
井上 秀雄 新羅朴氏王系の成立—骨品制の再検討— 1~36
中村 栄孝 清太宗の南漢山詔諭に見える日本関係の条件—十七世紀における東アジア国際秩序の変革と日本— 37~84
- 宮崎 市定 欽欽新書解題 85~92
榎本 杜人 咸北先史遺跡の調査 (二) —青丘考古記二— 93~112
坪井 良平 朝鮮鐘の新資料補遺 (其五) 113~132
村上 四男 〈動向〉第27回国際東洋学会議に参加して 133~152
最近の朝鮮関係論文 152
執筆者紹介 152
- 中村 完 〈批評と紹介〉山口正之著『朝鮮西教史』 153~155
宮原 兎一 〈批評と紹介〉金兩基著『朝鮮の仮面 I・II・III』『朝鮮の芸能』 156~159
- 中村 完 〈批評と紹介〉劉昌惇著『李朝語辞典』 159~166
〈彙報〉会員消息、朝鮮学報昭和43年度発行予定、昭和43年度朝鮮学会大会予定、朝鮮学報編輯員委嘱、昭和42年度幹事会協議事項、近着交換寄贈図書 167~168
- 森田 芳夫 戦後における在日朝鮮人の人口現象 (31)~(76)
中村 完 訓民正音における文化の構造と意識について (1)~(30)
Summaries 巻末
朝鮮学報昭和42年(1967年)度総目次 別1~4

48 (1968/昭和43年7月20日) 高橋亨先生記念号

- 岸 勇一 献呈のことば 別1~3
高橋亨先生年譜略 別4~15
高橋亨先生著作年表 別16
- 相場 清 金笠の詩風 1~16
青山 公亮 帯方郡攷 17~26

- 有光 教一 『韓国支石墓研究』を読んで 27~36
- 鏗方 貞亮 三国史記にあらわれた麦と麦作について 37~57
- 石原 道博 朝鮮史書日本関係記事の集録について 59~69
- 井上 秀雄 三国史記の原典をもとめて 71~92
- 大谷 森繁 李朝文人の小説意識—李朝小説の覚書(二)— 93~106
- 大塚 鑑 鮮籍備忘—附 養安院書目— 107~120
- 杉山 信三 春川清平寺とその建築 121~129
- 鈴木 治 徐羅伐異考 131~140
- 善生 永助 朝鮮社会経済の研究 141~150
- 田川 孝三 清州刊本『経国大典註解』について 151~167
- 田花 為雄 李朝仁祖王代の郷約教化 169~180
- 内藤 雋輔 帰化医師 泉大官とその系譜—附 朝鮮信使迎接日記について— 181~192
- 中吉 功 銅造菩薩半跏像鈔存 193~206
- 中村 栄孝 明太祖家法に見える侵略戦争抑制の規定—『祖訓録』と『皇明祖訓』の対外関係条文— 207~217
- 旗田 巍 高麗の民田について 219~230
- 花村 美樹 一人償命 231~237
- 日野 開三郎 国際交流史上より見た満鮮の絹織物に就いて—新羅大統—以前— 239~257
- 深谷 敏鉄 高麗朝禄科田考 259~274
- 丸亀 金作 高麗朝の新羅系勢力 275~288
- 三木 栄 許浚の伝染病学 289~300
- 宮原 兎一 李朝初期の産業地図について 301~307
- 村上 四男 新羅の敵良州(良州)について 309~331
- 李 丙燾 経世家としての李栗谷について 333~365
- 渡部 学 李朝両班儒学者の家訓書—沢堂・李植の『示児代筆』— 367~393
- 執筆者紹介 394
- 安田 吉実 済州島方言における接尾辞「-아기, -아지, -장이, -아치, -바치」の考察 (79)~(102)

- 森田 芳夫 戦前における在日朝鮮人の人口統計 (63)~(77)
 中村 完 吏読語における用言の基本構造とその周辺の問題について (41)~(62)
 金 敏洙 周時経의 国語研究 (15)~(39)
 今西 春秋 Cagan Hagan の意味 (14)
 今西 春秋 「旧清語」 解題 (1)~(13)

49 (1968/昭和 43 年 10 月 20 日) 中山正善先生記念号

- 岸 勇一 献呈のことば 別 1~3
 中山正善先生年譜 別 5~13
 青山 秀夫 現代朝鮮語形容詞の形成について 1~24
 石田 幹之助 前真柱中山正善さんと菟書 25~31
 井上 秀雄 新羅王畿の構成 33~53
 大谷 森繁 『批評新增要路院記』の紹介—李朝小説の覚書(三)— 55~65
 岡崎 敬 日本における初期稲作資料—朝鮮半島との関連にふれて— 67~87
 金関 恕 天理参考館蔵の銅鍔と銅甌 89~98
 榎本 杜人 七支刀銘文再考—青丘考古記三— 99~112
 窪 徳忠 庚申の本尊について 113~124
 斎藤 忠 新羅の墓制とそのわが国への影響—十二支彫像をもつ墓制を中心として— 125~137
 杉山 信三 慶州博物館庭の一石灯 139~145
 鈴木 治 飛鳥芸術の史的背景 147~170
 田川 孝三 万暦十一・二年慶州京邸告目断簡について 171~187
 内藤 雋輔 文禄・慶長役における被虜人遺聞—宗教家の場合— 189~209
 中野 輝雄 筆囊攷記 211~230
 中村 完 古義堂学派における朝鮮研究—ひとつの素描 231~240
 中村 栄孝 日光山徳川家康廟社堂扁額の摸本について 241~257

- 中村 幸彦 朝鮮説話集と仮名草紙—『五倫行実図』を主に— 259～270
- 旗田 巍 高麗時代における均田制の有無 271～284
- 原田 淑人 封泥の発見とその研究とについて 285～299
- 樋口 隆康 空心塚墓について 301～320
- 増田 精一 天理参考館所蔵資料を中心にみたイラン出土銅剣の一侧面 321～332
- 三上 次男 半拉城出土の二仏并座像とその歴史的意義—高句麗と渤海を結ぶもの— 333～348
- 三木 栄 日鮮麻疹流行伝播史—流行周期則 349～359
- 三品 彰英 銅鐸小考 361～373
- 宮原 兔一 朝鮮葬制沿革資料 375～385
- 村山 正雄 朝鮮関係神社攷 387～406
- 森岡 康 大君陣—仁祖朝に於ける宮家の私有地・私有権について— 407～426
- 藪内 清 李朝学者の地転説 427～434
- 八幡 一郎 朝鮮半島の古代紡錘車資料 435～456
- 李 弘植 慶州仏国寺釈迦塔発見の無垢浄光大陀羅尼經 457～482
- 李 丙燾 韓国古代社会の井泉信仰 483～495
- 渡部 学 李植の唯名論的經驗論思想と異端論—『示兒代筆』の提起する教育基礎論— 497～510
- 執筆者紹介 511
- 中村 拓 欧州製地図における朝鮮の誕生 (27)～(41)
- 中村 暎枝 現代朝鮮語の辞典見出語における語彙の分布状況 (9)～(25)
- 今西 春秋 『関北紀聞』を採す (8)
- 今西 春秋 「満蒙文鑑」解題 (1)～(8)

50 (1969/昭和44年1月20日)

- 北村 秀人 高麗時代の「所」制度について 1～75

最近の朝鮮関係論文 (一) ~ (五) 76, 123, 124, 151,
152

- 河村 一夫 朝鮮に於ける我が領事館警察史 77~116
旗田 巍 〈批評と紹介〉李基白著『韓国史新論』 117~120
William E. Skillend (中村暎枝訳) 〈批評と紹介〉鄭炳昱編著『時
調文学事典』 120~123
〈彙報一〉朝鮮学会第19回大会記事 125~145
第47輯正誤表 145
第48輯正誤表 146
〈彙報二〉会員消息、近着交換寄贈図書 147~151
執筆者紹介 152
中村 暎枝 編 「朝鮮学報」の第一輯から第五十輯までの総目次 (附録：
『朝鮮学会会報』総目次、朝鮮学会大会における講演・討
論会・研究発表題目、例会における講演・研究発表題目定
例発表会) (1)~(100)
Summaries 巻末

51 (1969/昭和44年5月20日)

- 李 恵求 伎楽と山台仮面劇 1~18
井上 秀雄 三国史記にあらわれた新羅の中央行政官制について 19
~72
坪井 良平 朝鮮鐘の新資料補遺 (其六) 73~94
梅原 末治 日韓併合の期間に行なわれた半島の古蹟調査と保存事業
にたずさわった一考古学徒の回想録 95~148
大坂 金太郎 百濟壁画博室墳出土在銘磚について 149~154
大谷 森繁 李家源著『燕岩小説研究』 155~158
安田 吉実 高橋亨著『済州島の民謡—東方学紀要 別冊2—』 159~164
中村 完 Samuel E. Martin, Yang-Ha Lee, Sung-Un Chang: NEW
KOREAN-ENGLISH DICTIONARY 165~169
最近の朝鮮関係論文 94, 154, (35)

執筆者紹介 207

第49輯正誤表 170

W.E.Henthorn 『持経霊験伝』の小紹介 172

【影印】『持経霊験伝』(W.E.Henthorn 氏所蔵) 171, 173
~204

〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 205~207

今西 春秋 MANJU 雑記 1 (19)~(35)

青山 秀夫 現代朝鮮語の敬語と敬語意識 (一) —京畿道驪州邑における
実態調査報告— (1)~(18)

Summaries 卷末

52 (1969/昭和44年7月20日)

朴 元善 韓国客主の類型 1~34

青木 功一 朝鮮開化思想と福沢諭吉の著作—朴泳孝「上疏」における
福沢著作の影響— 35~92

依田 千百子 年中行事より見た朝鮮に於ける中国文化の受容形式につ
いての一考察 93~132

高橋亨先生論文目録追補 132

有井 智徳 〈批評と紹介〉李基白著『高麗兵制史研究』 133~142

宮原 兎一 〈批評と紹介〉渡部学著『近世朝鮮教育史研究』 142~146

船越 昭生 〈批評と紹介〉ヘンドリック・ハメル著・生田滋訳『朝鮮
幽囚記』 146~150

中川 清 編 文献紹介 151~179

大谷 森繁 『批評 新增要路院記』小紹介 182

【影印】『批評 新增要路院記』(天理図書館所蔵・今西文庫)
181~218

〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 219~220

最近の朝鮮関係論文 92, 180

執筆者紹介 220

『関北紀聞』の所在判明 (4)

Summaries 卷末/(1)~(3)

53 (1969/昭和44年10月20日)

- 中村 栄孝 朝鮮中宗の対日約条更定一壬申約条の成立とその廃棄—
1~42
- 大坂 金太郎 十二支方位神を装飾彫刻した新羅時代の遺蹟と遺物 43
~50
- 藤村 道生 (批評と紹介) 信夫清三郎著『朝鮮戦争の勃発』 51~56
- 宮原 兎一 (批評と紹介) 旗田巍著『日本人の朝鮮観』 57~61
- 大坂 金太郎 「儀鳳四年皆土」在銘新羅古瓦 62
【影印】『錦城日記』(京都大学図書館蔵) 63~106
- 田川 孝三 『錦城日記』について [附]錦城日記年表 107~156
- 中川 清 編 文献紹介 157~184
(彙報一) 朝鮮学会第20回大会記事 185~188
(彙報二) 会員消息、近着交換寄贈図書 189~190
執筆者紹介 190
- 青山 秀夫 現代朝鮮語の敬語と敬語意識 (二) 一京畿道驪州邑におけ
る実態調査報告— (1)~(28)
Summaries 卷末

54 (1970/昭和45年1月20日)

- 中村 栄孝 朝鮮世祖の園丘壇祭祀について (上) 1~14
- 河村 一夫 青木外相の韓国に関連する対露強硬政策の発展と日英同盟
の成立との関係 (上) 15~35
- 酒井 改蔵 三国史記の地名考 37~47
- 大坂 金太郎 仏像を陽刻したる新羅時代の一遺品 48
- 宮原 兎一 (批評と紹介) 任東権著『朝鮮の民俗』 49~51
- 中川 清 編 文献紹介 53~72
【影印】『蛙蛇獄案』・『鵲与烏相訟文』・『烏対卞訟文』(東

洋文庫所蔵) 73~107

- 大谷 森繁 『蛙蛇獄案』並びに『鵲与烏相訟文』・『烏対卞訟文』の解説 108~110
〈資料〉『清国居留地設定委員会見筆記』 111~159
- 金 義換 『渚国居留地設定委員会見筆記』の解説 160~162
- 高橋 盛孝 古代朝鮮地名考 (1)~(8)
- 今西 春秋 MANJU 雑記 2 (9)~(36)
〈彙報〉会員消息、新着交換寄贈図書 163~164
河合弘民博士蒐集書籍目録 (1) (2) 36, 52
韓国国会図書館刊行物目録 51, 162
執筆者紹介 164
Summaries 巻末
朝鮮学報昭和 44 年 (1969 年) 度総目次 巻末

55 (1970/昭和 45 年 4 月 20 日)

- 黒田 省三 宗氏の承統と対馬守護の職称 1~61
- 河村 一夫 青木外相の韓国に関連する対露強硬政策の発展と日英同盟の成立との関係 (下) 63~81
- 長 正統 〈批評と紹介〉金柄夏著『李朝前期対日貿易研究』 83~85
最近の朝鮮関係論文 85
【影印】魯認『乱中秘記』(天理図書館所蔵・今西文庫) 87~192
- 中村 栄孝 今西文庫本『乱中秘記』写本について 193~208
河合弘民博士蒐集書籍目録 (3) (4) (5) 62, 82, 86
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 209~210
執筆者紹介 210
- 梁 昊淵 現代韓国語の服飾用語考 (1)~(20)
Summaries 巻末

56 (1970/昭和 45 年 7 月 20 日)

- 泉 靖一 朝鮮のシャーマニズム 1~12+巻頭図版
 金 在鵬 脱解放—三品彰英先生に答える— 13~58
 藤本 幸夫 〈批評と紹介〉 浜田敦著『朝鮮語資料による日本語研究』
 59~62
 最近の朝鮮関係論文 62
 【影印】 魯認著『錦溪日記』（韓国 魯錫徑氏所蔵） 63~200
- 長 節子 『錦溪日記』小紹介 201~202
 桜井 義之 〈彙報〉 船田享二先生を偲んで 203~206
 中村栄孝氏受賞記念祝賀会 206
- 今西 春秋 MANJU 雑記 3 (1)~(16)
 執筆者紹介 別(2)
 Summaries 巻末

57 (1970/昭和45年10月20日)

- 松前 健 古代韓族の竜蛇崇拜と王権 1~22
 白木原 和美 楽浪出土鏡の新例と王奔鏡 23~36
 河村 一夫 義和団事変の際の近衛篤鷹公等の対清韓政略—佐々友房
 氏の動きを中心として— 37~48
- 黒田 省三 〈批評と紹介〉 中村栄孝著『日鮮関係史の研究』（中）（下）
 49~58
- 杉山 二郎 〈批評と紹介〉『今西竜著作集』全四巻 58~62
 最近の朝鮮関係論文 62
- 中川 清 編 文献紹介（受贈交換誌より抜萃） 63~83
 執筆者紹介 83
 〈彙報〉 会員消息、近着交換寄贈図書 85~86
 【影印】『蓬來故事』（天理図書館所蔵・今西文庫） 87~162
- 中村 栄孝 『蓬來故事』について—十七世紀日鮮関係の一史料—
 163~168
 河合弘民博士蒐集書籍目録（6）（7）（8）（9） 22, 36.

48, 84

- 今西 春秋 MANJU 雑記 4 (1)~(12)
青山 秀夫 現代朝鮮語の敬語と敬語意識 (三) —京畿道驪州邑における実態調査報告— (13)~(34)
Summaries 巻末

58 (1971/昭和 46 年 1 月 20 日)

- 長 正統 路浮税考—肅宗朝癸亥約条の一考察— 1~20
最近の朝鮮関係論文 20
坪井 良平 朝鮮鐘の新資料補遺 (其七) 21~30
大坂 金太郎 朝鮮古書探求回想録 31~39
長 節子 黒田省三氏「宗氏の承統と対馬守護の職稱」批判 41~67
執筆者紹介 69
村山 正雄 〈批評と紹介〉今西竜著『朝鮮史の葉』 69
【影印】『蓬來故事』(続)(天理図書館所蔵・今西文庫) 71
~170
中村 栄孝 〈彙報一〉李弘植博士の逝去 171~172
青山 秀夫・金関 恕・大谷 森繁 〈彙報二〉朝鮮学会第 21 回大会記事 173~190
河合弘民博士蒐集書籍目録 (10) (11) (12) (13) 40,
68, 70, (20)
朴 甲洙 韓国現代小説文章の構造—韓日小説文章の比較を通して—
(21)~(60)
申 昌淳 韓国語의 否定 (1)~(19)
Summaries 巻末
朝鮮学報昭和 45 年 (1970 年) 度総目次 別 1~3

59 (1971/昭和 46 年 4 月 20 日)

- 中井 真孝 新羅における仏教統制機関について—特にその初期に関

して— 1~22

- 河村 一夫 在仁川釜山元山清国専管居留地に関する日清交渉 23~48
- 河内 良弘 忽刺温兀狄哈の朝鮮貿易 (上) 49~85
最近の朝鮮関係論文 85
- 平木 実 (批評と紹介) 吳知泳著 (梶村秀樹訳註) 『東学史』 87~93
第58輯訂正 93
- 中川 清 編 文献紹介 (受贈交換誌より抜萃) 94~98
【影印】『近世朝鮮政鑑』上 (原本/東京 朴宋根氏所蔵) 101~150
- 李 光麟(平木 実 訳) 『近世朝鮮政鑑』をめぐる若干の問題 151~172
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 99~100
河合弘民博士蒐集書籍目録 (14) (15) (16) (17) 22, 86, (58), (12)
執筆者紹介 (57)
- 中川 清 現代朝鮮語用言들다の意味・用法について (13)~(57)
- 今西 春秋 山口氏の手写された「朝鮮政鑑」について (4)
- 今西 春秋 高句麗の城—溝漣と忽— (1)~(11)
Summaries 卷末

60 (1971/昭和46年7月20日)

- 井上 秀雄 大和朝廷と朝鮮諸国との関係—『日本書紀』の日本側伝承史料よりみて— 1~56
- 金 在鵬 新羅王都攷 57~83
本年度第22回朝鮮学会大会予告 83
- 河村 一夫 韓国に於ける日露両国の争覇とこれに対する国王のご宸慮 85~94
- 杉山 二郎 葉獵考 95~118
- 藤本 幸夫 河合文書の研究—文書形式・吏読・俗語を中心として—

119~148+図版

- 平木 実 (批評と紹介) 韓濬勅著『韓国通史』 149~152
(彙報) 会員消息、近着交換寄贈図書 153~154
執筆者紹介 154
- 池川 英勝 訳 (資料)「東亜日報——一九二三~二八年——にみられる朝鮮
衡平運動記事(1)」 155~214
- 秋定 嘉和 (解説)「東亜日報——一九二三~二八年——にみられる朝鮮
衡平運動記事(1)」 215~231
河合弘民博士蒐集書籍目録(18)(19)(20) 84, 118,
232
最近の朝鮮関係論文 233
Summaries 巻末

61 (1971/昭和46年10月2日)

- 三池 賢一 新羅内廷官制考(上) 1~44
執筆者紹介 44
- 平木 実 十七・八世紀における奴良妻所生の帰属について 45~75
河内 良弘 忽刺温兀狄哈の朝鮮貿易(下) 77~116
- 平木 実 (批評と紹介) 韓濬勅著『韓国開港期の商業研究』 117~
122
- 村山 正雄 (批評と紹介) 国書刊行会版『今西竜著作集』 122~126
(彙報) 会員消息、近着交換寄贈図書 127
- 長 正統 韓国日本問題研究会の発足 127~128
- 松崎 武俊 筆写 (資料) 諸事抄録(従明治三六年一二月渡韓中) 129~164
- 松崎 武俊 筆写 (資料) 渡韓始末録(明治三六年一二月一〇日発程 明治三
七年三月一五日帰朝 我外務省ノ内命ニ依リ) 165~194
- 藤村 道生 日韓議定書の成立過程—大三輪長兵衛韓国関係文書『諸事
抄録』『渡韓始末録』の史料解説として— 195~217

- 【影印】『事蹟記』（天理図書館所蔵・今西文庫） 219～276
旗田 巍 通度寺の『事蹟記』について 277～287
河合弘民博士蒐集書籍目録 (21) (23) (24) (25) (26)
(27) 75, 76, 126, 128, 218, 288
Summaries 巻末

62 (1972/昭和47年1月20日)

- 大谷 光男 三国史記の日食記事について 1～20
三池 賢一 新羅内廷官制考(下) 21～64
金 義煥(長 正統 訳) 〈批評と紹介〉『朝鮮外交事務書』(全九冊)
65～68
安田 吉実 〈批評と紹介〉金敏洙著『国語文法論』 68～73
執筆者紹介 73
中川 清 編 文献紹介(受贈交換誌より抜萃) 74～82
〈彙報〉新入会員、会員移動、退会会員、近着交換寄贈図書 83～85
河合弘民博士蒐集書籍目録(28) (29) 83, 84, (62)
池川 英勝 訳 〈資料〉「東亜日報——一九二三～一九二八年——にみられる
朝鮮衡平運動記事(2)」 87～190
秋定 嘉和 〈解説〉「東亜日報——一九二三～一九二八年——にみられる
朝鮮衡平運動記事(2)」 191～202
志部 昭平 中期朝鮮語の疑問法語尾に就て (1)～(61)
河合 鈺太郎 稿文学博士河合弘民小伝 別(4)
最近の朝鮮関係論文 別(3)
朝鮮学報昭和46年(1971年)度総目次 別1～4
Summaries 巻末

63 (1972/昭和47年4月20日)

- 丸亀 金作 日本上代史の紀年に関する諸問題 1～52

- 金 在鵬 日本上代紀年の研究 53~95
- 日野 開三郎 国際交流史上より見た満鮮の絹織物(二) —新羅大統一時代— 97~127
- 河村 一夫 青木外相の韓国に関連する対露強硬政策の発展と日英同盟の成立との関係(補遺) 129~138
- 北村 秀人 (批評と紹介) 李基白著(宮原兎一・中川清訳)『韓国史新論』 139~143
- 小泉 親種 (批評と紹介) 姜在彦著『朝鮮近代史研究』 143~153
 (彙報一) 朝鮮学会第22回大会記事 154~163
 執筆者紹介 163
 (彙報二) 会員消息、近着交換寄贈図書 164~166
 河合弘民博士蒐集書籍目録(31)(32)(33)(34)(35)
 95, 96, 128, 153, 166
 【影印】「魚音標本」(故今西龍博士蔵) 167~186
- 安田 吉実 今西竜博士旧蔵『魚音標本』について 187~202
- 今西 春秋 MANJU 雑記 5 (1)~(30)
 Summaries 卷末

64 (1972/昭和47年7月20日)

- 熊谷 治 朝鮮半島における農耕儀礼としての綱引 1~13
 河合弘民博士蒐集書籍目録(36)(37) 14, 74
- 伊藤 秋男 耳飾の型式学的研究に基づく韓国古新羅時代古墳の編年に関する一試案 15~73
- 金 在鵬 魏志韓伝考 75~104
- 坪井 良平 朝鮮鐘の新資料補遺(其八) 105~119
- 村山 正雄 (彙報) 朝鮮古典の複製と調査・研究文献の再刊 120~122
 (彙報) 会員消息、近着交換寄贈図書 122~124
 【影印】李民寅『柵中日録』(天理図書館所蔵・今西文庫) 125~180
- 今西 春秋 「柵中日録」 解題 181~190

- 池川 英勝 訳 (資料)「東亜日報—1923~28年—にみられる朝鮮衡平運動記事(3)」 191~268
- 秋定 嘉和 (解説)「東亜日報—1923~28年—にみられる朝鮮衡平運動記事(3)」 269~276
- PARK Byeng-sen (朴丙善) Le récit de la "Princesse abandonnée" et l'aperçu historique des médiums coreens (1)~(5)
Summaries 巻末

65 (1972/昭和47年10月20日)

- 河内 良弘 童猛哥帖木児と建州左衛 1~78
- 船津 富彦 朝鮮の詩話について 79~93
- 朴 時仁 日本史話研究 95~136
- 大坂 金太郎 新羅の人面瓦に就いて 137~140
- 村上 四男 (彙報一) 文学博士三品彰英先生追悼 141~143
(彙報二) 会員消息、近着交換寄贈図書 143~144
- 申 昌淳 現代韓国語의 用言補助語幹「ㄹ」의 意義와 用法 (119)~(140)
- 青山 秀夫 現代朝鮮語の擬声語 (29)~(118)
- 内田 正男 元嘉曆法による暦日の推算について (1)~(28)
Summaries 巻末

66 (1973/昭和48年1月20日)

- 甲元 真之 朝鮮支石墓の編年 1~36
- 鈴木 治 蒙古ノイン・ウラ匈奴墳墓の墳形について 37~55
- 鈴木 治 MARGINARIA : 幻の鞍 56
- 金 在鵬 好太王碑文叙法考 57~72
- 河内 良弘 童凡察と建州左衛 73~140
- 田代 和生 対島藩の朝鮮輸出銅調達について—幕府の銅統制と日鮮銅貿易の衰退— 141~208

- 安田 吉実 李朝貨幣事情と典圖局設置關係者について 209~228
 青山 秀夫 〈批評と紹介〉 조선어연구회編『조선말의성의태어사전(朝鮮語擬聲擬態語辭典)』 229~232
- 安田 吉実 〈批評と紹介〉 전석담・허종호・홍희유共著『조선에서 자본주의관계의 발생(朝鮮における資本主義關係の發生)』 232~233
- 安田 吉実 〈批評と紹介〉 주영헌著『발해문화(渤海文化)』 233~234
 〈彙報〉 朝鮮学会第 23 回大会記事、會員消息、近着交換寄贈図書 235~242
 Summaries 卷末

67 (1973/昭和 48 年 4 月 20 日)

- 金 在鵬 三国史記上代紀年考略 1~21
 河内 良弘 朝鮮の建州衛再征と也先の乱 23~58
 安田 吉実 李朝後期における近代資本主義萌芽考—近代的工業生成を中心に— 59~79
- 李 元植 「雜林類事」略攷 81~135
 今西 春秋 『後金檄明万曆皇帝文』について 137~158
 梁 昊淵 〈批評と紹介〉 李承旭著『国語文法体系의 史的研究』 159~165
 〈彙報〉 會員消息、近着交換寄贈図書 167~168
 【影印】『도잉형』(1) (天理図書館所蔵・今西文庫) 169~298
 朝鮮学報昭和 47 年(1972 年)度総目次 299~303
 Summaries 卷末

68 (1973/昭和 48 年 7 月 20 日) 特輯 百濟武寧王陵

- 斎藤 忠 墓制を通じてみた古代の日本・朝鮮關係 1~16
 金 元龍 百濟武寧王陵について 17~31
 シンポジウム：百濟武寧王陵をめぐる 33~72

- 鄭 琦鎬 〈金鰲新話〉と〈伽婢子〉における受容の様態 (1)~(36)
- 末松 保和 〈彙報一〉四方博氏の逝去を悼む 73~74
- 石原 六三 〈彙報一〉堀越儀郎先生のご逝去を悼む 74~75
- 〈彙報二〉会員消息、近着交換寄贈図書 75~78
- 【影印】『도잉 흥』(2) (天理図書館所蔵・今西文庫) 79~184

Summaries 卷末

69 (1973/昭和 48 年 10 月 20 日)

- 李 承旭 韓国語の文法史における再構の問題 1~7
- 洪 一植 新小説の問題点 9~19
- 河村 一夫 近衛篤麿「朝鮮問題に関する特別日誌」を読みみて 21~29
- 〈彙報〉朝鮮学会第 24 回大会記事、会員消息、近着交換寄贈図書 31~42
- 梅田 博之 朝鮮語と日本語 (29)~(44)
- 朴 炳采 洪武正韻訳訓の板本について (1)~(28)
- 【影印】『도잉 흥』(3/完) (天理図書館所蔵・今西文庫) 43~164

Summaries 卷末

正誤表 (朝鮮学報第 66 輯/田代和生「対馬藩の朝鮮輸出銅調達について」、第 65 輯所掲「現代韓国語의 用言補助語幹「烈」의 意義와 用法」) 別添

70 (1974/昭和 49 年 1 月 20 日)

- 全 海宗 韓国と日本の古代史における「帰化」について 1~26
- 金 在鵬 百濟旧都稷山考 27~42
- 川島 藤也 文化柳氏にみられる氏族の移動とその性格—儒教的官僚体制と血統集団— 43~74
- 中村 栄孝 壬辰倭乱の発端と日本の「仮道入明」交渉 75~120
- 村上 四男 〈彙報〉第 29 回国際東洋学会議に参加して 121~131

〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 131~133
朝鮮学報昭和48年(1973年)度総目次 135~138
Summaries 巻末

71 (1974/昭和49年4月20日)

- 金 在鵬 穢貂考 1~19
河内 良弘 申叔舟の女真出兵 21~58
内藤 雋輔 慶長丁酉の役、被虜学人間の雅游について 59~78
鈴木 治 天理参考館蔵 イラン銀装短剣と慶州出土金装短剣について—アキナケスの系譜— 巻頭+79~96
鄭 良婉 校注 〈資料〉憑虚閣李氏著(鄭良婉校註)『구합총서(閩閩叢書)』上(金沢文庫所蔵) 97~224
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 225~226
Summaries 巻末

72 (1974/昭和49年7月20日)

- 李 元植 朝鮮純祖辛未通信使の訪日について—対馬に於ける日・韓文化交流を中心に— 1~50
安田 吉実 李朝貨幣『交換局』と大三輪文書について 51~82
鈴木 満男 〈批評と紹介〉"韓国学"研究—International Journal of Korean Studies の創刊によせて— 83~94
【影印】李植著『野史初本』上(天理図書館所蔵・今西文庫) 97~186
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 95~96
青山 秀夫 朝鮮語の派生擬態語試考 (1)~(82)
Summaries 巻末

73 (1974/昭和49年10月20日)

- 河内 良弘 朝鮮世祖の觀兵示威と成化三年の役 1~48
- 大谷 森繁 洪万宗の著述とその生涯 (一) 49~62
- 二宮 啓任 〈批評と紹介〉金知見・蔡印幻編『新羅仏教研究』 63~65
- 李 乙煥 〈批評と紹介〉金敏洙著『国語政策論』 65~68
- 朝長 ノリ 文献紹介 69~90
- 〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 91~92
- 第 71 輯正誤表 92
- 【影印】李植著『野史初本』下 (天理図書館所蔵・今西文庫)
93~208
- 景印『野史初本』目次 209~210
- 中村 栄孝 影印『野史初本』について 211~232
- 井上 秀雄 Early Ancient Forms of Social Organization in Korea
and Japan (31)~(35)
- 油谷 幸利 現代朝鮮語の敬語に関する一考察 (1)~(29)
- Summaries 卷末

74 (1975/昭和 50 年 1 月 20 日)

- 有井 智徳 李朝初期における公的土地所有としての公田 1~96
- 熊谷 治 洞祭—その本質および性格について— 97~110
- 大谷 森繁 洪万宗の著述とその生涯 (二) 111~122
- 金 在鵬 高句麗国号积義 123~139
- 姜 晋哲 高麗の農莊についての問題意識 141~146
- 鄭 然榮 慶尚道方言声調の歴史的発達 147~154
- 河村 一夫 李鴻章・李経方と金玉均との関係について 155~161
- 平木 実 〈紹介〉『韓国史』(全 28 卷・韓国国史編纂委員会編)の
刊行 163~166
- 菅野 裕臣 〈書評〉金炯秀著『蒙学三書研究 I』 167~178
- 平木 実 〈書評〉朝鮮史研究会編・編集代表旗田巍『朝鮮の歴史』
179~182
- 朝長 ノリ 文献紹介 183~196

〈彙報〉朝鮮学会第 25 回大会記事、会員消息、近着交換
寄贈図書 197~230

Ronald P. Toby Korean-Japanese Diplomacy in 1711 : Sukchong's Court
and the Shogun's Title (1)~(26)

Summaries 卷末

朝鮮学報昭和 49 年 (1974 年) 度総目次 卷末

75 (1975/昭和 50 年 4 月 20 日)

- 中根 千枝 韓国—その社会人類学的位置づけ 1~10
周藤 吉之 宋と高麗との関係—宋側からみた高麗の官吏制度— 11
~24
依田 千百子 朝鮮の山神信仰 (一) 狩猟民の山の神及び朝鮮の狩猟民
文化 25~76
崔 仁鶴 韓国における昔話の研究史 77~96
李 淑子 日本統治下朝鮮における日本語教育—朝鮮教育令との関
連において— 97~114
安田 吉実 〈紹介〉財政公論社刊『韓国貨幣図鑑』 115~120
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 121~122
〈資料〉憑虚閣李氏著(鄭良婉校註)『구합총서(閩閣叢書)』
下(金沢文庫所蔵) 123~282
鄭 良婉 『閩閣叢書』について 283~290
Summaries 卷末

76 (1975/昭和 50 年 7 月 20 日)

- 穴沢 咏光・馬目 順一 南部朝鮮出土の鉄製鋌留甲冑 1~34
田川 孝三 李朝の郷規について (一) 35~72
【影印】李擢英録『龍蛇日録』(天理図書館所蔵・今西文庫)
73~128
李 慶善 〈書評〉金東旭著『朝鮮文学史』 129~133

正誤表 (第 71・74・75 輯) 133

- 朝長 ノリ 文献紹介 135~150
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書、会報 151~152
- 金 吉鎔 名詞の後につく「ㄴ」の文法機能 (119)~(134)
- Christian Deschamps 民間信仰의 形態와 特性—慶尙北道—
個道里의 事例研究— (1) (1)~(117)
Summaries 卷末

77 (1975/昭和 50 年 10 月 1 日)

- 武田 幸男 平西将軍・倭隋の解釈—五世紀の倭国政権にふれて— 1
~38
- 周藤 吉之 高麗朝における三司とその地位—宋の三司との関連にお
いて— 39~89
【影印】『征蛮録』 91~149
- 菅野 裕臣 〈紹介〉平壤出版の朝鮮語辞典 151~156
- 松前 健 〈書評〉張壽根著『韓国の民間信仰』 157~162
〈彙報〉会員消息、近着交換寄贈図書 163~165
- Christian Deschamps 民間信仰의 形態와 特性—慶尙北道一個
洞里의 事例研究— (2) (29)~(137)
- 玉城 繁徳 意味理論と朝鮮語の意味記述について—朝鮮語と日本語
の意味論における対照言語学的考察— (1)~(28)
Summaries 卷末

78 (1976/昭和 51 年 1 月 28 日)

- 金 在鵬 百濟仇台考 1~20
- 中村 完 史的名辭「吏誥」の概念とその意識について 21~44
- 田川 孝三 李朝の郷規について (二) 45~87
- 藤本 幸夫 朝鮮における『朱子語類』—それは如何に扱われたか—
89~117

- 崔 吉城 韓国巫俗における死霊祭と靈魂觀—捨姫公主神話の構造分析— 119~144
 【影印】『秋浦集』上下 (天理図書館所蔵・今西文庫) 145~218
- 末松 保和 〈紹介〉今西龍著 (今西春秋編)『高麗及李朝史研究』 219~222
- 安田 吉実 〈書評〉李鉉淙著『韓国開港場研究』 223~229
 〈彙報〉朝鮮学会第 26 回大会記事、会員消息、近着交換寄贈図書、会報 231~256
 編集後記 256
 朝鮮学報昭和 50 年 (1975 年) 度総目次 257~260
- Christian Deschamps 民間信仰의 形態와 特性—慶尚道一個道里의 事例研究 (3) (37)~(88)
- 奥田 一廣 朝鮮語の対格助詞「를 (을)」について—とくに、その文法機能および意義素を中心に— (1)~(35)
 Summaries 卷末

79 (1976/昭和 51 年 4 月 28 日)

- 古野 清人 宗教人類学上よりみたる朝鮮 1~11
- 田代 和生 十七・十八世紀日朝貿易の推移と朝鮮渡航船 13~46
- 田中 健夫 『朝鮮通交大紀』雑考 47~76
 【影印】『和刻三綱行実』(孝子図・忠臣図・烈女図) 上下 (天理図書館所蔵) 77~192
 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 193~196
 編集後記 196
- 門脇 誠一 中期朝鮮語における声調交替について (17)~(54)
- 青山 秀夫 朝鮮語の特徴 (1)~(16)
 Summaries 卷末

80 (1976/昭和 51 年 7 月 28 日)

- 穴沢 咏光・馬目 順一 アフラシヤブ都城址出土の壁画にみられる朝鮮人使節について 1~36
- 由水 常雄 古新羅古墳出土のローマングラスについて 37~71
朝鮮学会第 27 回大会案内 72
- 韓 栄国 (平木 実 訳) 十八・十九世紀大邱地域の社会変化に関する一試考—大邱府戸籍の「新戸」を中心に— 73~86
- 青木 功一 朴泳孝の民本主義・新民論・民族革命論 (一) —「興復上疏」に於ける変法開化論の性格— 87~163
〈資料〉『大永享禄之比 御状并書状之跡付』 165~260
- 田中 健夫 対馬宗氏の『大永享禄之比御状并書状之跡付』について 261~270
- 松前 健 〈書評〉柳東植著『朝鮮のシャーマニズム』 271~274
〈彙報〉会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録 275~278
Summaries 巻末

81 (1976/昭和 51 年 10 月 2 日) 25 周年記念号

- 刊行のことば 別 1~2
- 阿部 吉雄 李退溪の哲学的修養学と日本儒学 1~9
- 有井 智徳 李朝初期における収租地としての寺社田 11~35
- 井上 秀雄 神話に現われた高句麗王の性格—四世紀後半における— 37~74
- 河内 良弘 燕山君時代の朝鮮と女真 75~91
- 北村 秀人 高麗時代の帰郷刑・充常戸刑について 93~128
- 斎藤 忠 百濟武寧王陵を中心とする古墳郡の編年的序列とその被葬者に関する一試考 129~154
- 桜井 義之 『官立仁川日語学校』について 155~167
- 末松 保和 対馬の「神地」について 169~178
- 田川 孝三 李朝の郷規について (三) (完) 179~209
- 武田 幸男 新羅の村落支配—正倉院所蔵文書の追記をめぐって—

211~257

- 平木 実 朝鮮王朝初期の旌表教化政策について 259~301
藤本 幸夫 東京教育大学蔵朝鮮本について 303~355
三上 次男 漢江地域発見の四世紀越州窯青磁と初期百濟文化 357~
380
村上 四男 新羅真興王と其の時代 381~395
村山 正雄 「辰国」臆断 397~416
朝鮮学会沿革 417~426
大江 孝男 大邱方言における「半敬語」について—朝鮮語方言調査報告(Ⅱ)— (13)~(25)
今西 春秋 MANJU 雑記 3 題 (1)~(11)
Summaries 巻末

82 (1977/昭和52年1月26日)

- 日野 開三郎 国際交流史上より見た満鮮の絹織物(三)—渤海国の絹織物—附説契丹の蕃羅 1~36
金 鐘璿 新羅花郎の性格について—特にその遊びに関して— 37~64
河内 良弘 中宗・明宗時代の朝鮮と女真 65~99
正誤表(第81輯) 100
三宅 英利 徳川政権初回の朝鮮信使 101~132
野瀬 和紀 甲申政変の研究(一) 清仏戦争と日本外交 133~160
青木 功一 朴泳孝の民本主義・新民論・民族革命論(二)—「興復上疏」に於ける変法開化論の性格— 161~223
崔 喆 「郷歌」作者考 225~240
(彙報) 朝鮮学会第27回大会記事、会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録 241~264
朝鮮学報昭和51年(1976年)度総目次 265~270
Summaries 巻末

83 (1977/昭和52年4月26日)

- 田中 俊明 『三国史記』撰進と『旧三国史』 1～58
柳 東植 土着信仰と宗教受容 韓国と日本における仏教受容形態の比較—伽藍構造と仏画を中心に— 59～83
任 東権 民謡と説話の交渉 85～93
三木 栄 大医許浚(一五四六～一六一五)の画像、略伝と学業 95～98
貫井 正之 郭再祐—抵抗とその生涯— 99～139
池川 英勝 『朝鮮衡平社運動について』 141～162
河村 一夫 内田康哉伝記草稿所収の朝鮮関係一覽書について 163～172
李 淑子 第二次朝鮮教育令下言語教育教科書の内容—低学年読本の語彙頻度から— 173～188
座談会「25年をかえりみて」(第27回大会記念) 189～218
崔 載喜 〈彙報〉なくなった昔の京城大学の建物 219～220
〈彙報〉彙報、近着寄贈交換図書目録 220～223
平木 実 編集後記 224
金 芳漢 韓国語 語彙比較의 問題点 (1)～(22)
Summaries 巻末

84 (1977/昭和52年4月26日)

- 濱田 耕策 新羅の城・村設置と州郡制の施行 1～24
浜中 昇 十世紀末における高麗州県制の施行 25～66
李 元植 明和度(一七六四)の朝鮮国信使—成大中との筆談・唱酬詩巻を中心に— 67～114
正誤表(第83輯) 114
田中 健夫 『朝鮮通交大紀』補考—宗家文庫の紹介を中心に— 115～126

- 金 義煥 (平木 実 訳) 『鄭忠壯公実紀』 解題 129~142
 【影印】 鄭熿 編『鄭忠壯公実紀』 (天理図書館所蔵・今西文庫)
 127, 143~212
- 藤口 健二 〈書評〉 金宅圭・李殷昌『皇南洞古墳発掘調査概報』 (嶺南大学校博物館 古蹟調査報告 第一冊) 213
 〈彙報〉 会員消息、寄贈交換図書目録 223~225
- 趙 恒来 対日修好後の 丙子 (1876) 修信使行에 대하여 (1)~(9)
 Summaries 卷末

85 (1977/昭和 52 年 10 月 8 日)

- 吉田 光男 『翰苑』 註所引「高麗記」について—特に筆写と作成年次—
 1~30
- 鈴木 靖民 正倉院佐波里加盤付属文書の基礎的研究 31~80
- 李 丙洙 朝鮮の「異姓不養」制 81~105
- 金森 襄作 朝鮮青年会運動史—朝鮮における民族主義と階級主義—
 107~164
- 平木 実 『葵史について』 167~171
 【影印】 『葵史』 (天理図書館所蔵・今西文庫) 173~240
 〈彙報〉 会員消息、寄贈交換図書目録 241~243
- 北島 静江 日本語朝鮮語対照言語学の展望 (1)~(13)
 Summaries 卷末

86 (1978/昭和 53 年 1 月 26 日)

- 武田 幸男 高句麗官位制とその展開 1~53
- 濱田 耕策 渤海史をめぐる朝鮮史学界の動向—共和国と韓国の「南北朝時代」論について— 55~75
- 原田 環 1860 年前後における朴珪寿の政治思想 77~96
- 崔 承洵 韓国仏教雑誌の考察 97~113
 正誤表 (第 85 輯) 114

- 三枝 寿勝 1940年代前半期の小説について 115~152
- 金 義煥 (平木 実 訳) 「瓏齋先生集」について 155~180
 【影印】金允植 編『瓏齋先生集』(一) (天理図書館所蔵・今西文庫) 181~267
 〈彙報〉第28回大会記事、会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録 269~290
 朝鮮学報昭和52年(1977年)度総目次 291~294
 編集後記 295
- 前田 綱紀 朝鮮語の味覚表現形容詞 (19)~(35)
- 梁 昊淵 韓国感覚語考 (1)~(17)
 Summaries 巻末

87 (1978/昭和53年4月26日)

- 三上 次男 朝鮮半島出土の中国唐代陶磁とその史的意義 1~38
- 平木 実 一七五五年(英祖三十一年)に実施された内寺奴婢・馭奴婢身貢制の改革について 39~100
- 熊谷 治 朝鮮半島における流れ島伝説 101~111
 正誤表(第86輯) 112
 編集後記 112
 【影印】金允植 編『瓏齋先生集』(二) 付『朴瓏齋文』(天理図書館所蔵・今西文庫) 113~254
 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 255~257
- 油谷 幸利 現代韓国語의 動詞分類—aspect 를 中心으로— (1)~(35)
 Summaries 巻末

88 (1978/昭和53年7月26日)

- 有光 教一 新羅の太環式金製垂飾について 1~12
- 李 元植 江戸時代における朝鮮国信使の遺墨について—墨蹟目録— 13~48

- 金 義換 『近代日鮮関係の研究』(田保橋潔著)の著述刊行の動機
とその内容について 49~72
- 池川 英勝 朝鮮衡平運動の史的展開—後期運動を通じて— 73~101
- 宋 賛植(平木 実 訳) 「朝鮮朝 主理派の認識論理」—寒洲李震
相の思想を中心に— 103~111
【影印】徐居正 編『太平閑話』(天理図書館所蔵・今西文庫)
113~194
- 大谷 森繁 『太平閑話』解題 195~214
- 油谷 幸利 (批評と紹介)『語学研究』第13巻第1号(1977年6月)
215~220
- 松尾 勇 (批評と紹介)『말』第2輯(1977年6月) 221~229
(彙報) 会員消息、近着寄贈図書目録 231~235
Summaries 卷末

89 (1978/昭和53年10月26日)

- 申 爽鎬 韓国の修史事業 1~25
- 張 徳順 韓国の古典文学にあらわれた対日本観 27~38
- 鄭 早苗 『漢書』『後漢書』『三国志』の高句麗と句麗の名称につい
て 39~67
- 安田 章 『方言集釈』小考 69~105
- 鄭 光 司訳院訳書の外国語の発音転写に就いて 107~116
- 蘇 在英 壬辰録 説話의 한 研究 117~144
(彙報) 朝鮮学会第29回大会記事、会報、近着寄贈交換
図書目録 (66)~(100)
- Roger L. Janelli & DawnheeYim Janelli Ritual Change in a Korean
Village (59)~(65)
- 青山 秀夫 朝鮮語の俚諺の用法について—特定の資料による一考察—
(27)~(58)
- 徐 正洙 韓国現代敬語法の推移—最近の設問調査をもとにして—
(1)~(26)

Summaries 卷末

90 (1979/昭和 54 年 1 月 26 日)

- 井上 秀雄 四世紀後半における高句麗王の性格 1~62
田村 圓澄 新羅送使考 63~92
周藤 吉之 高麗前期の宝文閣—宋の諸閣学士・直学士・待制等との関連において— 93~145
金 龍徳 京在所論 147~183
洪 淳昶 韓末民族意識の成長と採西思想 185~216
河村 一夫 〈資料紹介〉 斎藤実総督の朝鮮総督府中枢院官制改革関係史料 (外務省外交史料館所蔵) 217~222
河村 一夫 〈資料紹介〉 明治三〇年代初期の韓国各地日本人居留民営業表戸口月表 (外務省外交史料館所蔵) 223~229
【影印】『一夕話』・『丁香傳』・『李長白傳』 (天理図書館所蔵・今西文庫) 231~278
大谷 森繁 『一夕話』並びに『丁香傳』・『李長白傳』の解題 279~282
石原 六三 〈彙報〉 岸勇一先生のご逝去を悼む 283
〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録 284~286
朝鮮学報昭和 53 年 (1978 年) 度総目次 287~290
洪 思満 日本語の副助詞と韓国語の特殊助詞との対照研究 (II) — その接続機能を中心に — (1)~(22)

Summaries 卷末

91 (1979/昭和 54 年 4 月 26 日)

- 斎藤 忠 高句麗古墳壁画にあらわれた葬送儀礼について 1~13
長 節子 孤草島釣魚研究—孤草島の位置を中心として— 15~73
【影印】『天倪録』 (天理図書館所蔵・今西文庫) 75~196
大谷 森繁 『天倪録』解題 197~202
安田 吉実 〈書評〉 孫禎睦著『朝鮮時代都市社会研究』 203~210

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 211~214

李 文子 朝鮮語の受身と日本語の受身 (その一) — 「もちぬしの受身」を中心に— (15)~(31)

油谷 幸利 「-어 놓다」と「-어 두다」の意味分析 (1)~(14)

Summaries 巻末

92 (1979/昭和 54 年 7 月 26 日)

熊谷 治 朝鮮半島におけるアズキに関する儀礼・習俗 1~15

李 成市 新羅六停の再検討 17~53

山内 弘一 李朝初期に於ける対明自尊の意識 55~83

黄 涇江 両班傳研究 85~107

長 璋吉 李泰俊 109~149

【影印】『続齊諧志』(天理図書館所蔵・今西文庫) 151~240

大谷 森繁 『続齊諧志』解題 237~240

木下 礼仁 〈書評〉村上四男著『朝鮮古代史研究』 241~246

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 247~248

Summaries 巻末

93 (1979/昭和 54 年 10 月 26 日)

武田 幸男 真興王代における新羅の赤城経営 1~37

木下 礼仁 『三国遺事』金傅大王条にみえる「冊尚父誥」についての一考察—唐告身との關聯性によせて— 39~70

金森 襄作 論争を通じてみた新幹会—新幹会をめぐる民族主義と階級主義の対立— 71~103

首藤 丸毛 玄菟・臨屯・真番三郡についての一私見 105~129

【影印】『千字文』(大東急記念文庫所蔵) 131~218

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 219~223

Summaries 巻末

94 (1980/昭和 55 年 1 月 26 日)

- 井上 秀雄 古代朝鮮の文化—日本と比較して— 1~46
- 車 文燮 (平木 実 訳) 朝鮮時代の軍事制度について—壬辰の乱
(文祿の役) 以後を中心に— 47~54
- 蘇 在英 壬辰丙子両乱を中心とした文学意識の変遷過程 55~62
- 藤本 幸夫 朝鮮版『千字文』の系統—其一— 63~117
- 有光 教一 羅州潘南面新村里第九号墳発掘調査記録—主として小川
敬吉氏手記の紹介— 119~165
【影印】『蘭室漫筆』(天理図書館所蔵・今西文庫) 167~236
- 大谷 森繁 『蘭室漫筆』解題 168
- 河内 良弘 今西春秋先生をしのんで 237~239
今西春秋先生主要論著目録 239
- 末松 保和 今西春秋氏を吊う 239
(彙報) 朝鮮学会第 30 回大会記事、会報、近着寄贈交換
図書目録 (31)~(42)
- 西川 孝雄 靖難功臣宋益孫の土豪的性格—功臣罷職を巡る王と文武
の対立— (11)~(30)
- 金 錫得 韓国語使役文誘導制約と意味 (1)~(9)
朝鮮学報昭和 54 年 (1979 年) 度総目次 卷末
Summaries 卷末

95 (1980/昭和 55 年 4 月 26 日)

- 平木 実 一七七四年(英祖五十年)に実施された婢貢制の廃止につ
いて 1~23
- 金 用淑 (試論) 許筠の伝承を实像化する—平北へ脱出か?— 25
~72
- 田代 和生 校訂(資料) 寛永六年御上京之時毎日記 73~115
【影印】『破睡篇』(東洋文庫所蔵) 117~202
- 大谷 森繁 『破睡篇』解題 203~206

- 金 勇男 (辛 澄恵 訳) (紹介) 新しく発掘された徳興里高句麗
壁画古墳について 207~212
(彙報) 会員消息、近着寄贈交換図書目録 213~216
- 崔 康賢 金剛山説話의 一考—主로 紀行文을 통해 본 傳播性에
對하여— (1)~(20)
Summaries 卷末

96 (1980/昭和 55 年 7 月 26 日)

- 全 海宗 魏略および東夷伝に関する若干の見解 1~22
井上 秀雄 拓本と釈文—朗慧和尚碑の解説を前にして— 23~84
田代 和生 寛永六年 (仁祖七、一六二九)、対馬使節の朝鮮国『御上
京之時毎日記』とその背景 (一) 85~94
【影印】『記聞叢話』(東洋文庫所蔵) 95~196
- 大谷 森繁 『記聞叢話』解題 197~200
(彙報) 会員消息、近着寄贈交換図書目録 201~204
- 申 昌淳 助詞 ‘와’の問題—共同格助辞 ‘와’の否定と並列助辞 ‘와’
の設定— (1)~(26)
Summaries 卷末

97 (1980/昭和 55 年 10 月 26 日)

- 李 丙燾 朝鮮朝前期における士林の社会参与 1~12
長田 夏樹 日朝两国漢文訓読探源 (上) 13~24
佐藤 道郎 朝鮮禪宗の伝燈について 25~45
伊藤 秋男 武寧王陵出土の「宝冠飾」の用途とその系譜について 47
~69
- 鈴木 満男 (研究ノート) 古代朝鮮半島における国家形成論の視角—
井上秀雄著『古代朝鮮史序説』を中心に— 71~86
【影印】李震興編・李明九補『掾曹龜鑑』(天理図書館所蔵・
今西文庫) 87~176

- 武田 幸男 『掾曹龜鑑』 解題—或る李朝吏族の世界— 177~188
 (彙報) 朝鮮学会第 31 回大会記事、会報、会員消息、近
 着寄贈交換図書目録 (49)~(68)
- 藤本 幸夫 大東急記念文庫所蔵『千字文』 索引 (29)~(47)
- 高 永根 (油谷 幸利 訳) 19 世紀における西洋人の韓国語研究
 (15)~(27)
- 崔 康賢 (松尾 勇 訳) 韓国紀行文学の紀行動機論 (1)~(14)
 Summaries 巻末

98 (1981/昭和 56 年 1 月 26 日)

- 李 元植 天和度 (一六八二) 朝鮮信使裨将洪世泰と日本文士との筆
 談唱酬について 1~61
- 田代 和生 寛永六年 (仁祖七、一六二九)、対馬使節の朝鮮国『御上
 京之時毎日記』とその背景 (二) 63~76
- 金 義換 朝鮮開化党の幕後の指導者劉大致の活躍とその最後—彼
 の愛蔵品『亀形青磁丹茶壺』の発見に際して— 77~128
- 韓 基斗 韓国仏教の五教兩宗問題 129~138
 【影印】『千字文』(宮内庁書陵部所蔵) 139~206
 (彙報) 会員消息、近着寄贈交換図書目録 207~210
 朝鮮学報昭和 55 年 (1980 年) 度総目次 211~215
- 油谷 幸利 マイクロコンピュータによる言語データの収集と整理—
 朝鮮語処理に対する試み— (33)~(72)
- Toh Soo-hee (都 守照) The Paekche Language (21)~(32)
- 志部 昭平 中期朝鮮語願望法語尾小考—*-gora* と *-goryə* について—
 (1)~(20)
 Summaries 巻末

99/100 合併号 (1981/昭和 56 年 7 月 26 日)

- 井上 秀雄 『慶尚道統撰地理誌』の城郭観 1~35

- 長 正統 九州大学所蔵好太碑拓本の外的研究 37~90
- 長田 夏樹 日朝両国漢文訓読探源(下) 91~108
- 梶井 陟 『普通学校朝鮮語読本』の語彙調査と若干の考察—低学年の部— 109~130
- 斎藤 忠 新羅の葬制から見た甘山寺跡石造阿弥陀如来像・弥勒菩薩像銘文の一解釈 131~141
- 武田 幸男 牟頭婁一族と高句麗王権 143~184
- 西谷 正 朝鮮の環状石斧用穿孔具について 185~194
- 藤本 幸夫 宗家文庫蔵朝鮮本に就いて—『天和三年目録』と現存本を対照しつつ— 195~224
- 三上 次男 高麗陶磁の起源とその歴史的背景 225~254
- 村上 四男 三国遺事解説(その一) 255~278
- 大谷 森繁 『語録解』について—その書誌的検討と朝鮮小説史からの考察— 279~301
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 303~308
- Summaries 巻末

101 (1981/昭和56年10月26日)

- 丸亀金作 上代日朝関係雑考 1~18
- 関 泳珪 瞻星台偶得 19~28
- 熊谷 治 朝鮮半島における匏瓜 29~38
- 中村 栄孝 己酉約条再考 39~50
- 田代 和生 寛永六年(仁祖七、一六二九)、対馬使節の朝鮮国「御上京之時毎日記」とその背景(三) 51~108
- 河村 一夫 小村外相の満韓に関する日露交渉関係意見書について 109~117
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 119~121
- 朝鮮学報の第1輯から第100輯までの総目次 別(1)~(181)
- Summaries 巻末

102 (1982/昭和 57 年 1 月 26 日)

- 田村 圓澄 古代朝鮮の弥勒信仰 1~28
松前 健 神話と民俗における日本と朝鮮 29~43
宋 敏鎬 開化期小説の形成過程とその性格 45~53
李 成茂 朝鮮初期の文武散階 55~75
岡内 三真 漢代五銖錢の研究 77~110
三崎 良章 北魏の対外政策と高句麗 111~168
深谷 敏鉄 高麗足丁・半丁再考 169~190
三浦 国雄 十七世紀朝鮮における正統と異端—宋時烈と尹≡— 191
~243
門脇 誠一 中期韓国語における母音調和の乱れについて—特に語基
母音ㅓ/ㅕを中心—to (1)~(30)
藤本 幸夫 宮内庁書陵部所蔵『千字文』索引 (31)~(49)
(彙報) 朝鮮学会第 32 回大会記事、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 (51)~(80)
朝鮮学報昭和 56 年 (1981 年) 度総目次 245~248
Summaries 巻末

103 (1982/昭和 57 年 4 月 26 日)

- 井上 秀雄 『史記』・『漢書』の東夷王者観 1~37
王 承礼 (古畑 徹 訳) 唐代渤海『貞恵公主墓志』と『貞考公主
墓志』の比較研究 39~57
油谷 幸利 マイクロコンピュータによる朝鮮語の入力と自動印字
(1)~(38)
三浦 国雄 国際朝鮮朱子学会参加記 59~86
菅野 裕臣・長 璋吉 延辺朝鮮自治州訪問報告 87~119
村上 四男 第一回中韓関係史検討会 (西紀 960 年—1949 年) の開催
121~125

〈資料〉朝鮮城郭一覧—慶尚南北道編— 127~191

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 193~195

Summaries 卷末

104 (1982/昭和 57 年 7 月 26 日)

村山 正雄 七支刀銘文の〈侯王〉について 1~34

田中 俊明 『三国史記』中国史書引用記事の再検討—特にその成立の
研究の基礎作業として— 35~106

志部 昭平 中期朝鮮語陳述法語尾小致—*-a/ə.ira, -a/ə.ingida* につい
て— (1)~(23)

朴 恵淑 韓国語の音節末内破音の喉頭調節—ファイバースコープ
および筋電図による観察— (25)~(60)

井上 秀雄 〈資料〉朝鮮城郭一覧—京畿道・忠清南北道編— 107~174
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 175~178

Summaries 卷末

105 (1982/昭和 57 年 10 月 26 日)

李 家源 朝鮮漢文学的演變及其展望 1~6

韓 永愚 (平木 実 訳) 茶山 丁若鏞の史論 7~19

浜中 昇 統一新羅における均田制の存否 21~56

崔 喆 小倉進平の郷歌歌名の表記に関して 57~60

薛 盛環 春香伝の主題の特性について 61~65

平木 実 『続三綱行実図』と教化教育 69~82

【影印】『続三綱行実図』(東洋文庫所蔵) 83~237

〈彙報〉朝鮮学会第 33 回大会記事、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 (9)~(23)

南 豊鉉 借字表記法の‘ㄷ’字について (1)~(8)

Summaries 卷末

106 (1983/昭和 58 年 1 月 26 日)

- 佐藤 進 検書官李徳懋—『奎章全韻』の文化史研究序説— 1~34
神鷹 徳治 朝鮮銅活字本「白氏策林」について 35~64
【影印】鑄字本「楞嚴經諺解」(零本、巻五・巻六)(天理
図書館所蔵・今西文庫) 65~249
- 菅野 裕臣 鑄字本楞嚴經諺解の校正部分に関する表 251~287
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 289~293
朝鮮学報昭和 57 年(1982 年)度総目次 295~298
- 志部 昭平 乙亥字本楞嚴經諺解について (1)~(24)
Summaries 巻末

107 (1983/昭和 58 年 4 月 26 日)

- 古畑 徹 七世紀から八世紀初にかけての新羅・唐関係—新羅外交史
の一試論— 1~73
- 福島 仁 朝鮮前期の朱子学における格物論 75~124
鄭 早苗 開仙寺石燈記 125~160
井上 秀雄 〈資料〉朝鮮城郭一覽—江原道・全羅南北道・済州道編— 161
~210
- 志部 昭平 鑄字本「楞嚴經諺解 跋」残(天理図書館所蔵・今西文庫)
211~220
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、訂正 221~226
Summaries 巻末

108 (1983/昭和 58 年 7 月 26 日)

- 吉岡 完祐 中国郊祀の周辺国家への伝播—郊祀の発生から香春新羅
神の渡来まで— 1~70
- 吉岡 新一 文禄・慶長の役における火器についての研究 71~109
金 義換 釜山倭館の職官構成とその機能について—李朝の対目政

策の一理解のために— 111~145

荊木 計男 〈書評〉『村上四男博士和歌山大学退官記念 朝鮮史論文集』
147~152

【影印】南二星編『語録解』（天理図書館所蔵） 153, 169
~262

朴 甲洙（大谷 森繁 訳） 『語録解』解題 155~262

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報、訂正 263
~266

Summaries 巻末

109（1983/昭和 58 年 10 月 26 日）

浜中 昇 高麗前期の量田制について 1~27

森岡 康 第二次清軍入寇後の朝鮮人捕虜の売買 29~55

成澤 勝 埋児説話の朝鮮的変容相について 57~76

梶井 陟 〈論文評〉「金素雲의 日訳詩에 대하여」について
77~89

油谷 幸利 〈資料〉中学校世界史教科書の KWIC(1)—本文篇(1)—
(53)~(115)

水谷 昌義 訳 〈文献紹介〉安鶴宮址発掘調査報告 (1)~(52)

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 91~94

Summaries 巻末

110（1984/昭和 59 年 1 月 26 日）

末松 保和 歴史家としての西厓・柳成龍（講演手記） 1~19

李 泰鎮（平木 実 訳） 一六世紀の韓国史にたいする理解の方向
21~36

山内 弘一 鹿門任聖周に於ける天人合一と気 37~57

朝鮮学報昭和 58 年（1983 年）度総目次 59~62

〈彙報〉朝鮮学会第 34 回大会記事、会報、近着寄贈交換

図書目録 (53)~(72)

- 金 昇坤 韓国語史読の処所格助詞「良中」の語源研究 (29)~(51)
権 寧徹 閨房歌辞について (1)~(28)
Summaries 卷末

111 (1984/昭和 59 年 4 月 26 日)

- 周藤 吉之 高麗朝の京邸・京主人とその諸関係—唐末・五代・宋の進
奏院・邸吏および銀台司との関連において— 1~51
李 元植 朝鮮通信使に随行した倭学訳官について—捷解新語の成
立時期に関する確証を中心に— 53~117
佐竹 保子 百濟武寧王誌石の字跡と、中国石刻文字との比較 119~187
村山 正雄 <書評> 湯浅幸孫校釈『翰苑校釈』 189~193
<彙報> 会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報、訂正 195
~200
油谷 幸利 <資料> 中学校世界史教科書の KWIC(2)—本文篇(2)—
(11)~(76)
최 응구 <学界消息> 조선어학계에서 논의되고있는 몇가지 문제
에 관하여 (1)~(10)
Summaries 卷末

112 (1984/昭和 59 年 7 月 26 日)

- 辛 澄恵 『黄草嶺新羅真興王巡狩碑』 碑文の字形研究 1~63
石井 正敏 張九齡作「勅渤海王大武芸書」について 65~105
浜中 昇 高麗後期の量田と土地台帳 107~132
大谷 森繁 『西周演義』と「諺書西周演義跋」 133~148
【影印】道春訓点『金鰲新話』(天理図書館所蔵) 149, 157
~250
大谷 森繁 天理図書館本『金鰲新話』解題 151~156
田川 孝三 中村栄孝先生追悼記事・弔辞 251~252

- 長 正統 中村栄孝先生と国際関係史—名古屋時代のことなど—
251~257
- 平木 実 天理時代の中村栄孝先生 257~259
- 平木 実 編 中村栄孝先生著作目録 259~266
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 267~272
Summaries 巻末

113 (1984/昭和 59 年 10 月 26 日)

- 古畑 徹 渤海建国関係記事の再検討—中国側史料の基礎的研究—
1~52
- 吉田 光男 李朝末期の漕倉構造と漕運作業の一例—『漕行日録』にみ
る—一八七五年の聖堂倉— 53~107
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 109~111
- 水谷 昌義 編訳 〈文献紹介〉高麗仏日寺の調査・研究—近年の共和国の研
究報告から— (97)~(136)
- 金 鎮英 (油谷 幸利 訳) 〈研究ノート〉李奎報の文学世界 (87)~(95)
- 趙 東一 (松尾 勇 訳) 〈研究ノート〉韓国文学史叙述の新しい方向
(75)~(86)
- 蘇 在英 (油谷 幸利 訳) 〈研究ノート〉国文 (ハングル) 小説の発
達過程 (65)~(73)
- 黄 汎江 〈研究ノート〉日本に於ける神話意識の展開 (57)~(63)
- Toh Soo-hee (都守熙) A Study Names of Paekche (1)~(55)
Summaries 巻末

114 (1985/昭和 60 年 1 月 26 日)

- 中村 完 ハングルの視点 1~17
- 姜 仁求 韓国の前方後円墳 追補 19~35
- 申 東旭 (飯田 今日子 訳) 新小説の性格と文学史的意義 37~75
- 李 杏九 (道業) 韓国仏教における華嚴信仰の展開—華嚴法会を中心

として— 77~118

- 水谷 昌義 〈書評〉杉山信三著『韓国の中世建築』 119~122
朝鮮学報昭和 59 年(1984 年)度総目次 123~127
〈彙報〉朝鮮学会第 35 回大会記事、会員消息、近着寄贈
交換図書目録、会報 (111)~(129)
- 油谷 幸利 〈資料〉中学校世界史教科書の KWIC(3)—本文篇(3)—
(63)~(109)
- 塩田 今日子 中期朝鮮語の接続語尾-거늘と-아/어늘について (37)~(62)
- 李 翊燮 近代韓国語文献의 表記法 研究—특히 分綴表記 發達을
中心으로— (1)~(36)
- Summaries 卷末

115 (1985/昭和 60 年 4 月 26 日)

- 荊木 計男 衛滿朝鮮王冊封について—前漢帝国遼東郡からのアプロ
ーチ— 1~25
- 小石 晶子 李重煥と『捩里誌』 27~102
- 秋月 望 朝中間の三貿易章程の締結経緯 103~137
- 鶴園 裕 坊刻本ハングル小説『辛未録』について 139~154
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 155~159
- 油谷 幸利 〈資料〉中学校世界史教科書の KWIC(4)—正順篇(4)—
(1)~(52)
- Summaries 卷末

116 (1985/昭和 60 年 7 月 26 日)

- 楊 普景(辻 稜三 訳) 〈紹介〉朝鮮時代の地理書に関する研究
序説 1~18
- 森田 芳夫 〈紹介〉韓国における主要図書館および蔵書目録 19~135
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 137~140
- 水谷 昌義 編 〈資料〉「故小川敬吉氏蒐集資料」目録(京都大学工学部建

築学教室蔵) (19)~(128)

- 門脇 誠一 中期朝鮮語の声調の特徴—特に15世紀末の文献を中心に—
(1)~(17)
Summaries 巻末

117 (1985/昭和60年10月26日)

- 三枝 寿勝 『無情』における類型的要素について—李光洙研究— 1
~63
池川 英勝 大垣丈夫について—彼の前半期— 65~84
奥村 周司 医師要請事件にみる高麗文宗朝の対日姿勢 85~124
(彙報) 会員消息、近着寄贈交換図書目録 125~128
【影印】『易言』卷之一・卷之二 (天理図書館所蔵) 129,
147~270
李 光麟 (平木 実 訳) 『易言』と韓国の開化思想 131~146
チョン ヨンチョル (金 洪圭 監修・水谷 昌義 訳) (紹介) 高麗の首都
開城城についての研究 (1)~(42)
Summaries 巻末

118 (1986/昭和61年1月26日)

- 杉山 信三 高麗僧侶の墓塔について—特に法泉寺智光国師玄妙塔—
1~18
金 芳漢 韓国語の系統研究に関する諸問題 19~33
蔡 壘 韓国現代小説における間島(満州)体験について—一九四
五年までの作品を中心に— 35~54
崔 柄憲 (平木 実 訳) 大覚国師義天の天台宗創立と仏教界の改
編 55~64
三枝 寿勝 八・一五以後における親日派問題—解放後の朝鮮文学—
65~114
森 公章 古代耽羅の歴史と日本—七世紀後半を中心として— 115

~143

〈彙報〉朝鮮学会第 36 回大会記事、会報、近着寄贈交換
図書目録 145~162

朝鮮学報昭和 60 年 (1985 年) 度総目次 163~166

【影印】『易言』卷之三・卷之四 (天理図書館所蔵) 167
~316

Summaries 卷末

119/120 合併号 (1986/昭和 61 年 7 月 26 日) 天理教教祖百年祭記念号

- 山田 忠一 刊行のことば 巻頭
平木 実 明治期における天理教の朝鮮・韓国伝教史 1~40
大谷 光男 古代中国から冊封された官印について 41~58
濱田 耕策 高句麗広開土王陵墓比定論の再検討 59~112
斎藤 忠 統一新羅の陵墓の考察—十二支像をもつ王陵を中心として— 113~142
竹谷 俊夫 新羅の陶製横笛について 143~160
内藤 雋輔 「朝鮮」における孝道の実践とその展開 (上) 161~188
周藤 吉之 高麗初期の中樞院、後の枢密院の成立とその構成—唐末・五代・宋初の枢密院との関連に於いて— 189~228
杉山 信三 中興山城の双獅子石灯—故小川敬吉氏蒐集資料より— 229~250
吉岡 完祐 高麗青磁の出現 251~291
須長 泰一 高麗後期の異常気象に関する一試考 293~326
菅野 修一 李朝初期農業水利の発展 327~362
藤本 幸夫 庚午字本『歴代兵要』攷 363~418
岸 浩 長門沿岸に漂着した朝鮮人の送還を巡る諸問題の検討 419~492
李 元植 林羅山と朝鮮通信使 493~524
池川 英勝 大垣丈夫の研究—大韓自強会との関連を中心にして— 525~567

- フリッツ・フォス 『遊仙窟』と『崔致遠伝』 569~580
- 岡山 善一郎 亀旨歌伝承の一考察 581~598
- 蘇 在英 (野崎 充彦 訳) 石洲権輶の生涯と文学 599~614
- 金 智勇 茶山丁若鏞の愛民憂国の詩文学攷 615~654
- 白川 豊 張赫宙の朝鮮語作品考 655~692
- 梶井 陟 近代における日本人の朝鮮文学観 (第一部) 一明治・大正
期一 693~730
- 朴 鎔 = (擘の偏と旁を上下に) 韓国の国語醇化運動—その現
状と課題— 731~772
- 平木 実 編集後記 付「趣意書」 (94)
- 金 美蘭 変身譚에 나타난 人間存在의 根拠問題 (71)~(92)
- 塚本 秀樹 数量詞の遊離について—日本語と朝鮮語の対照研究 (33)
~(69)
- 김 승곤 (金 昇坤) 중세국어의 형태소 「쑤」 과 「쑤녀」 의
통어기능 연구 (13)~(31)
- 門脇 誠一 再び中期朝鮮語における母音調和の乱れについて—特に
第Ⅲ語基母音 a/o を中心に— (1)~(11)
Summaries 別(1)~(30)

121 (1986/昭和 61 年 10 月 26 日)

- 宮本 一夫 朝鮮有文土器の編年と地域性 1~48
- 吉田 光男 一九世紀忠清道海難—漕運船の遭難—一九〇事例を通し
て— 49~86
- 李 妍淑 韓国上代詩歌文学における密教的性格考究 87~117
訂正 (第 117 輯) 118
- 野崎 充彦 〈胡人採宝譚〉の朝鮮的展開—〈許生別伝〉を中心に—
119~132
- 大村 益夫 〈調査報告〉尹東柱の事跡について 133~159
- 依田 千百子・村上 四男 〈書評〉熊谷治著『東アジアの民俗と祭
儀』 161~163

〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 165~172
Summaries 卷末

122 (1987/昭和 62 年 1 月 26 日)

- 小田 富士雄 日本出土品から見た日・羅交渉 1~32
金 正基 発掘調査を通じて見た慶州の新羅古墳 33~80
山内 弘一 丁若鏞の事天の学と修己治人の学について 81~114
孫 承喆 朝鮮後期実学思想の対外認識 115~143
シンポジウム報告：テーマ「新羅の王陵の研究」（発表者：
金関恕、西谷正、毛利光俊彦、崔秉鉉、穴沢味光、馬目順
一、伊藤秋男、竹谷俊夫、李殷昌） 145~251
〈彙報〉 朝鮮学会第 37 回大会記事、会報、近着寄贈交換
図書目録 253~264
朝鮮学報昭和 61 年（1986 年）度総目次 265~269
Summaries 卷末

123 (1987/昭和 62 年 4 月 26 日)

- 浜中 昇 高麗時代の姓氏の記録、『古籍』について—『世宗実録』
地理志姓氏条の史料性格— 1~34
六反田 豊 李朝初期の田税輸送体制—各道単位にみたその整備・変遷
過程— 35~152
辻 陵三 『朝鮮産野生食用植物』の内容とその資料的価値 153~177
古畑 徹 〈研究ノート〉 広開土王碑の発見・採拓に関する若干の史
料紹介 179~195
〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 197~202
正誤表（第 122 輯） 203
Summaries 卷末

124 (1987/昭和 62 年 7 月 26 日)

- 田代 和生 対馬藩の朝鮮米輸入と「倭館枅」—宗家記録『斛一件覚書』
からみた朝鮮米の計量法— 1~47
- 鄭 光 朝鮮朝における訳科の蒙学とその蒙学書—来甲午式年の
訳科初試の蒙学試巻を中心として— 49~82
- 朴 湧植 古小説의 現夢思想攷 (1)~(46)
【影印】『青邱全図』乾 (天理図書館所蔵) 別1~200
- 武田 幸男 <彙報> 三上次男先生を偲んで 83~84
<彙報> 会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 85~88
Summaries 卷末

125 (1987/昭和 62 年 10 月 26 日)

- 熊谷 治 『三国遺事』にみえる神仙思想—天降り神話を中心にして—
1~13
- 中西 豪 朝鮮側史料に見る倭城—その観察と理解の実相— 15~58
【影印】『青邱全図』坤 (天理図書館所蔵) 別201~396
- 平木 実 解題『青邱全図』 別1~4
<彙報> 会員消息、近着寄贈交換図書目録 59~61
Summaries 別(1)~(2)

126 (1988/昭和 63 年 1 月 26 日)

- 武田 幸男 広開土王碑の拓本を求めて 1~18
- 李 明九 韓国古代小説発達史における一、二の問題 19~49
- 鄭 玉子 (河野 真理子・萩 千草 共訳) 朝鮮後期の歴史研究における
若干の問題 51~62
<彙報> 朝鮮学会第 38 回大会記事、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 63~77
朝鮮学報昭和 62 年 (1987 年) 度総目次 79~82
【影印】『春香伝』上・下 (東京大学総合図書館所蔵) 83

103~219

- 朴 甲洙 東京大学本『春香伝』について 85~102
南 基心(鈴木 陽二 訳) 二重主語構文再考 (1)~(17)
Summaries 卷末

127 (1988/昭和 63 年 4 月 26 日)

- 須川 英徳 開港期朝鮮における絹業について—その商品生産の実情
の解明— 1~41
金 義煥 釜山倭館貿易の研究—一五世紀から一七世紀にかけての
貿易形態を中心に— 43~72
小野 尚美 李光洙『無情』の自伝的要素について 73~119
梶井 陟 近代における日本人の朝鮮文学観(第二部)—昭和期~一
九四五年まで— 121~156
梅田 博之 <彙報> 長正統教授の逝去を悼む 157~158
<彙報> 会員消息、近着寄贈交換図書目録 159~163
【影印】『医科榜目』巻一(天理図書館所蔵・今西文庫) 165
~238
Summaries 卷末

128 (1988/昭和 63 年 7 月 26 日)

- 田口 容三 李朝末期の国債報償運動について 1~36
吉野 誠 吉田松陰と朝鮮 37~56
<彙報> 会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報、訂正 57
~62
【影印】『医科榜目』巻二(天理図書館所蔵・今西文庫) 63
~136
【影印】『陰徳記』七十六卷「高麗詞之事」(岩国市徴古館所
蔵) 137~160
志部 昭平 陰徳記高麗詞之事について—文禄慶長の役における仮名

書き朝鮮語資料— (1)~(102)

Summaries 卷末

129 (1988/昭和 63 年 10 月 26 日)

- 出口 晶子 韓国・鬱陵島の伝統的筏船とその意味—日本海地域における技術の領域性ならびに剝船との技術複合をめぐって—
1~26
- 北村 秀人 『新撰八道地理志』雑考 27~67
- 山内 正博 『李朝実録』の記事に对照した英祖大王の「行状」の記述の意義 69~109
- エツコ・オバタ・ライマン 〈研究ノート〉朝鮮の国字と日本の国字
111~138
- 藤本 幸夫 〈彙報〉梶井陟先生を悼む 139~141
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 142~144
- 志部 昭平 「陰徳記高麗詞之事について」(第 128 輯) 正誤及び補遺
145~146
- 野間 秀樹 〈하룻다〉の研究—現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって— (1)~(73)
Summaries 卷末

130 (1989/平成元年 1 月 26 日)

- 武田 幸男 徳興里壁画古墳被葬者の出自と経歴 1~36
- 西本 昌弘 帯方郡治の所在地と辰韓廉斯邑 37~66
- 古江 亮仁 慶州瑞鳳塚出土合杆の銘文についての二・三の問題 67
~84
- 康 成銀 三・一運動における「民族代表」の活動に関する一考察 85
~106
- 山尾 幸久 〈書評〉武田幸男著『広開土王碑原石拓本集成』 107~118
〈彙報〉朝鮮学会第 39 回大会記事、会報、会員消息、近

着寄贈交換図書目録 119~141

朝鮮学報昭和 63 年 (1988 年) 度総目次 143~146

鈴木 陽二 한국어와 일본어의 재귀대명사 비교연구 (1)~(54)
Summaries 卷末

131 (1989/平成元年 4 月 26 日)

六反田 豊 『嶺南大同事目』と慶尚道大同法 1~56

菅野 修一 載寧郡箭灘の水利開発一朝鮮朝における国家の川防建設
の分析— 57~93

千 二斗 韓国的“恨”について—特に日本のものあわれとの比較
を中心に— 95~114

伊藤 英人 現代朝鮮語動詞の非過去テンス形式の用法について (1)
~(44)

武田 幸男 〈資料紹介〉中野政一『鴨緑行』 115, 149~195

武田 幸男 中野政一『鴨緑行』解説—或る軍人の見た大正 2 年の朝鮮
西北境— 117~148

榎 一雄 〈彙報〉田川孝三先生追悼記事・弔辞 197~199

北村 秀人 〈彙報〉田川孝三先生を偲んで 199~201

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、訂正 202~206

Summaries 卷末

132 (1989/平成元年 7 月 26 日)

須川 英徳 朝鮮甲午改革以前における海関税収入と開化政策の関連
について—開化政策の財源問題— 1~50

安達 義博 朝鮮後期の物価変動—米価変動と酒造業の発展を中心に—
51~78

秋月 望 朝中勘界交渉の発端と展開—朝鮮側の理念と論理— 79
~108

関 德基 朝鮮朝前期の「日本国王」観—「敵礼」的観点より— 109

~144

- 辻 陵三 東アジアの堅果食 I ー日韓先史時代におけるドングリ食
の共通性 145~190
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 191~195
Summaries 巻末

133 (1989/平成元年 10 月 26 日)

- 安部井 正 新羅村落文書に見える九等戸区分について 1~14
河内 良弘 李朝成宗時代の女真と朝鮮 15~54
河村 一夫 朝鮮国王族李垸鎔の来日について (一) 55~68
高 寛敏 百濟近仇首王の対倭外交 69~96
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 97~99
徐 尚揆 時間副詞의 時間表示機能에 대하여—「지금」과의 比較
를 통한 時間副詞「이제」에 대한 研究— (23)~(96)
田谷 幸利 朝鮮語の同形異語について (1)~(22)
Summaries 巻末

134 (1990/平成 2 年 1 月 26 日)

- 金 宅圭 東アジア諸地域の族体系について—族体系の理念と実態
からみた連続と変容に関する比較試論— 1~45
西本 昌弘 帯方郡から不弥国まで—中国・朝鮮使節の目でみた魏志倭
人伝— 47~91
平木 実 朝鮮朝中宗・明宗代の早魃をめぐる天譴意識とその社会
93~136
〈彙報〉朝鮮学会第 40 回大会記事、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 137~152
朝鮮学報平成元年(1989年)度総目次 153~156
薛 盛璟 九雲夢의 素材源에 관한 研究 (65)~(79)
野間 秀樹 〈할것이다〉の研究—再び現代朝鮮語の用言の mood 形式

をめぐって— (1)~(64)

Summaries 巻末

135 (1990/平成2年4月26日)

- 村山 正雄 石上神宮・七支刀銘文発見の経緯と若干の新知見 1~56
桑野 栄治 李朝初期の祀典を通してみた檀君祭祀 57~101
池川 英勝 日韓同志会について 103~155
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 157~160
野間 秀樹 朝鮮語の名詞分類一語彙論・文法論のために— (1)~(59)
Summaries 巻末

136 (1990/平成2年7月26日)

- 信原 修 「誠信堂記」をよむ 1~17
青野 正明 植民地期朝鮮における農村再編成政策の位置付け—農村
振興運動期を中心に— 19~60
波田野 節子 李光洙の民族主義思想と進化論 61~129
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 131~134
荻野 綱男・金 東俊・梅田 博之・羅 聖淑・盧 顕松 日本語と韓国語の
聞き手に対する敬語用法の比較対照 (1)~(51)
Summaries 巻末

137 (1990/平成2年10月26日)

- 田代 和生 朝鮮通信使行列絵巻の研究—正徳元年(1711)の絵巻仕立
てを中心に— 1~46
三枝 寿勝 李光洙と仏教 47~113
松原 孝俊 朝鮮における伝説生成のメカニズムについて—主に琉球
王子漂着譚を中心として— 115~154
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 155~158

伊藤 英人 現代朝鮮語動詞の過去テンス形式の用法について(1)—
烈々形について— (1)~(53)
Summaries 巻末

138 (1991/平成3年1月26日)

平木 実 朝鮮史の展開における王権—朝鮮王朝時代を中心に— 1
~17
姜 信沆 王権と訓民正音の創製 19~43
李 範稷 (浅井 良純 訳) 朝鮮王朝における王権と五礼 45~51
成澤 勝 朝鮮における孝意識の演化と孝感譚(一)—孝感奇応話素
典型分類表の作成を中心に— 53~80
〈彙報〉朝鮮学会第41回大会記事、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 81~92
朝鮮学報平成2年(1990年)度総目次 93~95
藤田 亮策 (遺稿)『海印寺雑板攷』(一) 別1~98+まえがき・序
浜之上 幸 現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス (1)~(93)
Summaries 巻末

139 (1991/平成3年4月26日)

広瀬 貞三 水豊発電所建設による水没地問題—朝鮮側を中心に— 1
~35
高 寛敏 『三国史記』の国内原典について 37~69
波田野 節子 李光洙の自我—作品を通して見た李光洙の第一次留学時
代の世界観— 71~101
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 103~106
藤田 亮策 (遺稿)『海印寺雑板攷』(二) 別99~192
Summaries 巻末

140 (1991/平成3年7月26日)

- 三枝 寿勝 金東仁における近代文学—イロニーの挫折— 1~53
 藤永 壮 開港後の「会社」設立問題をめぐって—朴琪涼と汽船業・
 鉄道業—(上) 55~86
 シンポジウム報告：テーマ「朝鮮の王権をめぐる諸問題」
 (パネラー：金用淑、依田千百子、松前健、竹谷俊夫、田
 中俊明、李範稷。司会：井上秀雄、平木実) 87~173
 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 175~178
 藤田 亮策 (遺稿)『海印寺雑板攷』(三) 別 193~274
 徐 尚揆 現代朝鮮語の程度副詞について—副詞〈아주〉の〈程度〉
 と〈様態〉の意味を中心に— (1)~(62)
 Summaries 巻末

141 (1991/平成3年10月26日)

- 藤永 壮 開港後の「会社」設立問題をめぐって—朴琪涼と汽船業・
 鉄道業—(下) 1~38
 青野 正明 朝鮮農村の「中堅人物」—京畿道驪州郡の場合— 39~68
 大谷 光男 高麗朝および『高麗史』の暦日について 69~112
 三枝 寿勝 李箱のモダニズム—その成立と限界— 113~178
 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、訂正 179~182
 任 榮哲 〈研究ノート〉在日韓国人の名前の使い分け (43)~(62)
 荻野 綱男・金 東俊・梅田 博之・羅 聖淑・盧 顕松 日本語と韓国語の
 第三者に対する敬語用法の比較対照 (1)~(42)
 Summaries 巻末

142 (1992/平成4年1月26日)

- 盧 泰敦 (浅井 良純 訳) 韓国民族の形成過程に関する理論的考察
 1~12
 信原 修 鄭後僑『扶桑紀行』にみる交隣と誠信—鄭後僑・雨森芳洲・

松浦霞沼らを拾いよむ— 13~58

- 崔 恵洙 韓末における金沢栄の中国亡命と朝鮮認識 59~107
〈彙報〉朝鮮学会第42回大会記事、会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録 109~124
朝鮮学報平成3年(1991年)度総目次 125~128
- 浜之上 幸 現代朝鮮語の「結果相」=状態パーフェクト—動作パーフェクトとの対比を中心に— (41)~(108)
- 大江 孝男 語学研修の方法について—朝鮮語教育の一環として— (1)~(39)
- Summaries 巻末

143 (1992/平成4年4月26日)

- 須川 英徳 十八世紀朝鮮における経済動向について—乱塵・辛亥共通の再検討— 1~55
- 波田野 節子 獄中豪傑の世界—李光洙の中学時代の読書歴と日本文学— 57~107
- 藤本 幸夫 李朝訓読攷 其一 —『牧牛子修心訣』を中心にして 付 小倉本『牧牛子修心訣』 109~218
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 219~221
- 朴 ソプ(朴 燮) 植民地朝鮮における肥料消費の高度化 (1)~(24)
- Summaries 巻末

144 (1992/平成4年7月26日)

- 新井 宏 量田制における頃と結 1~28
- 浜中 昇 高麗初期村落の性格をめぐって—血縁集団説の再検討— 29~50
- 嶋 陸奥彦 大丘戸籍にみる朝鮮後期の家族構造の変化—「父母と同居する子」を中心に 51~88
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 89~93

- 柴 公也 「漢字語+시키다」について—再帰性・他動性・使役性・
受動性との関わりをめぐって— (87)~(150)
- 浜之上 幸 アスペクトとテキストの時間的構成について—時間的局
所限定性・タクシス性の観点から— (1)~(86)
- Summaries 巻末

145 (1992/平成4年10月26日)

- 松原 孝俊 神話学から見た『広開土王碑文』 1~54
- 田口 容三 国民教育会および興士団について 55~84
- 志部 昭平 宣祖時改訳の三綱行実について—主に壬辰之乱前古本に
ついて— 85~132
- 【影印】『三綱行実図』(一)(東京大学総合図書館所蔵) 133
~214
- 菅野 裕臣 〈紹介〉志部昭平著『諺解三綱行実図研究』(全二冊) 215
~218
- 河野 六郎 〈彙報〉末松保和先生を偲ぶ 219~220
- 大谷 森繁 〈彙報〉末松保和先生を偲びて 220~222
- 武田 幸男 〈彙報〉末松先生をおくる 222~223
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 224~226
- 青山 秀夫 〈研究ノート〉象徴語の一部の派生接尾辞について (25)
~(32)
- 洪 允杓 近代韓国語의 助詞에 대한 研究 (1)~(23)
- Summaries 巻末

146 (1993/平成5年1月26日)

- 長 節子 興利倭船の研究 1~49
- 高 寛敏 『三国史記』高句麗本紀の国内原典 51~76
- 趙 鎮基(熊木 勉 訳) 一九二〇年代芸術大衆化論について—日
本の場合と比較して— 77~85

- 金 泰植 (浅井 良純 訳) 六世紀中葉加耶連盟の滅亡過程 87~94
 【影印】『三綱行実図』(二) (東京大学総合図書館所蔵) 95
 ~240
- 井上 秀雄 洪淳昶著『韓国古代の歴史』 241~246
 〈彙報〉朝鮮学会第43回大会報告 247~261
- 菅野 裕臣 〈彙報〉故志部昭平氏を追悼する 262~264
- 藤本 幸夫 〈彙報〉志部昭平氏を悼む 264~266
 〈彙報〉会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録 267~270
 朝鮮学報平成4年(1992年)度総目次 271~274
 Summaries 卷末

147 (1993/平成5年4月26日)

- 直木 孝次郎 百濟滅亡後の国際関係—とくに郭務悰の来日をめぐって—
 1~24
- 吉田 光男 戸籍から見た二〇世紀初頭ソウルの「人」と「家」—京都
 大学所蔵『漢城府戸籍』の基礎的分析— 25~119
- 白川 豊 佐賀高等学校時代の金史良 121~173
 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 175~199
- 간노 히로오미 (菅野 裕臣) R・I・아마네소프의 이론에 비추어 본
 한국어 음운론 (1)~(28)
 Summaries 卷末

148 (1993/平成5年7月26日)

- 米谷 均 雨森芳洲の対朝鮮外交—「誠信之交」の理念と実態— 1
 ~32
- 波田野 節子 ヒョンシクの意識と行動にあらわれた李光洙の人間認識
 について—『無情』の研究(上)— 33~100
- 浅川 晋 「十二月十二日」論 101~145
- 李 康民 対馬宗家文庫所蔵の『物名』について 147~182

【影印】『物名』（対馬宗家文庫所蔵） 183～217

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 219～223

池谷 幸利 朝鮮語の用例検索について (1)～(22)
Summaries 巻末

149 (1993/平成 5 年 10 月 26 日)

東 潮 遼東と高句麗壁画—墓主画像の系譜— 1～46
丹羽 泉 巫俗儀礼にあらわれる잡신について—動態論的な視角から— 47～65
平岩 俊司 〈書評〉鈴木昌之著『北朝鮮—社会主義と伝統との共鳴』
67～76
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 77～80
徐 尚揆 현대 한국어의 시능말의 문법적 기능에 대한
연구—풀이말과의 결합관계를 중심으로— (63)～(192)
노마 히데키 (野間 秀樹) 現代韓國語의 接統形 <-다가> 에 對하여
—aspect・taxis・用言分類— (1)～(62)
Summaries 巻末

150 (1994/平成 6 年 1 月 26 日)

趙 榮濟 (竹谷 俊夫 訳) 陝川玉田古墳群の墓制について 1～28
田代 和生 渡海訳官使の密貿易—対馬藩「潜商議論」の背景— 29
～84
〈彙報〉朝鮮学会第 44 回大会記事、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 85～97
朝鮮学報平成 5 年 (1993 年) 度総目次 99～102
浜之上 幸 物語のテキストにおけるテンス・アスペクト・否定 (73)
～(129)
趙 義成 現代朝鮮語の-에서格について (19)～(72)
권 재일 한국어 문법범주의 변화에 대한 연구 (1)～(17)

Summaries 卷末

151 (1994/平成6年4月26日)

- 六反田 豊 李朝初期の漕運運営機構 1~61
有井 智徳 李朝初期駅制研究 63~154
尹 幸舜 日本書紀諸古写本に見える「城」の訓法—「キ」と「サシ」
を中心に— 155~171
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 173~176
伊藤 英人 中世 韓国語の ‘하나다’와 ‘하다’에 대하여—三綱行実図
諺解의 用例分析— (1)~(34)
Summaries 卷末

152 (1994/平成6年7月26日)

- 古田 博司 儒礼教化以前朝鮮葬祭法復原攷 1~53
波田野 節子 京城学校でおきたこと—『無情』の研究(中) 55~108
本田 洋 韓国家族論の現在—全羅北道南原郡一山間農村の事例か
ら— 109~166
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 167~171
権 在淑 現代朝鮮語の接続形Ⅲ-서について (1)~(46)
Summaries 卷末

153 (1994/平成6年10月26日)

- 菅野 修一 朝鮮朝初期における義倉制の開始—国家の賑恤政策と烟
戸米法— 1~45
平木 実 朝鮮時代前期における胡椒交易をめぐる 47~73
李 承妍 朝鮮における『朱子家礼』の受容および展開過程—金長生
の『家礼輯覽』を中心に— 75~122
金 秀姫 朝鮮開港以後に於ける日本漁民の朝鮮近海漁業の展開

123~156

柳 玟和 『日本書紀』記載の朝鮮固有名表記—本文の表記字を対象として— 157~213

〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録 215~218

油谷 幸利 朝鮮語 CAI の研究 (19)~(36)

塚本 秀樹・鄭 相哲 韓国語における漢語動詞の受身文について (1)~(17)

Summaries 巻末

154 (1995/平成7年1月26日)

李 光麟 (平木 実 訳) 韓国開化期の諸問題 1~14

米谷 均 近世日朝関係における対馬藩主の上表文について 15~55

鈴木 信昭 朝鮮に伝来した漢訳天主教書—1801年辛酉教難の時期まで— 57~95

崔 恵洙 『韓史纂』をめぐる金沢栄と儒林との褒貶論争 97~145

崔 喆 (松尾 勇 訳) 韓国古詩歌の形式について—特に三句六名の解釈— 147~152

〈彙報〉 朝鮮学会第45回大会記事、会報、近着寄贈交換図書目録 153~168

朝鮮学報平成6年(1994年)度総目次 169~172

金 恩希 条件形式「-(어)야」をめぐる—日本語との対照— (25)~(47)

蔡 琬 韓国語 特殊助詞 研究의 한 反省 (1)~(23)

Summaries 巻末

155 (1995/平成7年4月26日)

広瀬 貞三 植民地期朝鮮における官斡旋土建労働者—道外斡旋を中心に— 1~46

浅井 良純 日帝侵略初期における朝鮮人官吏の形成について—大韓

- 帝国官吏出身者を中心に— 47~90
- 藤井 稔 菅政友による「七支刀」の銘文研究について—『外来金器文字記』と銘文発見の経緯についての考察から— 91~152
【影印】『外来金器文字記』付「大和国石上神宮宝庫所蔵六叉刀」（管仲生家所蔵） 153~214
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、訂正 215~218
- 柴 公也 「-다 보니까」の意味と用法について (1)~(35)
Summaries 巻末

156 (1995/平成7年7月26日)

- 伊藤 亜人 文化人類学から見た朝鮮学の展望 1~12
- 田代 和生・米谷 均 宗家旧蔵「図書」と木印 13~96
- 鶴園 裕 沈寿官家本『漂民対話』について 97~128
- 丁 貴連 韓国の近代文学における国木田独歩の受容の諸様相—田栄沢、金東仁、李光洙を例として— 129~209
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 211~215
- 金 善姬 後続母音のピッチにおよぼす影響からみた子音の分類 (1)~(18)
Summaries 巻末

157 (1995/平成7年10月26日)

- 平木 実 朝鮮後期における圜丘壇祭祀について (一) 1~22
- 大野 祐二 村落祭祀から重要無形文化財へ—韓国・恩山別神祭の事例から— 23~51
- 波田野 節子 ヨンチェ・ソニョソ・三浪津—『無情』の研究 (下) — 53~133
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 135~138
- 蘇 在英 朝鮮朝 流配文学의 史的 研究—濟州地域을 중심으로— (47)~(88)

李 殷娥 透明な言語・不透明な言語—韓日の婉曲表現と挨拶表現を
めぐって— (1)~(46)
Summaries 巻末

158 (1996/平成 8 年 1 月 26 日)

申 東旭 1950 年代の韓国小説について 1~34
池川 英勝 大韓帝国末期各団体にみられる日本人顧問について—佐
伯剛平— 35~128
矢野 百合子 聖徳山観音寺縁起説話の形成と変容 129~161
和田 とも美 李泰俊の文学の底流にあるもの—李泰俊はなぜ短篇作家
なのか— 163~203
〈彙報〉朝鮮学会第 46 回大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 205~221
朝鮮学報平成 7 年(1995 年)度総目次 223~226
林 憲燦 〈研究ノート〉日・韓両語における使役文—使役文を構成
する要素の相関関係を手掛かりにして— (1)~(22)
Summaries 巻末

159 (1996/平成 8 年 4 月 26 日)

宋 基豪 (浅井 良純 訳) 日本・渤海の国書に反映された内紛期の
渤海社会 1~17
有井 智徳 朝鮮初期馬政研究 19~70
山内 弘一 洪大容の華夷観について 71~109
月脚 達彦 朝鮮開化思想の構造—兪吉濬『西遊見聞』の文明論的立憲
君主制論— 111~144
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 145~148
柳 仁順 味読의 즐거움 —李泰俊의 [聖母]를 중심으로— (31)~(56)
徐 禎穆 (平木 葉子 訳) 現代韓国語 '하오体語尾'の形態論的特徴
(1)~(30)

Summaries 卷末

160 (1996/平成8年7月26日)

- 森平 雅彦 高麗後期の賜給田をめぐる政策論議について—14世紀初葉の政局情勢にみるその浮上背景— 1~43
- 古川 昭 群山各国居留地(共同租界)の研究 45~88
- 青野 正明 朝鮮総督府の神社政策—1930年代を中心に— 89~132
- 白川 豊 李石薫(牧洋)作品考—資料整理を中心に— 133~188
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 189~193
- 陳 満理子 現代朝鮮語の-ㄹ格について—単語結合論の観点から—
(1)~(64)

Summaries 卷末

161 (1996/平成8年10月26日)

- 桑野 栄治 高麗から李朝初期における円丘壇祭祀の受容と変容—祈雨祭としての機能を中心に— 1~50
- 辻 陵三 東アジアの堅果食Ⅱ—日本と韓国における砂栗の共通性について 51~102
- 山田 佳子 吳貞姫論—「바람의 녀」を中心に 103~140
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、訂正 141~144
- 鄭 鉉淑 現代朝鮮語接続形-고について—その意味・用法をめぐる— (1)~(93)

Summaries 卷末

162 (1997/平成9年1月26日)

- 秋山 進午 東北アジア初期青銅器をめぐる幾つかの問題 1~20
- 早乙女 雅博・早川 泰弘 日韓硬玉製勾玉の自然科学的分析 21~42
- 信原 修 正徳辛卯信使の来日と詩文唱酬の実態—山県周南・当壮菴

一族らを中心に— 43~122

- 徐 大錫 (熊木 勉 訳) 韓国の建国神話に反映された天神と水神との関係—高句麗の建国神話を中心に— 123~133
〈彙報〉朝鮮学会第 47 回大会記事、会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録 135~156
朝鮮学報平成 8 年 (1996 年) 度総目次 157~160
- 李 暉洙 現代朝鮮語の複合動詞について—動詞の語尾 (아) + 「내다」を中心に— (61)~(97)
- 五十嵐 孔一 「原因・理由」を表わす接続形 “-(아/어)서” と “-(으)니까” について—従属節の包含構造を中心にして— (15)~(60)
- 李 珧鎬 後期 中世韓國語의 名詞句 修飾에 對한 研究 (1)~(14)
Summaries 卷末

163 (1997/平成 9 年 4 月 26 日)

- 藤本 幸夫 朝鮮書誌学の諸問題 1~19
- 鄭 万祚 (平木 実 訳) 朝鮮朝の書院に関する若干の問題 21~42
- 小野 尚美 李光洙『無情』を読む 43~230
- 月脚 達彦 〈書評〉原武史著『直訴と王権—朝鮮・日本の「一君万民」思想史』 231~242
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、訂正 243~246
- 丸田 孝志・林 憲燦 〈研究ノート〉「漢語+になる」の用法と特徴—韓国語との対応関係を中心に— (37)~(60)
- 趙 義成 현대한국어의 단어결합에 대하여 (1)~(36)
Summaries 卷末

164 (1997/平成 9 年 7 月 26 日)

- 広瀬 貞三 一九一〇年代の道路建設と朝鮮社会 1~55
- 尹 裕淑 近世癸亥約条の運用実態について—潜商・闖出事例を中心に— 57~99

- 姜 東燁 一八世紀における韓日文学交流と宮瀬龍門 101~130
- 六反田 豊 〈書評〉崔完基著『朝鮮後期船運業史研究』 131~137
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 139~143
- 矢野 謙一 〈研究ノート〉朝鮮語の擬声擬態語—単音節語の音形と音
交替— (55)~(79)
- 岸田 文隆 『漂民対話』のアストン文庫本について (33)~(53)
- 崔 明玉 16世紀 韓国語의 尊卑法 研究—《清州北一面順天金氏墓
出土簡札》資料를 중심으로— (1)~(32)
- Summaries 卷末

165 (1997/平成9年10月26日)

- 平木 実 朝鮮時代末期の駅における雇工・奴婢に関する一考—『魚川
誌・魚川駅誌』などにみえる事例分析をとおして— 1~25
- 月脚 達彦 保護条約以後の「実力養成運動」の論理と活動—兪吉濬と
漢城府民会を中心に— 27~71
- 十河 俊輔 一九二〇年代満洲における独立運動団体と朝鮮人社会—
正義府を事例として— 73~103
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、訂正 105~108
- 内山 政春 現代朝鮮語における合成用言について—〈用言第 III 語基
+用言〉の分析— (39)~(114)
- 村田 寛 〈해었다〉の研究—現代朝鮮語の時間の表現— (1)~(38)
- Summaries 卷末

166 (1998/平成10年1月26日)

- 宮田 節子 日本の朝鮮支配を考える—二代真柱・中山正善先生を偲ん
で— 1~20
- 細野 涉 高麗時代の開城—羅城城門の比定を中心とする復元試案—
21~79
- 吉川 友丈 洪景来の乱における反乱主導部の戦略と意識—その組織

形成の実態を手がかりに— 81~118

李 妍淑 新羅初期雜密思想攷—郷歌の思想性探求のための— 119
~146

金 栄敏 (山田 佳子 訳) 韓国近代小説の形成過程研究—〈叙事的
論説〉と〈論說的叙事〉を中心に— 147~165

白川 豊 〈書評〉慎根繕著『韓日近代文学の比較研究』 167~174
〈彙報〉朝鮮学会第 48 回大会記事、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 175~200

朝鮮学報平成 9 年 (1997 年) 度総目次 201~204

成 光秀 韓国語 統辞構造上の表現論的 特徴 (I) (1)~(19)

Summaries 卷末

167 (1998/平成 10 年 4 月 26 日)

朴 秉濠 (平木 葉子 訳) 韓国史における個人的自由と統制—朝鮮
時代の生活史を中心に— 1~21

片山 まび 一六世紀の朝鮮陶磁と草創期の唐津焼との比較研究—「近
世的な窯業」の萌芽を視座として— 23~67

李 承妍 朝鮮における『朱子家礼』の受容および展開過程 II—『南
溪集』を中心に— 69~108

和田 とも美 金南天長篇小説論—新聞連載小説、その可能性の追求—
109~161

青山 秀夫 〈彙報〉石原先生をおくる (石原六三先生追悼記事) 163~164
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 165~168

岸田 文隆 〈研究ノート〉アストン旧蔵の「交隣須知」関係資料につ
いて (1)~(39)

Summaries 卷末

168 (1998/平成 10 年 7 月 26 日)

武田 幸男 蔚州書石「癸巳六月銘」の研究—新羅・沙喙部集団の書石

谷行一 1~28

和田 とも美 「家族史年代記小説」の成立をめぐる—1940年前後を中心— 29~68

李 建志 許俊論 69~129

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 131~136

尹 鎬淑 近代日・韓両語における受身表現の対照研究—新聞を中心として— (39)~(92)

村田 寛 〈連体形+것 같다〉をめぐる—現代朝鮮語のムード形式の研究 (1)~(37)

Summaries 卷末

169 (1998/平成 10 年 10 月 26 日)

信原 修 雨森芳州の僧形と還俗の間 1~34

川原 秀城 東算と天元術—一七世紀中期—一八世紀初期の朝鮮数学— 35~71

林 慶澤 韓国村落共同体の構成原理に関する—考察—カトリック信仰村にみられる韓国村落共同体の根元的性格— 73~117

桑野 栄治 〈書評〉全海栄著『朝鮮初期の祀典に関する研究』 119~126

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 127~129

山田 寛人 〈研究ノート〉朝鮮語学習書・辞書から見た日本人と朝鮮語—1880年~1945年— (53)~(83)

五十嵐 孔一 現代朝鮮語の用言接続形〈-느라 (고)〉について—「タクシス」と「図と地」の観点から— (1)~(52)

Summaries 卷末

170 (1999/平成 11 年 1 月 26 日)

鈴木 靖民 渤海国家の構造と特質—首領・生産・交易— 1~28

- 鄭 光 訳学書研究の諸問題—朝鮮司訳院の倭学書を中心として—
29~66
- 金 仁杰 (平木 実 訳) 朝鮮後期の社会変動と郷村社会史研究 67
~75
- 鄭 明基 (松尾 勇 訳) 『青野談藪』の源泉と変異様相の研究 77
~118
- 山田 佳子 崔貞熙の短篇小説研究—「天脈」を中心に— 119~159
李 建志 〈研究ノート〉「寡婦の夢」の世界—李人植文学の原点—
161~185
- 古畑 徹 〈書評〉李成市著『東アジアの王権と交易—正倉院の宝物
が来たもうひとつの道—』 187~197
〈彙報〉朝鮮学会第49回大会報告 199~220
- 中村 完 恩師河野六郎先生のこと (河野六郎先生追悼記事) 221~222
〈彙報〉会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録 224~226
朝鮮学報平成10年(1998年)度総目次 227~231
Summaries 巻末

171 (1999/平成11年4月26日)

- 鈴木 信昭 18世紀末朝鮮天主教信徒の西洋船舶要請計画—信徒らの
西洋観と関連して— 1~42
- 李 鎔賢 統一新羅の伝達体系と「北海通」—韓国慶州雁鳴池出土の
一五号木簡の解釈— 43~64
- 伊藤 幸司 一五・六世紀の日明・日朝交渉と夢窓派華藏門派—日本国
王使の外交僧をめぐる— 65~101
- 藤石 貴代 金南天の「浪費」「経営」「麦」連作について 103~143
村上 祥子 〈研究ノート〉コクトゥカクシノリと八幡古表神社・古表
神社の傀儡子舞 145~193
- 木下 礼仁 村上四男先生追悼記事 195~197
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 198~202
Summaries 巻末

172 (1999/平成 11 年 7 月 26 日)

- 月脚 達彦 独立協会の「国民」創出運動 1~41
林 雄介 運動団体としての一進会—民衆との接触様相を中心に—
43~67
- 青井 哲人 朝鮮の居留民奉斎神社と朝鮮総督府の神社政策—「勝地」
としての神社境内の形成およびその変容と持続— 69~
115
【影印】『郷飲酒礼儀節』(天理大学朝鮮学科研究所蔵) 117,
125~158
- 平木 実 『郷飲酒礼儀節』 解題 119~124
内山 政春 〈書評〉 延世大学校言語情報開発研究院編『延世韓国語辞
典』 159~168
〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 169~174
- 大林 直樹 韓国語の第一音節におけるアルタイ祖語の*Ö のあらわれ
かた (1)~(18)
Summaries 巻末

173 (1999/平成 11 年 10 月 26 日)

- 太田 修 大韓民国樹立と日本—日韓通商交渉の分析を中心に 1~
48
- 徳成 外志子 朝鮮王朝後期の国家財政と貢物・進上 49~85
波田野 節子 『狂画師』再読—あらたな解釈の可能性およびイメージの
源泉について 87~133
- 島田 龍 〈紹介〉 韓国の巫俗信仰について—崔吉城氏『恨の人類学』
から— 135~139
〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録 141~143
- 内山 政春 現代朝鮮語の接続形-어서と-고について (19)~(52)
油谷 幸利 辞書検索の指導法について—文末形の場合— (1)~(18)

Summaries 卷末

174 (2000/平成 12 年 1 月 26 日)

- 高 柄翊 東アジア史上の記録文化 1~18
- 平木 実 朝鮮学会の創立と天理大学(試稿) 19~33
- 武田 幸男 天理図書館蔵「高句麗広開土王陵碑」拓本について 35~60
- 佐々 充昭 檀君ナショナリズムの形成—韓末愛国啓蒙運動期を中心に— 61~107
- 李 東夏(鈴木 陽二 訳) 韓同現代文学批評の二つの類型—白樂晴批評とキム・ヒョン批評の対比を中心に— 109~131
- 邊 恩田 〈新資料紹介〉朝鮮刊本『金鰲新話』発掘報告の紹介と成立年代 133~155
- 〈彙報〉朝鮮学会第 50 回大会記事、会報、近着寄贈交換図書目録 157~183
- 朝鮮学報平成 11 年(1999 年)度総目次 185~189
- 金 志泳 〈書評〉BrimMyers: Han sórya and North Korean Literature—The Failure of Socialist Realism in the DPRK— (21)~(26)
- 宋 喆儀 尺度名詞 派生과 言語 普遍性的의 한側面 (1)~(19)
- Summaries 卷末

175 (2000/平成 12 年 4 月 26 日)

- 板垣 竜太 農村振興運動における官僚制と村落—その文書主義に注目して— 1~42
- 金 載昊 近代的財政制度の成立過程における皇室財政—韓国と日本との比較— 43~81
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、訂正 83~87
- 崔 賢淑 韓国における食生活外部化動向の計量分析—主成分分析を用いて— (129)~(140)

村田 寛	現代朝鮮語の〈-ㄷ〉連体形について (85)~(128)
菅野 裕臣	『捷解蒙語』について (1)~(83)
	Summaries 卷末

176/177 合併号 (2000/平成 12 年 10 月 26 日) 創立 50 周年記念号

	刊行の言葉 卷頭
東 潮	渤海墓制と領域 1~20
池川 英勝	大同社・衡平社について—1935 年から 40 年まで— 21~47
井上 秀雄	任那の調 49~66
大谷 森繁	朝鮮小説の実像 67~100
大村 益夫	共和国における金朝奎の足跡と作品改作 101~134
岡山 善一郎	「兜率歌」と歴史記述 135~154
斎藤 忠	開城市靈通寺跡の大覚国師碑の現状について—付 大覚国師の墓域の新発見— 155~183
武田 幸男	「広開土王碑」の土難・水難・火難説 185~203
中村 完	回想十一年 朝鮮学修業 205~215
濱田 耕策	新羅の下代初期における王権の確立課程とその性格 217~249
浜中 昇	高麗前期の土地利用方式について—『高麗史』食貨志所収諸規定の再検討— 251~282
平木 実	朝鮮後期における園丘壇祭祀について (二) 283~310
藤本 幸夫	対馬豊慶龍院蔵朝鮮伝来薬師如来坐像胎蔵朝鮮資料について 311~354
	朝鮮学会沿革 355~372
	〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 373~380
橋本 武人	記念号刊行趣意書 (34)
鈴木 陽二	編集後記 (34)
松尾 勇	依存名詞만금について (1)~(33)
	Summaries 卷末

178 (2001/平成 13 年 1 月 26 日)

- 井上 直樹 『韓暨墓誌』を通してみた高句麗の対北魏外交の一側面—
六世紀前半を中心に— 1~37
- 菅野 修一 朝鮮世宗代の賑恤政策に関する一考察—制度・対象・支給
量・政策変化 39~95
- 貫井 正之 壬辰丁酉倭乱および戦後の日朝交渉における惟政(松雲大
師)の活動に関する考察 97~139
- 永島 広紀 一進会立「光武学校」考 141~180
- 禹 快濟(鈴木 陽二 訳) 伝統文化の理解と韓・日両国関係—朝鮮
研究会の古書珍書刊行を中心に— 181~205
(彙報) 第 51 回朝鮮学会大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 207~237
朝鮮学報平成 12 年(2000 年)度総目次 239~242
Summaries 巻末

179 (2001/平成 13 年 4 月 26 日)

- 山尾 幸久 五、六世紀の日朝関係—韓国的前方後円墳の一解釈— 1~43
- 西谷 正 韓国的前方後円墳をめぐる諸問題 45~66
- 東 潮 倭と栄山江流域—倭韓の前方後円墳をめぐる— 67~112
- 柳沢 一男 全南地方の栄山江型横穴式石室の系譜と前方後円墳 113
~155
- 田中 俊明 韓国的前方後円形古墳の被葬者・造墓集団に対する私見
157~180
- 金 洛中(竹谷 俊夫 訳) 五~六世紀の栄山江流域における古墳の性
格—羅州新村里九号墳・伏岩里三号墳を中心に— 181~236
- 朴 淳発(吉井 秀夫 訳) 栄山江流域における前方後円墳の意義
237~262
創立 50 周年記念シンポジウム報告: テーマ「古代日朝関
係史研究の現段階—5、6 世紀の日朝関係—」(パネリスト:

東潮、大竹弘之、金洛中、田中俊明、西谷正、朴淳発、柳
沢一男、山尾幸久。司会：鈴木靖民。通訳：山本孝文、吉
井秀夫) 263~298

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 299~302

Summaries 巻末

180 (2001/平成 13 年 7 月 26 日)

- 門脇 誠一 銘文の検討による高句麗初期仏教の実相—徳興里古墳墨
書中の仏教語彙を中心に— 1~27
- 佐々 充昭 韓末における檀君教の「重光」と檀君ナショナリズム 29
~63
- 太田 修 第一次日韓会談再考—基本条約及び財産請求権問題を中
心に— 65~102
- 趙 鎮基 朴南秀の詩の変貌と谷川俊太郎—朴南秀の詩的な源泉を
中心として— 103~129
- 前川 達哉 〈研究ノート〉六堂文庫本『破睡椎』の特徴 131~162
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 163~168
- 鄭 玄淑 I-고, III-서と動詞のアスペクト的特徴との関連性—アス
ペクト形式による用言分類を通して— (1)~(51)
- Summaries 巻末

181 (2002/平成 13 年 10 月 26 日)

- 大竹 弘之 韓国全羅南道の円筒形土器—いわゆる埴輪形土製品をめ
ぐって— 1~49
- 太田 秀春 文禄・慶長の役における日本軍の築城観の変遷について—
朝鮮邑城の利用から倭城築城への過程を中心に— 51~86
- 信原 修 釜山訓導・玄徳潤の墓碣碑銘をよむ 87~129
- 土井 浩嗣 一九二〇年代における朝鮮総督府の勸農行政機構—「産米
増殖計画」と朝鮮農会令— 131~170

- 朴 美子 牧隱李穡と「연못 (蓮池)」 171~194
 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 195~198
- 李 珧鎬 한글筆寫本 『도야기문 (朝野記聞)』의 疑問法研究 (23)
 ~ (39)
- 松尾 勇 接辞「-적 (的)」について (1)~(22)
 Summaries 卷末

182 (2002/平成 14 年 1 月 26 日)

- 小林 芳規 韓国における角筆文献の発見とその意義—日本古訓点との関係— 1~82
- 山田 寛人 金融組合理事に対する朝鮮語奨励政策 83~119
- 李 鍾黙 (桑嶋 里枝 訳) 朝鮮前期韓日文士の文学交流の様相について 121~155
- 林 治均 (山田 恭子 訳) 『劉生傳』研究—日本人「橋本蘇洲」の筆写本を中心に— 157~176
 〈彙報〉第 52 回朝鮮学会大会報告、会報、近着寄贈交換図書目録 177~209
 朝鮮学報平成 13 年 (2001 年) 度総目次 211~214
 Summaries 卷末

183 (2002/平成 14 年 4 月 26 日)

- 石川 寛 明治維新期の対馬藩政と日朝関係 1~38
- 鄭 雲采 (徐 民静 訳) 韓国古典文学と文学治療 39~56
 【影印】『楚顛 = [可+欠] 録』(天理大学附属天理図書館所蔵) 57, 73~105
- 前川 達哉 影印『楚顛 = [可+欠] 録』解題 59~71
 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、訂正 107~111
- 金 珍娥 日本語と韓国語における談話ストラテジーとしてのスピーチレベルシフト (51)~(91)

中島 仁 現代朝鮮語の動詞の連体形「한」について (23)~(50)
南 豊鉉 高麗時代 角筆点吐 积読口訣의 種類와 그 解読—晋本華
嚴經卷 20 의 点吐积読口訣을 중심으로— (1)~(22)
Summaries 卷末

184 (2002/平成 14 年 7 月 26 日)

原田 一良 『本紀』檀君即位年の復元 1~41
矢木 毅 高麗時代の内侍と内僚 43~76
崔 蘭英 近代朝鮮の外交政策の一側面—「朝貢関係」と「条約関係」
— 77~116
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 117~123
三松 国宏・宇都木 昭 朝鮮語ソウル方言のプロソディーの基本
構造について (35)~(70)
油谷 幸利 만들다의 格支配構造—人間が主語になる用例を中心に—
(1)~(34)
Summaries 卷末

185 (2002/平成 14 年 10 月 26 日)

山内 弘一 十九世紀昌寧県の郷吏について—『戸籍大帳』による事例
分析— 1~40
押川 信久 朝鮮王朝建国当初における僧徒の動員と統制 41~72
藤井 賢二 李承晩ライン宣布への過程に関する研究 73~112
山田 恭子 『癸丑日記』研究—内人達の受難を中心に— 113~136
仲村 修 〈研究ノート〉李元寿の親日作品 137~154
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 155~158
金 善美 指示詞고と저の現れ方と知識の共有度について (1)~(23)
Summaries 卷末

186 (2003/平成 15 年 3 月 26 日)

- 浜中 昇 高麗における公・私と公田・私田 1~36
- 金 允植 (白川 豊 訳) 国民国家の文学観からみた二重言語創作
の問題—解放前における朝鮮作家の日本語による創作に
ついて— 37~64
- 都 賢喆 (福井 譲 訳) 高麗末における性理学の特徴 65~86
- 平木 実 朝鮮時代初期における「虎」をめぐる 87~125
〈彙報〉第 53 回朝鮮学会大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 127~154
朝鮮学報平成 14 年 (2002 年) 度総目次 155~158
- 関 賢植 (鈴木 陽二 訳) 開化期のハングル本『易言』の研究 (1)
~(38)
Summaries 巻末

187 (2003/平成 15 年 4 月 26 日)

- 武田 幸男 新羅・蔚珍鳳坪碑の「教事」主体と奴人法 1~38
- 金 永柱 初期東学思想における西学観—その天主観を中心に—
39~66
- 阿形 佐恵子 朝鮮半島における英国聖書公会聖書販売人「売書人」に関
する基礎的研究—一八八三年から一九一五年を中心に—
67~89
- 岡山 善一郎 郷歌「彗星歌」と歴史記述 91~112
- 松尾 勇 〈彙報〉池川英勝先生を偲ぶ 113~114
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 114~119
- 金 珍娥 “turn-taking システム” から “turn-exchanging システ
ム”—韓国語と日本語における談話構造:初対面二者間の
会話を中心に— (47)~(82)
- 須賀井 義教 中期朝鮮語における対格—対格語尾の有無と文の階層構
造, 単語結合 (1)~(45)
Summaries 巻末

188 (2003/平成 15 年 7 月 26 日)

- 仲尾 宏 朝鮮国礼曹参判書契の所在と伝世一久世家旧蔵新出史料
を中心に— 1~22
- 李 元植 「韓氏両世墨妙」の発見に寄せて—壬辰倭乱艾主事所管文
書を中心に— 23~39
- 佐々 充昭 植民地期における朝鮮儒教会の活動 41~75
- 大竹 聖美 〈研究ノート〉明治期少年雑誌に見る朝鮮観—日清戦争(一
八九四)~日韓併合(一九一〇)前後の『穎才新誌』・『少
年園』・『小国民』・『少年世界』— 77~103
- 平木 実 〈彙報〉前川利一氏を偲んで 105
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 106~112
- 金 恩愛 日本語の名詞志向構造 (nominal-oriented structure) と韓国
語の動詞志向構造 (verbal-oriented structure) (1)~(83)
Summaries 巻末

189 (2003/平成 15 年 10 月 26 日)

- 矢木 毅 高麗時代の宰相制度—合坐制とその周辺— 1~30
- 呉 吉煥 百濟熊津時代の領域支配体制について—「二二檐魯」と「地
名王・候」を中心に— 31~67
- 荒木 和憲 対馬島主宗貞盛の政治的動向と朝鮮通交 69~109
- 原 智弘 韓末官立中等教育機関の社会的評価—官吏任用制度との
関連で— 111~147
- 山田 佳子 崔貞熙の作品集『風流잡히는 마을』について 149~182
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 183~186
- 油谷 幸利 이다の省略と縮約—에요카에요카— (1)~(15)
Summaries 巻末

190 (2004/平成 16 年 3 月 26 日)

- 韓 永愚 (平木 葉子 訳) 朝鮮時代における『儀軌』の編纂とその
資料的価値 1~19
- 田中 俊明 高句麗の平壤遷都 21~60
- 金 大幸 (松尾 勇 訳) 笑って涙をぬぐう (웃음으로 눈물 닦기)
61~71
- 〈彙報〉第 54 回朝鮮学会大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 73~102
- 朝鮮学報平成 15 年 (2003 年) 度総目次 103~106
- 内山 政春 現代朝鮮語の接続形-다가について (53)~(99)
- 片 茂鎮 『交隣須知』の系統について (17)~(51)
- 洪 宗善 중세 한국어의 상대 높임법 ‘하니체’ 의 설정 (1)~(16)
Summaries 卷末

191 (2004/平成 16 年 4 月 26 日)

- 武田 幸男 新羅・蔚珍鳳坪碑の「教事」執行階層と受刑者 1~30
- 木村 拓 15 世紀朝鮮王朝の対日本外交における図書使用の意味—
冊封関係との接点の探求 31~76
- 金 範洙 旧韓末における留学生監督に関する一考察—留学生監督
申海永を中心に— 77~106
- 西山 順子 朝鮮戦争期の韓国女性従軍作家とその作品について 107
~149
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 151~154
- 金 珍娥 韓国語と日本語の turn の展開から見たあいづち発話 (1)
~(28)
- Summaries 卷末

192 (2004/平成 16 年 7 月 26 日)

- 吉田 光男 朝鮮近世社会史料としての戸籍 1~29

- 鈴木 信昭 朝鮮儒学者李暉光の世界地理認識 31~84
- 北原 スマ子 第三次修信使の派遣と「日朝通商章程」の改定・課税交渉
85~126
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 127~132
- 高 明均 (長谷川 由起子 訳) 韓国の通信言語の特徴とその
意味に関する研究 (37)~(73)
- 伊藤 智ゆき 『六祖法宝壇経諺解』『真言勸供・三壇施食文諺解』の音
韻的特徴 (1)~(35)
Summaries 巻末

193 (2004/平成 16 年 10 月 26 日)

- 橋本 繁 金海出土『論語』木簡と新羅社会 1~32
- 長森 美信 一八世紀濟州地域の凶年と賑恤策—朝鮮王朝国家の濟州
支配と関連して— 33~74
- 浅井 良純 韓国併合前後における日本人官僚について—文官高等試
験合格者を中心に— 75~110
- 藤井 賢二 李承晩ラインと日韓会談—第一次~第三次会談における
日韓の対立を中心に— 111~146
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 147~150
- 朴 真完 〈研究ノート〉近代韓国語資料『捷解新語』対訳文の資料
性—日本語的表現の変化を中心に— (53)~(92)
- 尹 容善 中世韓国語繫辞構文についての一考—“行為・状態”の繫
辞構文を中心に— (23)~(52)
- 伊藤 英人 刊経都監訳経僧の白話解釈と翻訳をめぐる—『蒙山法
語』諺解の分析— (1)~(21)
Summaries 巻末

194 (2005/平成 17 年 3 月 26 日)

- 安田 純也 高麗時代の内道場—内帝釈院を中心として— 1~52

- 西野 玄 仁川居留地に関する一考察—仁川日本居留地埋立問題を
中心に— 53~90
- 山田 佳子 習作期の崔貞熙 91~127
- 金 在湧 (波田野 節子 訳) 北朝鮮文学の最近の変化と南北交流の展
望 129~142
〈彙報〉第 55 回朝鮮学会大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 143~172
朝鮮学報平成 16 年 (2004 年) 度総目次 173~176
- 李 丞宰 韓国 符点口訣의 記入 位置 (1)~(25)
Summaries 卷末

195 (2005/平成 17 年 4 月 26 日)

- 新井 宏 日韓古代遺跡における高麗尺検出事例に対する批判的検
討 1~38
- 李 泰勳 朝鮮三浦恒居倭の刷還に関する考察 39~88
- 波田野 節子 『林巨正』の「不連続性」と「未完性」について 89~141
- 大谷 森繁 〈彙報〉中村完先生をしのぶ 143~146
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 147~150
- 孫 禎慧 日本語を母語とする韓国語学習者の誤用分析—해서形と
하고形を中心に— (1)~(64)
Summaries 卷末

196 (2005/平成 17 年 7 月 26 日)

- 東 潮 加耶と倭の歴史環境 1~55
- 朱 甫暉 (内山 正文・押川 信久 共訳) 新羅骨品制社会とその変化
57~101
- 金 東旭 『三国志』東夷伝に見える小水貂 103~132
- 蘇 仁鎬 (山田 恭子 訳) 『金鰲新話』の創作背景と小説史的性格
133~151

- 前川 達哉 『朴天男傳』研究—翻案過程及び翻案様相を中心に—
153~188
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 189~193
- 五十嵐 孔一 現代朝鮮語の‘그나마’について (1)~(33)
Summaries 巻末

197 (2005/平成 17 年 10 月 26 日)

- 赤羽目 匡由 新羅末高麗初における東北境外の黒水・鉄勒・達姑の諸族
—渤海・新羅との関係において 1~44
- 小林 玲子 「韓国併合」前後における間島居住朝鮮人の法的地位と帰
化政策 45~82
- 宋 恵媛 『文学新聞』にみる在日朝鮮人の文学とその動向 83~115
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 117~120
- 張 美仙 現代韓国語の「한다」形と「하고 있다」形について一文
の種類と語彙という観点から— (55)~(104)
- 村田 寛 15 世紀朝鮮語の対格について—単語結合論の観点から—
(1)~(53)
Summaries 巻末

198 (2006/平成 18 年 3 月 26 日)

- 徐 淵昊 (伊藤 好英 訳) 『教訓抄』の伎楽と河回別神仮面劇との
相関性 1~23
- 石井 正敏 『小右記』所載「内蔵石女等申文」にみえる高麗の兵船に
ついて 25~73
- 原 智弘 大韓帝国期の試験制官吏任用制度について—ソウル大学
校奎章閣所蔵『銓考請願書』と『文官銓考所去文』の基礎
的分析— 75~113
〈彙報〉第 56 回朝鮮学会大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 115~146

- 朝鮮学報平成 17 年 (2005 年) 度総目次 147~150
- 林 田 韓国語の自動受身文と他動受身文—〈X·ka [Y·eykey] Z·ka
受身動詞〉文と〈X·ka [Y·eykey] Z·lul 受身動詞〉文を中心
に— (61)~(115)
- 徐 尚揆 의미 빈도 사전과 어휘 연구 (33)~(60)
- 油谷 幸利 接続形式における日朝対照研究—朝鮮語教育の観点から—
(1)~(31)
- Summaries 巻末

199/200 合併号 (2006/平成 18 年 7 月 26 日)

- 東 潮 高句麗王陵と巨大積石塚—国内城時代の陵園制— 1~36
- 大谷 森繁 朝鮮朝小説史の課題 (一) —金萬重の小説史における系譜
について— 37~62
- 長田 夏樹 海東禪宗を巡って—聖住寺朗慧和尚白月葆光塔碑銘を資
料として— 63~89
- 斎藤 忠 高麗玄化寺碑について—とくに線刻の図文の紹介— 91
~109
- 武田 幸男 高麗の雑所・雑尺に関する考察 111~150
- 長森 美信 朝鮮近世海路の復元 151~190
- 波田野 節子 『林巨正』執筆第二期に見られる‘ゆれ’について 191
~230
- 濱田 耕策 高句麗長寿王という時代—父王公開土王の治績を継いで
— 231~263
- 藤本 幸夫 朝鮮版『唐駱賓王詩集』攷 265~290
〈彙報〉会報、近着寄贈交換図書目録、会員消息 291~298
- 白川 豊 廉想渉の 1930 年代中盤長篇小説考—1932~36 年を中心
に— (121)~(167)
- 油谷 幸利 만들다의格支配構造 (2) —人間以外が主語になる用例を
中心に— (83)~(119)
- 野間 秀樹 現代朝鮮語の丁寧化のマーカ— “-yo/-iyo” について

(37)~(81)

- 岸田 文隆 早稲田大学服部文庫所蔵の「朝鮮語訳」について—「隣語
大方」との比較— (1)~(35)
Summaries 巻末

201 (2006/平成 18 年 10 月 26 日)

- 鈴木 信昭 朝鮮に伝来した利瑪竇『兩儀玄覽図』 1~30
李 泰勳 朝鮮三浦恒居倭の法的位置—朝鮮・対馬の恒居倭に対する
「検断権」行使を中心に— 31~88
山田 佳子 朴花城の植民地期の作品と舞台について 89~126
渡辺 直紀 林和の詩作品における抒情性の位相について 127~164
李 燦旭 (北島 由紀子 訳) 時調の律格に表出した韓国人の美意識
165~180
(彙報) 会員消息、近着寄贈交換図書目録 181~183
中西 恭子 中期朝鮮語の与格標示について—敬語法との関係を中心
に— (39)~(65)
趙 義成 후기 중세 한국어의 {-애}에 대하여— 단어결합론의
관점에서 — (1)~(37)
Summaries 巻末

202 (2007/平成 19 年 2 月 26 日)

- 田代 和生 朝鮮国書原本の所在と科学分析 1~45
中田 稔 丁未年(一九〇七)刊『鶴坡先生実紀』の検討—鶴城李氏
家門における始祖李藝像の形成— 47~90
李 相瓊 (波田野 節子 訳) 植民主義と女性文学の二つの道—崔貞熙
と池河連— 91~124
北島 由紀子 朝鮮神話の女神について—文献神話を中心に— 125~165
西山(小野) 順子 朝鮮戦争期の朴栄濬と黄順元の短篇小説について
167~217

〈彙報〉朝鮮学会第 57 回大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 219~253

朝鮮学報平成 18 年（2006 年）度総目次 255~258

白 峰子（松尾 勇 訳） 談話状況を考慮した韓国語文法教育 (1)
~(26)

Summaries 巻末

203 (2007/平成 19 年 4 月 26 日)

井上 直樹 集安出土の新出文字資料からみた高句麗の支配体制につ
いての一考察—府官制にふれて— 1~40

押川 信久 朝鮮成宗代の度僧法存廢論議 41~67

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 69~72

安 垠姫 単語結合論的観点から見た韓国語の「타다」と日本語の「乗
る」—日韓国語彙の対照的記述の方法論的な試みとして—
(69)~(111)

伊藤 智ゆき 朝鮮語真言・陀羅尼転写音の音韻論的研究 (31)~(67)

白川 豊 廉想渉と張赫宙—朝鮮近代作家の二つの〈生〉と文学—
(1)~(30)

Summaries 巻末

204 (2007/平成 19 年 7 月 26 日)

山本 孝文 新羅古墳出土土俑の服飾と官位制 1~34

酒井 裕美 開港期の朝鮮外交主体・統理交渉通商事務衙門に関する一
考察—甲申政変前における地方官庁との関係、とくに財政
政策を一例として— 35~60

阿形 佐恵子 朝鮮半島における英国聖書公会パイブルウーマン(Bible
Woman)の実態と、プロテスタント伝道活動上の特徴（一
八九五—一九四〇） 61~100

李 炯植 戦前期における中央朝鮮協会の軌跡—その設立から宇垣

総督時代まで— 101~140

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 141~146

五十嵐 孔一 現代朝鮮語の‘나마’について (1)~(42)
Summaries 巻末

205 (2007/平成 19 年 10 月 26 日)

鄭 恩任 (金 年泉 訳) 宮中文学の特質と位相 1~47

鄭 勝謨 (長森 美信 訳) 門中組織と郷村中人—朝鮮後期の農民層
分化と関連した二つの社会相— 49~90

川西 裕也 朝鮮初期における官教文書様式の変遷—頭辞と印章を中
心として— 91~135

李 尚珍 在朝鮮日本人浅川伯教・巧兄弟の朝鮮理解—植民地期にお
ける兄弟の朝鮮工芸論を中心に— 137~170

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 171~174

林 東勲 韓国語助詞‘만’과‘도’의 意味論 (1)~(20)
Summaries 巻末

206 (2008/平成 20 年 3 月 26 日)

濱田 耕策 新羅の遣唐使と崔致遠 1~20

鈴木 信昭 利馬竇『兩儀玄覧図』攷 21~60

中尾 道子 画員金弘道における士人意識の胚胎—「檀園図」が語るも
の— 61~98

李 孝淑 一六・一七世紀西人における〈金時習〉認識 99~130

〈彙報〉朝鮮学会第 58 回大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 131~169

朝鮮学報平成 19 年 (2007 年) 度総目次 171~174

池谷 幸利 朝鮮語 web 辞典の設計について (1)~(37)
Summaries 巻末

207 (2008/平成 20 年 4 月 26 日)

- 森平 雅彦 高麗における宋使船の寄港地「馬島」の位置をめぐって—
文献と現地の照合による麗宋間航路研究序説— 1~47
- 近藤 剛 嘉祿・安貞期(高麗高宗代)の日本・高麗交渉について 49
~86
- 浦川 登久恵 モデル小説・廉想渉《해마라기》の分析 87~136
- 辻 星児 〈書評〉野間秀樹編著『韓国語教育論講座 第一巻』 137
~141
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 143~145
- 金 善美 現代韓国語と日本語における「이/ (この) +X」の範疇解
釈を導く名詞と述語について—現代韓国語と日本語を中
心に— (39)~(60)
- 池 鳳花 延辺朝鮮語音借語の語音特徴とアクセントパターンにつ
いて (1)~(38)
- Summaries 巻末

208 (2008/平成 20 年 7 月 26 日)

- 太田 秀春 朝鮮後期の国防体制再編における日本城郭—朝鮮の役後
の倭城再利用の実相と城郭観— 1~47
- 松浦 章 十九世紀初期に朝鮮・中国へ漂着した難民との言語接触
49~82
- 坂田 沙代 「金剛山楡岾寺事蹟記」にあらわれた元干渉期における護
国思想 83~128
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 129~133
- 丁 仁京 韓国語の文末表現「것이다」のスコープ機能 (29)~(64)
- 유 현경・남 길임(岡 裕美 訳) 結合関係による ‘아래’ と ‘밑’
の意味研究 (1)~(27)
- Summaries 巻末

209 (2008/平成 20 年 10 月 26 日)

- 安 輝濬 (丁 仁京 訳) 朝鮮王朝の前半期 (初期及び中期) に於ける対中・対日美術交流 1~34
- 小林 玲子 「韓国併合」後の間島における朝鮮民族独立運動に対する日本の取締 35~82
- 濱田 耕策 〈書評〉武田幸男著『広開土王碑との対話』 83~91
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 93~95
- 辻野 裕紀 韓国語大邱方言における名詞のアクセント体系 (47)~(84)
- 石橋 道秀 仮名書き朝鮮語による 16 世紀末 ‘・’ の音価についての基礎的研究—第 2 音節以下に ‘・’ を含んだ ‘旨’ を中心に— (19)~(46)
- 鄭 在永 韓国 古代 文書木簡의 国語史的 意義 (1)~(18)
Summaries 卷末

210 (2009/平成 21 年 3 月 26 日)

- 豊島 悠果 一一一六年入宋高麗使節の体験—外交・文化交流の現場— 1~55
- 辻 大和 一七世紀初頭朝鮮における薬用人蔘政策の定立とその意義 57~93
- 原 智弘 植民地期朝鮮における朝鮮人の公立普通学校就学要因分析—学校増設計画と経済的要因を中心に— 95~128
- 大村 益夫 〈書評〉野間秀樹編著『韓国語教育論講座 第 4 巻』 129~133
〈彙報〉朝鮮学会第 59 回大会報告、会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録 135~173
朝鮮学報平成 20 年 (2008 年) 度総目次 175~178
- 金 智賢 現代韓国語の談話における無助詞について—主語名詞句を中心に— (37)~(84)
- 杉山 豊 『分類杜工部詩諺解』初刊本の音調的特徴 (1)~(36)

Summaries 卷末

211 (2009/平成 21 年 4 月 26 日)

- 六反田 豊 『西岳志』異本考—その概要と類型化— 1~40
加藤 裕人 高麗末期から朝鮮建国期における僧徒と建築技術 41~
75
鄭 早苗 井上秀雄先生を悼む 77~79
(彙報) 会員消息、近着寄贈交換図書目録 79~82
金 恩恵 意味グループをなす内外空間名詞「안, 속, 밖, 길」の意
味用法について (87)~(133)
鄭 光 訓民正音の字形の独創性—『蒙古字韻』のパスパ文字との
比較を通して— (41)~(86)
油谷 幸利 朝鮮語 Web 辞典について—用例辞典から学習辞典へ—
(1)~(40)

Summaries 卷末

212 (2009/平成 21 年 7 月 26 日)

- 森平 雅彦 黒山諸島海域における宋使船の航路—『高麗図経』所載の
事例から— 1~45
宋 恵媛 在日朝鮮人文学における 1950 年代—詩誌『ゼンダレ』
分析 47~94
(彙報) 会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 95~99
李 憲卿 韓国語の先語末語尾 ‘-烈-’の対人的機能について—ポラ
イトネス効果を中心に— (103)~(127)
金 民 現代朝鮮語の動詞の連体形と被修飾名詞の共起に関する
研究—hanun (…する) 連体形を中心に— (67)~(101)
野間 秀樹 現代朝鮮語研究の新たなる視座〈言語はいかに在るか〉と
いう問いから—言語研究と言語教育のために— (1)~(66)

Summaries 卷末

213 (2009/平成 21 年 10 月 26 日)

- 吉田 光男 朝鮮近世の継後養子と父系系譜の継承意識—階層・身分との関係を中心に— 1~36
- 横山 恭子 近世中期朝鮮通信使の乗馬調達 37~72
- 郭 炯徳 「光の中に」を読み返す—「贖罪意識」と「啓蒙」の問題から 73~113
- 〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 115~117
- 金 珍娥 日本語と韓国語の文末における緩衝表現 (1)~(79)
- Summaries 巻末

214 (2010/平成 22 年 3 月 26 日)

- 全 京秀 (宮原 葉子 訳) 京城帝国大学の学術調査と「京城学派」の誕生—人類学分野にフォーカスを合わせて— 1~62
- 武田 幸男 広開土王碑「李超瓊本」の来歴問題—最初期墨本の方位系統を中心に— 63~97
- 黄 鍾淵 (白川 豊 訳) 儒教の郷邑から東洋の古都へ—慶州空間の植民地的再編に関して— 99~129
- 吉田 光男 〈書評〉藤本幸夫著『日本現存朝鮮本研究 集部』 131~141
- 〈彙報〉朝鮮学会第 60 回大会報告、会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録 143~193
- 朝鮮学報平成 21 年 (2009 年) 度総目次 195~198
- 白 斗鉉 『訓民正音』解例本の 影印과 『合部訓民正音』 研究 (1)~(29)
- Summaries 巻末

215 (2010/平成 22 年 4 月 26 日)

- 尹 善泰 (篠原 啓方 訳) 百済の文書行政と木簡 1~32
- 安田 純也 高麗時代の経行について 33~56
- 押川 信久 朝鮮初期の尼僧管理問題—王室・王都の状況を中心として—
57~89
- 全 淑美 日本植民地期のブラジル朝鮮移民—移住の経緯と移住が
実現したその要因— 91~128
- 樋浦 郷子 一九三〇年代後半の朝鮮神宮における夏季早朝参拝 129~
178
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 179~181
Summaries 巻末

216 (2010/平成 22 年 7 月 26 日)

- 藤本 幸夫・エリザベス ドロシィ マッキロップ 大英図書館所蔵朝
鮮本に就いて 1~63
- 熊木 勉 〈研究ノート〉李泰俊の日本体験—長編小説『思想の月夜』
の「東京の月夜」を中心に— 65~113
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 115~118
- 全 恵子 現代韓国語の先語末語尾 {-ㄹ-} の文法的機能について
(51)~(99)
- 丁 仁京 韓国語の終結語尾 ‘-ㄴ걸’ ‘-ㄷ걸’ の研究—話し手が言
及する情報と統語形式との関連— (1)~(50)
Summaries 巻末

217 (2010/平成 22 年 10 月 26 日)

- 波田野 節子 李光洙の第二次留学時代—『無情』の再読(上)— 1~37
- 加藤 圭木 植民地期朝鮮における「市街地計画」—咸鏡北道羅津の事
例を中心に— 39~70
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 71~73
- 金 珍娥 〈非述語文〉の現れ方と discourse syntax—日本語と韓国

語の談話から— (71)~(121)

矢野 謙一 位置の名詞と属格 (29)~(70)

白川 豊 廉想渉の1950年前後の長編小説について—(暁風)〈暖流〉
〈驟雨〉を中心に— (1)~(27)

Summaries 巻末

218 (2011/平成23年1月26日)

藤本 幸夫 国立ギメ東洋美術館所蔵朝鮮本に就いて 1~37

具 仁謨(波田野 節子 訳) 韓国近代詩におけるメディア越境の体験
—朝鮮歌謡協会を中心に— 39~79

波田野 節子 体験と創作のあいだ—『無情』の再読(下)— 81~114

郭 炯徳 金史良作「天馬」における「モデル問題」再考 115~143
〈彙報〉朝鮮学会第61回大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録 145~202, 205~208

松尾 勇 青山秀夫先生のご逝去を悼む 203~204

朝鮮学報平成22年(2010年)度総目次 209~212

金 善孝 朝鮮語の助詞結合と通時統語論 (1)~(22)

Summaries 巻末

219 (2011/平成23年4月26日)

糟谷 憲一 「韓国併合」100年と朝鮮近代史 1~38

鈴木 開 丁応泰の変と朝鮮—丁酉倭乱期における朝明関係の一局
面— 39~71

武井 一 保護国韓国の在外国家機関の法的地位について—東京で
の民族運動の拠点「留学生監督部」の不可侵をめぐる—
73~113

咸 苔英 1910年代の李光洙の登場とその意味—『毎日申報』の路
線との関係を中心に— 115~154

宋 恵媛 在日朝鮮人詩人姜舜論—その生涯と詩作をめぐる—

155~199

- 辻 星児 〈書評〉野間秀樹著 『ハンゲルの誕生——音から文字を創る』 201~207
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 209~211
Summaries 巻末

220 (2011/平成 23 年 7 月 26 日)

- 権 斗煥 豊山洪門所蔵 英・荘・正祖三代 御筆札 1~28
橋本 繁 浦項中城里新羅碑の研究 29~66
鄭 東俊 百済の武王代における六佐平——八部体制—— 67~97
川西 裕也 高麗末・朝鮮初における任命文書体系の再検討 99~137
安 志那 張赫宙の日本語小説『開墾』における満洲開拓イデオロギ
一の展開 139~168
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 169~173
五十嵐 孔一 『우리말본』の「말소리갈」について (1)~(24)
Summaries 巻末

221 (2011/平成 23 年 10 月 26 日)

- 井上 直樹 六世紀末から七世紀半ばの東アジア情勢と高句麗の対倭
外交 1~42
木村 拓 朝鮮王朝世宗による事大・交隣両立の企図 43~82
鈴木 信昭 朝鮮仁祖八年問安官崔有海の伝聞した西学情報——陳奏
使鄭斗源が西洋文物を贈与された遠因—— 83~115
山近 久美子・渡辺理絵・小林茂 広開土王碑文を将来した酒匂
景信の中国大陸における活動——アメリカ議会図書館蔵
の手描き外邦図を手がかりに—— 117~159
曹 圭益 朝鮮朝文宣王の樂章研究 161~192
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 193~194
Summaries 巻末

222 (2012/平成 24 年 1 月 26 日)

- 波田野 節子 李光洙研究について 1~27
- 浦川 登久恵 羅蕙錫の離婚後の言論活動——1930 年代を中心に——
29~71
- 任 洪彬 (千田 俊太郎 訳) 訓民正音創製者と音価表示の代表字に関する問題 (1)~(49)
- 李 在鏞 18 世紀日本の韓国語学習書における「ツ」の表記——雨森芳洲の『全一道人』を中心として—— (51)~(66)
- 金 美玟 現代朝鮮語の“連体形 + 짓갈다”形について——
〈“-히가보다”形〉との比較を中心に—— (67)~(106)
〈彙報〉朝鮮学会第 62 回大会報告、東潮「有光教一先生」、
会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録、平成 23 年度総
目次 (第 219 輯~222 輯) 73~114
Summaries 巻末

222 (2012/平成 24 年 4 月 26 日)

- 土井 浩嗣 併合前後期の朝鮮における勸農体制の移植過程——本田
幸介ほか日本人農学者を中心に—— 1~44
- 波田野 節子 李光洙の日本語創作と日本文壇——留学中断後の日本滞
在を中心に—— 45~70
- 宋 恵媛 在日朝鮮一世女性と文学——植民地以後の女たちの移動
とエクリチュールをめぐる考察—— 71~110
- 申 妮三 〈研究ノート〉李石薫の留学時代、創作と現実の間で——
「大森の追憶」を中心に—— 111~150
- 徐 旻廷 日本語母語話者の韓国語単語発話に見られるピッチパタ
ーンの研究——2 字漢字語の発話を中心に—— (1)~(50)
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 151~153

224 (2012/平成 24 年 7 月 26 日)

- 鄭 光 元代漢吏文と朝鮮吏文——朝鮮吏文の形成と吏読の起源
を摸索しながら—— 1~46

- 川西 裕也 (資料) 佐野美術館蔵の樂善君神道碑について 47~72
 高 恩淑 可能形式「할 수 있다/없다」の用法について——〈ちか
 からの可能〉と〈蓋然性の可能〉—— (1)~(26)
 奈良林 愛 -게 ㅎ-とモダリティ——-겠-の理解のために——
 (27)~(58)
 五十嵐 孔一 (研究ノート) 『우리말본』の「씨갈」について(1) (59)
 ~ (91)
 〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 73~77
 Summaries 巻末

225 (2012/平成 24 年 10 月 26 日)

- 武田 幸男 広開土王碑「原石拓本」欠損部分の研究 1~46
 伊藤 知子 『漢城新報』に掲載された『拿破崙傳』の原本および『乙
 未事変』との関わりについて 47~77
 李 憲卿 推量を表す‘-겠-’のモダリティ機能——‘-(으)ㄴ것어-’
 と交替できない用例を通して—— (1)~(44)
 金 京愛 現代韓国語の動詞分類——〈-고 있-〉と〈-어 있-〉の
 意味分析を基に—— (45)~(95)
 〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録 79~81
 Summaries 巻末

226 (2013/平成 25 年 1 月 26 日)

- 崔 蘭英 一八八〇年代初頭における朝鮮の対清交渉——「中国朝鮮
 商民水陸貿易章程」の締結を中心に—— 1~43
 申 知瑛 「不在」・「通路」を演じる「朝鮮」文人たち——大東亜文
 学大会 (第一回~第三回) をめぐって—— 45~73
 金 慶洙 (大川大輔訳) 廉想渉の言語意識——ハングル綴字法と
 漢字に対する認識を中心に—— (1)~(25)
 水野 俊平 梵字音ハングル音写の変遷について——仏教儀礼書の陀
 羅尼・真言を中心に—— (27)~(62)
 〈彙報〉 朝鮮学会第 63 回大会報告、会報、会員消息、近

着寄贈交換図書目録、平成 24 年度総目次(第 223 輯～226 輯) 75～126

Summaries 巻末

227 (2013/平成 25 年 4 月 26 日)

余 昊奎 (井上 直樹 訳) 三世紀前半の東アジアの国際情勢と高句麗の対外政策 1～45

具 仁謨 近代期朝鮮における新概念としての「詩」と言語横断の実践 47～73

白川 豊 廉想渉の朝鮮戦争後短編と 1950 年代韓国小説——1953～62 年を中心に—— (1)～(45)

金 宰奭 韓国と日本の「人形の家」受容に関する比較研究 (47)～(71)

許 龍 (吉田 昌平 訳) 言語普遍性に基づく外国語教育・習得研究——朝鮮語と日本語の母音融合現象研究を中心に—— (73)～(94)

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 75～77

Summaries 巻末

228 (2013/平成 25 年 7 月 26 日)

武末 純一 金海会峴里貝塚出土の弥生形土器 1～19

加藤 裕人 朝鮮初期太宗の「崇仏的行為」に対する再検討 21～61

呉 永三 九州国立博物館所蔵朝鮮前期〈瀟湘八景図〉屏風に見る順序の問題 63～89

佐々 充昭 一九一〇年代以降における朴殷植の民族独立運動と「国魂」論の提唱——大倭教との関係を中心に—— 91～128

相川 拓也 李箱「翼」における男女関係と都市空間——植民地のモダンという経験をめぐって—— 129～157

岸田 文隆 〈書評〉朴真完著『「朝鮮資料」による中・近世語の再現』 159～164

〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 165～

229 (2013/平成 25 年 10 月 26 日)

- 東 潮 魏志東夷伝と墓制 1~37
- 酒井 裕美 朝米修好通商条約（一八八二年）における最恵国待遇をめぐる一考察 39~71
- 武井 一 〈資料紹介〉朝鮮国公使館、留学生監督部の変遷について——中六番町の公使館を中心として—— 73~109
- 白川 豊 〈書評〉波田野節子著『韓国近代作家たちの日本留学』『韓国近代文学研究—李光洙・洪命憲・金東仁—』 111~121
- 辻野 裕紀 言語形式の自立性と音韻現象——現代朝鮮語の〈n 挿入〉を対象として—— (1)~(32)
- 〈彙報〉伊藤秋男「斎藤忠先生の報告書の形」、会員消息、近着寄贈交換図書目録 123~128

230 (2014/平成 26 年 1 月 26 日)

- 田中 俊明 三世紀前半の東アジアの国際情勢と高句麗の対外政策 1~29
- 姜 玲珠（波田野節子訳） 洪命憲・洪起文と『朝鮮王朝実録』 31~66
- 葛 継勇 東アジア情勢における祢軍の活動と官歴 67~94
- 牧野 雅司 明治初期外務省の対朝鮮外交と近世日朝関係 95~127
- 濱田耕策 〈書評〉井上直樹著『帝国日本と〈満鮮史〉—大陸政策と朝鮮・満州認識—』 129~135
- 〈彙報〉朝鮮学会第 64 回大会報告、会報、会員消息、近着寄贈交換図書目録、平成 25 年度総目次（第 227 輯~第 230 輯） 137~182

231 (2014/平成 26 年 4 月 26 日)

- 森 万佑子 朝鮮政府の駐津督理通商交渉事務の派遣 (一八八六—一八九四) 1~34
- 鄭 光 朝鮮司訳院の倭学における仮名文字教育——バチカン図書館所蔵の「伊呂波」を中心に—— 35~87
- 高 東昊 漢清文鑑의 構成에 대한 分析的 考察——變改 様相을 中心으로—— (1)~(24)
- 金 民 現代朝鮮語の動詞の連体形と被修飾名詞に関する研究——‘han’ (…した) 連体形と高い頻度で現れる名詞—— (25)~(55)
- 〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録 89~91
- Summaries 巻末

232 (2014/平成 26 年 7 月 26 日)

- 李 穂枝 一八八五年の日朝海底電線条約続約締結交渉について 1~41
- 波田野 節子 李光洙の日本語小説と同友会事件——「萬翁の死」から「心相觸れてこそ」へ—— 43~77
- 柳 忠熙 漢詩文で〈再現〉された西洋——『海天秋帆』『海天春帆小集』『環瑯吟艸』と理想郷の修辭—— 79~105
- 辻野 裕紀 現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1)——若年層ソウル方言話者を対象に—— (1)~(57)
- 〈彙報〉 会員消息、近着寄贈交換図書目録、会報 107~110
- Summaries 巻末

233 (2014/平成 26 年 10 月 26 日)

- 辛 大基 「九人会」の結成と活動——その実態と特徴—— 1~42
- 金 善美 現代韓国語と日本語の反語法文を成立させる語用論的条件について (1)~(25)
- 齊藤 信浩・玉岡 賀津雄 項目応答理論による韓国語語彙能力テス

- トの開発 (27)~(61)
- 韓 必南 現代韓国語の〈있다〉構文について ——日本語「ある／
いる」構文との対照言語学的考察—— (63)~(117)
〈彙報〉会員消息、近着寄贈交換図書目録 43~44
Summaries 巻末

234 (2015/平成 27 年 1 月 26 日)

- 崔 鉉植 (安田 純也 訳) 高麗時代の寺院形止案と禪宗寺院の空間
構成についての検討 1~34
- 山本 進 近世中朝貿易と青布 35~55
- 通堂あゆみ 京城帝国大学医学部における一九四五年八月一五日以降
の博士学位認定について 57~106
- 権 在一 (辻野 裕紀 訳) 中央アジア高麗語の話しことばと書きこ
とば (1)~(36)
〈彙報〉朝鮮学会第 65 回大会報告、会報、会員消息、近
着寄贈交換図書目録、平成 26 年度総目次 (第 231 輯~第
234 輯) 107~150
Summaries 巻末

235 (2015/平成 27 年 4 月 26 日)

- 糸永 佳正 『高句麗広開土王碑』の立碑目的と「墓上立碑」 1~38
- 石川 亮太 朝鮮開港期における華商の内地通商活動——同順泰文書
を通じて—— (39)~(80)
- 柳 忠熙 英文で〈再現〉された西洋——尹致昊日記 (一八九六) に
記されたヨーロッパと朝鮮使節の文化的ダイナミズム—
— 81~125
- 高木 丈也 日本語と朝鮮語の談話における発話連鎖——「質問」と「応
答」の連鎖を中心に—— (1)~(35)
- 斉藤 信浩 〈研究ノート〉PROX 法による韓国語語彙能力テストの検
証 (37)~(60)
〈彙報〉会告、会員消息、近着寄贈交換図書目録 127~

236 (2015/平成 27 年 7 月 26 日)

波田野 節子 『無情』の表記と文体について 1~28

曹 志法 平壤土城里遺跡出土の古式輻線蓮華文瓦当の検討——東京大学総合研究博物館所蔵品を中心として—— 29~78

植田 喜兵成智 在唐百濟遺民の存在様態——熊津都督府の建安移転の史的意義と関連させて—— 79~125

五十嵐 孔一 〈研究ノート〉『우리말본』の「씨갈」について(2) (1)~(30)

〈彙報〉近着寄贈交換図書目録、会報 127~130

Summaries 卷末

237 (2015/平成 27 年 10 月 26 日)

権 泰億 (長森 美信 訳) 一九一〇年代日帝の朝鮮「文明化」政策と三・一運動 1~41

古谷 暢子 一五世紀初期宋希璟の日本派遣と『老松堂日本行録』に見る日本観——朝鮮の対明外交と対日外交の交錯を背景として 43~78

康 盛国 雨森芳洲文庫蔵『三宅滄溟筆談集』の考察——三宅家三代の通信使接応時の類似性を中心に—— 79~101

岸田 文隆 対馬宗家文書ハングル書簡類について——報告書の刊行を契機として—— (1)~(63)

〈彙報〉近着寄贈交換図書目録、会報 103~104

Summaries 卷末

238 (2016/平成 28 年 1 月 26 日)

波田野 節子 李光洙の日本語小説「加川校長」と「蠅」について 1~33

鄭 光 朝鮮半島における仏経玉冊の刊行について 35~79

- 金 珍娥 人は発話をいかに始めるか——日本語と韓国語の談話に
照らして—— (1)~(30)
- 韓 松花 韓国語における「아니,아니다」の否定に関する研究 (31)
~(60)
〈彙報〉朝鮮学会第 66 回大会報告、会報、近着寄贈交換
図書目録、平成 27 年度総目次(第 235 輯~第 238 輯) 81
~116
Summaries 巻末

239 (2016/平成 28 年 4 月 26 日)

- 朴 珍英 (波田野 節子 訳) 家族史の東アジア的想像と翻訳——パー
ル・バックと林語堂の小説の韓国語への翻訳経緯—— 1
~31
- 牧瀬 暁子 朴泰遠の児童文学と国語教科書——一九三〇~四〇年代を
中心に—— 33~72
- 金 周弼 (岸田 文隆 訳) 近代韓国語の<ㅏ>ㅑ变化を通じてみた音韻
変化の機制——規則性仮説と語彙拡散仮説の問題点と代
案を中心に—— (1)~(46)
- 柴 公也 現代韓国語の接続形「-고보니까」の意味と用法について
——「-다 보니까」、「-아 보니까」、「-고 나니까」
との対照を通じて—— (47)~(87)
〈彙報〉近着寄贈交換図書目録 73~74
Summaries 巻末

240 (2016/平成 28 年 7 月 26 日)

- 広瀬 貞三 近代朝鮮の水道事業と地域社会 1~39
- 権 保慶 金時鐘における民衆と諷刺——一九七〇年代の金芝河と
の関連をめぐって—— 41~70
- 金 亨貞・油谷 幸利 〈書評〉박일환著『미친 국어사전』—국립국어원의
『표준국어대사전』비판— 71~84
- 中西 恭子 ㅎパッチムの音価と表記に関する一考察——朝鮮語教育

の視点から—— (1)~(24)

- 辻野 裕紀 現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(2)——
若年層ソウル方言話者を対象に—— (25)~(66)
〈彙報〉岡山善一郎「大谷森繁先生を悼む」、近着寄贈交
換図書目録、会報 85~95
Summaries 巻末

241 (2016/平成 28 年 10 月 26 日)

- 岡山 善一郎 韓国の史書に表れた童謡観 1~54
矢木 毅 朝鮮時代の有旨書状について 55~84
藤本 健太郎 対馬藩朝鮮方の成立過程について——以酩庵輪番僧・東向
寺勤番僧との関係を中心に—— 85~114
金 宰奭 土月会の〈東道〉の上演に関する研究 (1)~(27)
高木丈也 遼寧省地域朝鮮語における友人談話の発話形式——基層
方言との関係という観点から—— (29)~(66)
〈彙報〉近着寄贈交換図書目録 115~116
Summaries 巻末

242 (2017/平成 29 年 1 月 26 日)

- 佐々 充昭 青山里戦闘において大倭教が果たした役割——ロシア革
命派からの武器入手を中心に—— 1~36
酒井 裕美 日朝外交交渉におけるハングル文書——易地行聘交渉開
始時(一七九五年)の対馬宗家文書ハングル書簡類を中心
に—— 37~59
王 翰碩(原田 静香 訳) 〈韓国の言語民俗誌〉研究の現況と成果
(1)~(45)
岩井 亮雄 韓国語ソウル方言単母音の変化の方向性と聴取判断の様
相——/ㅁ/と/ㅂ/の合流と/ㅌ/と/ㅈ/の接近を中心に——
(47)~(77)
〈彙報〉第一回朝鮮学会研究奨励賞、朝鮮学会第 67 回大
会報告、会報、近着寄贈交換図書目録、平成 28 年度総目

次 (第 239 輯～第 242 輯) 61～116

Summaries 巻末

243 (2017/平成 29 年 4 月 26 日)

- 李 在桓 統一新羅時代の金官小京に対する考古学的検討 1～36
白川 豊 廉想渉の朝鮮戦争後の 7 長編について——1953～59 年を中心—— (1)～(35)
具 仁謨 金億のヴェルレーヌ詩翻訳を読み直す——『懊悩の舞踏』の底本研究—— (37)～(70)
高 権旭 韓国語の動詞막다 (mekta) の研究 (71)～(101)
〈彙報〉近着寄贈交換図書目録 37～38

Summaries 巻末

244 (2017/平成 29 年 7 月 26 日)

- 田中 美彩都 植民地期朝鮮における異姓養子制度の認容とその影響——近代における「儒教的」家族制度の展開の一側面—— 1～42
趙 秀一 金石範「看守朴書房」論——歴史を現前させる物語—— 43～74
石塚 由佳 疑問符登場と近代小説の成立 75～120
河崎 啓剛 中期朝鮮語連体形「-오-」の「特定化用法」について (1)～(41)
〈彙報〉近着寄贈交換図書目録、会報 121～124

Summaries 巻末

245 (2017/平成 29 年 10 月 26 日)

- 金 炫栄 (長森 美信 訳) 朝鮮後期文人の中国書画理解——申緯(一七六九～一八四五)の「傲梅道人山水」の読解—— 1～28
李 泰勲 〈三島倭寇〉と〈倭山〉に対する高麗・朝鮮政府の認識 29

～81

呉 永三 奈良・大和文華館蔵鄭欵筆「冠岳夕嵐図」と陽川時代 83
～116

川西 裕也 〈資料〉高麗忠烈王代発給の「松広寺奴婢文書」——パス
パ字「駙馬高麗国王印」の新事例—— 117～139

邊 姫京 促音を用いた濃音の指導法 (1)～(20)

〈彙報〉近着寄贈交換図書目録 141～142

Summaries 巻末

246 (2018/平成 30 年 1 月 26 日)

権 寧珉 (相川 拓也 訳) 李箱、そして 1930 年代の東京 1～20

大沼 巧 大韓帝国期における漁税徴収の実態と「所有権」の整理—
—慶尚南道沿海部を中心に—— 21～63

柳 忠熙 近代朝鮮におけるイソップ寓話の翻訳と『ウスンソリ (笑
話)』 (1)～(33)

小島 大輝 韓国語における助詞の結合形態「에를/을」の用法と構成
(35)～(83)

〈彙報〉朝鮮学会第 68 回大会報告、会報、近着寄贈交換
図書目録、平成 29 年度総目次(第 243 輯～第 246 輯) 65
～119

Summaries 巻末

247 (2018/平成 30 年 4 月 26 日)

崔 恵珠 (徳間 一芽 訳) 韓国併合前後における幣原坦の行跡と教
育論 1～39

高橋 梓 金史良の朝鮮語作品「チギミ」と日本語作品「蟲」の改作
過程の考察——朝鮮人移住労働者の集住地をめぐる表現
の差異—— 41～79

権 仁瀚 (岸田 文隆 訳) 中世韓国漢字音の研究(Ⅰ)——祇林寺本
『慈悲道場懺法』巻 4 の音注を中心に—— (1)～(17)

具 仁謨 金億のグールモン (Remy de Gourmont) の詩翻訳を読み

直す——『懊悩の舞踏』の底本研究(二)—— (19)~(44)

高木 丈也 遼寧省朝鮮語における中老年層談話の発話形式——終止
形語尾の出現に注目して—— (45)~(74)

〈彙報〉近着寄贈交換図書目録 81~82

Summaries 巻末

248 (2018/平成 30 年 7 月 26 日)

安田 純也 高麗時代の消災道場について 1~35

菅野 修一 朝鮮初期漢城建設の分析——労働力動員と「編成軍戸制」
—— 37~88

横山 恭子 朝鮮通信使迎送体制と対馬藩出馬方 89~126

崔チョンア 韓国語の「-어서」・「-고」形節の意味類型と統語構造—
—日本語のテ形節との対応関係に基づいて—— (1)~
(42)

〈彙報〉西谷正「金関恕先生を偲んで」、会報、近着寄贈
交換図書目録 127~132

Summaries 巻末

249・250 合併号 (2019/平成 31 年 1 月 26 日)

長森 美信 一七世紀朝鮮士人と洛東江——『寒岡先生蓬山浴行録』を
中心に—— 1~37

田中 美佳 崔南善の初期の出版活動にみられる日本の影響——一九
〇八年創刊『少年』を中心に—— 39~84

波田野 節子 『無情』から「嘉実」へ——上海体験を越えて—— 85
~110

本田 洋 農村移住を契機とする生き方の転換——現代韓国社会に
おける農村の資源化に関する試論—— (1)~(33)

河崎 啓剛 中期朝鮮語の幾つかの副詞対の意味的対立——接尾辞の

意味の違いを求めて—— (35)~(83)

金 珍娥 日本語と韓国語の談話における〈述語文〉の様相——〈話されたことば〉の文末を照らす—— (85)~(138)

澁谷 秋 『三綱行實圖』大英本の特徴と系譜の再考 (139)~(171)
〈彙報〉第二回朝鮮学会研究奨励賞、朝鮮学会第 69 回大会報告、会報、近着寄贈交換図書目録、平成 30 年度総目次(第 247 輯~第 250 輯) 111~154
Summaries 巻末

251 (2019/平成 31 年 4 月 26 日)

川原 秀城 朝鮮実学——東西学説の融合と李退溪の規範—— 1~57
崔 恵珠 (徳間 一芽 訳) 亡命史家金沢采の韓国史著述をめぐる儒林との論争 59~92

平木 實 〈寄稿〉私と朝鮮学 93~100

李 基甲 (千田 俊太郎 訳) 韓国語方言の談話標識 (1)~(41)

金 珍娥 日本語と韓国語の談話に現れる〈対聞き手敬語表現〉を照らす (43)~(95)

濱田 耕筈 〈史料紹介〉高麗開城の演福寺鐘の漢字銘文注解 (前) (97)~(134)

〈彙報〉近着寄贈交換図書目録、「朝鮮学報」投稿規程 101~102

Summaries 巻末

252 (2019 年 7 月 26 日)

高 東煥 (長森 美信 訳) 朝鮮後期偽造犯罪の蔓延と『水魚船事実』 1~23

石塚 由佳 近代国文体小説における漢字表記の変遷——補助漢字の導入とその役割について—— 25~59

李 尚九 (田中 実 訳) 韓国古小説にあらわれた日本人の形象と作家意識 (1)~(49)

- 魯 ゼウオン 韓国ソウル市における「マウル計画団」の展開とその意味
——鐘路区清雲孝子洞と恩平区駅村洞の事例研究——
(51)~(73)
- 權 恩熙 在日コリアンによる朝鮮語の聞き手敬語運用に関する基
礎的研究——朝鮮学校コミュニティを中心に—— (75)~
(111)
- 濱田 耕策 〈史料紹介〉高麗開城の演福寺鐘の漢字銘文注解 (後)
(113)~(144)
〈彙報〉会報、近着寄贈交換図書目録、訂正、「朝鮮学
報」投稿規程 61~65
Summaries 巻末

253 (2019年10月26日)

- 鄭 東俊 新羅における中国王朝の地方行政制度の影響について—
—漢~唐の地方行政機構との比較を中心に—— 1~36
- 具 仁謨 金億のボードレール(Charles Baudelaire)の詩翻訳を読み
直す——『懊悩の舞踏』の底本研究(三)—— (1)~(35)
- 中村 麻結 〈갈생기다〉と〈뭉생기다〉の品詞について (37)~(70)
- 高木 丈也 ハイブリッド言語としての黒龍江省朝鮮語——尚志市在
住、移住第4、5世代の談話分析から—— (71)~(114)
- 伊藤 智ゆき The Accent and Phonotactics of Middle Korean Verbal
Stems (115)~(169)
〈彙報〉近着寄贈交換図書目録 37~38
Summaries 巻末

254 (2020年1月26日)

- 李 咳鎮 訳官使の役割拡大と接待儀礼 1~42
- 趙 秀一 金石範『火山島』論——「自由」を追い求めていた主人公・
李芳根の
「自殺」をめぐる—— 43~84
- 関 東暉 「学」(theoria)と「思想」(ism)のあいだで——朴致祐

曹 恩美 「東亜協同体論の一省察」(1940年)再読—— (1)~(35)
張赫宙作・戯曲「春香伝」上演(1938年)論——朝鮮人のプロレタリア文化運動と村山知義のかかわりの中から—— (37)~(71)

〈彙報〉2019年度朝鮮学会研究奨励賞、朝鮮学会第70
回大会報告、会報、近着寄贈交換図書目録、2019年度
総目次(第251輯~第254輯) 85~130

Summaries 巻末

255 (2021年6月26日)

李 泰鎮 (長森 美信 訳) 明治日本政府の歴史教育政策と朝鮮史
(韓国史) 1~45

木村 拓 朝鮮初期における室町幕府への遣使の目的 46~87

鄭 鍾賢 (熊木 勉 訳) 植民地文学にあらわれた帝国大学 89~
108

波田野 節子 許俊の帰還小説「残燈」について 109~129

石塚 由佳 朝鮮近代小説における語句説明の符号の変遷様相 131~
164

辛 大基 金起林の評論に表れた『ユリシーズ』 165~206

生越 直樹 名詞止め文をめぐる——韓国語と日本語の対照——
(1)~(21)

朴 素英 (中村 麻結 訳) 韓国語の名詞句省略——汎言語的観点か
ら—— (23)~(45)

金 智賢 「AはBだ」から「BのA」へ——いわゆる属格助詞の日
韓対照を兼ねて—— (47)~(88)

〈彙報〉近着寄贈交換図書目録、「朝鮮学報」投稿規程
207~210

Summaries 巻末

256 (2020年12月26日)

- 朴 璣吁 百済の「山東・呉越進出」説に関する批判的考察——崔致遠の「上太師侍中状」を中心に—— 1~31
- 呉永三 一五世紀朝鮮の釈迦八相図と世祖のハングル釈迦伝 33~68
- 山本進 明清交代期の勅行貿易と發賣 69~93
- 川西裕也 朝鮮後期における御諱・御押・御筆資料の廃棄——洗草の再検討—— 95~128
- 奈良林愛 『酉年工夫』の認識的モダリティ形式について (1)~(30)
 〈彙報〉2020年度朝鮮学会研究奨励賞、近着寄贈交換
 図書目録、『朝鮮学報』投稿規程(2020年10月30日
 改定)、2020年度総目次(第255輯~第256輯) 129
 ~137
- Summaries 卷末

257 (2021年6月26日)

- 申 東昕(熊木 勉 訳) 韓国の文学治療における自己叙事透視と調整の原理と体系——説話の活用を中心に—— 1~38
- 宮内 彩希 三・一独立運動後の朝鮮民間信仰に対する認識・政策の変容——崇神人組合の設立と活動を中心に—— 39~80
- 小谷 稔 戦時期朝鮮における農業教育と朝鮮人農村青年——南海公立農業実修学校『實修日誌』(一九三九~一九四〇)を中心に—— 81~116
- 波田野 節子 廉想渉の帰還小説「三八線」——一九四六年夏、朝鮮半島北部の二つの移動—— 117~147
- 福井 玲 再発見された小倉進平の卒業論文について (1)~(33)
- 河崎 慶剛 中期朝鮮語アクセントの「上昇遅延現象」について (35)~(75)
- 小島 大輝・斉藤 信浩・大和祐子 韓国語の助詞の結合形態「에가」に対する許容度の検証 (77)~(97)
 〈彙報〉朝鮮学会第71回大会報告、会報、近着寄贈交

換図書目録、『朝鮮学報』投稿規程 149~157
Summaries 卷末

資料一覽

資料名	輯	頁
呂 圭亭『荷亭遺作—演本沈青伝—』	13	179~201
柳 僖『物名考』卷一 (高橋亨氏所蔵)	16	199~223
柳 僖『物名考』卷二 (高橋亨氏所蔵)	17	215~242
柳 僖『物名考』卷三 (高橋亨氏所蔵)	18	159~216
柳 僖『物名考』卷四 (高橋亨氏所蔵)	19	193~218
柳 僖『物名考』卷五・正誤・攷正 (高橋亨氏所蔵)	20	179~212
ヘンドリック・ハメル (生田 滋 訳『朝鮮幽囚記』一)	19	138~166
ヘンドリック・ハメル (生田 滋 訳『朝鮮幽囚記』二)	23	103~132
ヘンドリック・ハメル (生田 滋 訳『朝鮮幽囚記』三)	35	22~47
鄭希得『月峯海上録』上 (故今西龍博士所蔵)	23	195~238
鄭希得『月峯海上録』下 (故今西龍博士所蔵)	25	183~224
鄭希得『月峰海上録』補影 (東京大学図書館所蔵)	26	171~182
『孝經諺解』(尊經閣文庫所蔵)	27	87~106
申 綽『石泉遺集』前集 卷一之三	29	185~249
申 綽『石泉遺集』後集 卷一・二	30	153~166
申 綽『石泉遺集』後集 卷三	31	123~181
申 綽『石泉遺集』後集 卷四	32	131~184
申 綽『石泉遺集』後集 卷五・六	33	161~213
申 綽『石泉遺集』後集 卷七・八	34	167~226
僧 慶念『朝鮮日々記』(内藤 雋輔 編)	35	55~154
徐有桀『種譜譜』(天理図書館所蔵)	44	197~212
宋希環 撰『老松堂日本行録』上 (井上周一郎氏所蔵)	45	141~238
宋希環 撰『老松堂日本行録』下 (井上周一郎氏所蔵)	46	155~214
『持經靈驗伝』(W.E.Henthorn 氏所蔵)	51	171, 173~204
『批評 新增要路院記』(天理図書館所蔵・今西文庫)	52	181~218
『錦城日記』(京都大学図書館蔵)	53	63~106

『蛙蛇獄案』『鵠与烏相訟文』『烏対卞訟文』(東洋文庫所蔵)	54	73~107
『清国居留地設定委員会見筆記』	54	111~159
魯認『乱中秘記』(天理図書館所蔵・今西文庫)	55	87~192
『錦溪日記』(韓国 魯錫經氏所蔵)	56	63~200
『蓬來故事』(天理図書館所蔵・今西文庫)	57	87~162
『蓬來故事』(続)(天理図書館所蔵・今西文庫)	58	71~170
『近世朝鮮政鑑』上(原本/東京 朴宋根氏所蔵)	59	101~150
東亜日報—1923~28年—にみられる朝鮮衡平運動記事(1)(池川 英勝 訳)	60	155~214
東亜日報—1923~28年—にみられる朝鮮衡平運動記事(2)(池川 英勝 訳)	62	87~190
東亜日報—1923~28年—にみられる朝鮮衡平運動記事(3)(池川 英勝 訳)	64	191~268
松崎 武俊 筆写「諸事抄録(從明治36年12月渡韓中)」	61	129~164
松崎 武俊 筆写「渡韓始末録(明治36年12月10日發程 明治37年3月15日帰朝 我外務省ノ内命ニ依リ)」	61	165~194
(通度寺)『事蹟記』(天理図書館所蔵・今西文庫)	61	219~276
『魚音漂本』(故今西龍博士所蔵)	63	167~186
李民賓『柵中日録』(天理図書館所蔵・今西文庫)	64	125~180
『도잉횡』(1)(天理図書館所蔵・今西文庫)	67	169~298
『도잉횡』(2)(天理図書館所蔵・今西文庫)	68	79~184
『도잉횡』(3)(天理図書館所蔵・今西文庫)	69	43~164
憑虚閣李氏 著(鄭良婉 校註)『구합총서(閨閣叢書)』上(金沢文庫所蔵)	71	97~224
憑虚閣李氏 著(鄭良婉 校註)『구합총서(閨閣叢書)』下(金沢文庫所蔵)	75	123~282
李植『野史初本』上(天理図書館所蔵・今西文庫)	72	97~186
李植『野史初本』下(天理図書館所蔵・今西文庫)	73	93~208
李擢英 録『龍蛇日録』(天理図書館所蔵・今西文庫)	76	73~128

『征蛮録』（京都大学付属図書館所蔵・河合文庫）	77	91~149
『秋浦集』上下（天理図書館所蔵・今西文庫）	78	145~218
『和刻三綱行実』（孝子図・忠臣図・烈女図）上下（天理図書館所蔵）	79	77~192
『大永享祿之比 御状并書状之跡付』	80	165~260
鄭燻 編『鄭忠壯公実紀』（天理図書館所蔵・今西文庫）	84	127, 143~212
『葵史』（天理図書館所蔵・今西文庫）	85	173~240
金允植 編『礪齋先生集』（一）（天理図書館所蔵・今西文庫）	86	181~267
金允植 編『礪齋先生集』（二）付『朴礪齋文』（天理図書館所蔵・今西文庫）	87	113~254
徐居正 編『太平閑話』（天理図書館所蔵・今西文庫）	88	195~214
河村 一夫 編「斎藤実総督の朝鮮総督府中枢院官制改革関係史料」（外務省外交史料館所蔵）	90	217~222
河村 一夫 編「明治30年代初期の韓国各地日本人居留民営業表戸口月表」（外務省外交史料館所蔵）	90	223~229
『一夕話』・『丁香伝』・『李長白伝』（天理図書館所蔵・今西文庫）	90	231~278
『天倪録』（天理図書館所蔵・今西文庫）	92	75~196
『続齊諧志』（天理図書館所蔵・今西文庫）	93	151~240
『千字文 諺文付』（大東急記念文庫所蔵）	94	131~218
『蘭室漫筆』（天理図書館所蔵・今西文庫）	95	167~236
田代 和生 校訂『寛永六年御上京之時毎日記』	95	73~115
『破睡篇』（東洋文庫所蔵）	96	117~202
『記聞叢話』（東洋文庫所蔵）	97	95~196
李震興 編・李明九 補『掾曹龜鑑』（天理図書館所蔵・今西文庫）	98	87~176
『千字文』（宮内庁書陵部所蔵）	98	139~206
井上 秀雄 編「朝鮮城郭一覽一慶尚南北道編一」	103	127~191
井上 秀雄 編「朝鮮城郭一覽一京畿道・忠清南北道編一」	104	107~174

井上 秀雄 編「朝鮮城郭一覽一江原道・全羅南北道・濟州道編一」	107	161~210
『続三綱行実図』（東洋文庫所蔵）	105	83~237
鑄字本「楞嚴經諺解」零本、卷五・卷六（天理図書館所蔵・今西文庫）（志部 昭平 編）	106	65~249
鑄字本「楞嚴經諺解 跋」残（天理図書館所蔵・今西文庫）（志部 昭平 編）	107	211~220
南二星 編『語録解』（天理図書館所蔵）	108	153, 169~262
油谷 幸利 編「中学校世界史教科書の KWIC(1)一本文篇(1)一」	109	(53)~(115)
油谷 幸利 編「中学校世界史教科書の KWIC(2)一本文篇(2)一」	111	(11)~(76)
油谷 幸利 編「中学校世界史教科書の KWIC(3)一本文篇(3)一」	114	(63)~(109)
油谷 幸利 編「中学校世界史教科書の KWIC(4)一正順篇(1)一」	115	(1)~(52)
道春 訓点『金鰲新話』（天理図書館所蔵）	112	149, 157~250
水谷 昌義 編「故小川敬吉氏蒐集資料」目録（京都大学工学部建築学教室蔵）	116	(19)~(128)
『易言』卷之一・卷之二（天理図書館所蔵）	117	129, 147~270
『易言』卷之三・卷之四（天理図書館所蔵）	118	167~316
『青邱全図』乾（天理図書館所蔵）	124	別 1~200
『青邱全図』坤（天理図書館所蔵）	125	別 201~396
『春香伝』上・下（東京大学総合図書館所蔵）	126	83, 103~219
『医科榜目』卷一（天理図書館所蔵・今西文庫）	127	165~238
『医科榜目』卷二（天理図書館所蔵・今西文庫）	128	63~136
『陰徳記』七十六卷「高麗詞之事」（岩国市徴古館所蔵）	128	137~160
中野 政一『鴨緑行』（武田幸男編）	131	115, 149~195
『三綱行実図』（一）（東京大学総合図書館所蔵）	145	133~214
『三綱行実図』（二）（東京大学総合図書館所蔵）	146	95~240

『物名』(对馬宗家文庫所藏)	148	183~217
『外来金器文字記』付「大和国石上神宮宝庫所藏六叉刀」 (管伸生家所藏)	155	153~214
『郷飲酒礼儀節』(天理大学朝鮮学科研究室所藏)	172	117, 125~158
『楚顛 = [可+欠] 録』(天理大学附属天理図書館所藏)	183	57, 73~105

編輯後記

本目録は、『朝鮮学報』創刊 60 周年、第 220 輯の刊行を記念して企画されたものです。

1950 年 10 月に朝鮮学会の発会式が行われた後、翌 51 年 5 月には学会誌『朝鮮学報』創刊号が発行されました。当初は年 1～2 回の発行であったものが、1960 年度（第 15 輯）以降、年 4 回の定期発行となり、以後とぎれることなく半世紀を超える歴史を刻んできました。

朝鮮学会では第 50 輯（1969 年 1 月）、第 99・100 輯合併号（1981 年 7 月）が発行された際にも総目録を発行したことがあります。今回の目録も、できるだけ簡潔に作製するという前回の目録編輯方針にしたがって編輯しました。倍増したデータを収録するために今回割愛した部分もあります。

まず、前回の目録に収録されていた「部門・時代別目録」は今回収められませんでしたが。その代わりに影印・校訂等のかたちで『朝鮮学報』に掲載された資料を容易に検索できるよう、「資料一覧」を収録しました。また、前回の目録では執筆者名索引に個々の記事題目まで記載していましたが、今回の目録では記事題目は省略し、執筆者名と輯数のみを示しました。

なお、前々回の目録に付されていた『朝鮮学会会報』全 25 号（1951 年 4 月～55 年 8 月）の総目次を、今回改めて付録しました。

本目録・索引のデータ入力・編集・校正の実務は編輯委員の長森が担当しました。校正作業では学会事務局の吉川俊子さんに協力していただきました。

編輯担当者の能力的限界、また時間的制約もあり、不十分な点があると存じます。会員ならびに読者諸氏のご寛恕をお願いいたします。校正漏れもなお残っているのではないかとおそれます。お気づきの点がありましたら、朝鮮学会事務局までお知らせいただければ幸いです。

2011 年 9 月

朝鮮学会編輯委員 長森美信

増補版 編輯後記

本目録は、『朝鮮学報総目録 第1輯～第220輯』（2011年10月刊）を底本として、その後に刊行された第221輯（2011年4月刊）から第249・250輯合併号（2019年1月刊）までの30輯分のデータを加えた増補版です。前回の総目録は紙媒体で刊行しましたが、今回は諸般の事情でデジタルデータ（PDFファイル）として刊行することになりました。

2011年刊行版の「編輯後記」に記したように、今次補完版もまた、できるだけ簡潔に作成するという前回の編輯方針にしたがって編輯しました。なお、前回の総目録に収録した執筆者名索引は今回収録しませんでした。デジタルデータであるゆえ、検索が容易であろうと考えたからです。

一方、一般的なPCの入力システム（IME）による入力が困難な文字（規格外漢字等）は記号（≡）を入れることで代替した部分があります。ご海容をいただけましたら幸いです。

本目録・索引のデータ入力・編集の実務は編輯委員の長森が担当しました。編輯担当者の能力的限界、また時間的制約もあり、不十分な点があると存じます。会員ならびに読者諸氏のご寛恕をお願いいたします。校正漏れによる誤り等もお残っているのではないかとおそれます。お気づきの点がありましたら、朝鮮学会事務局までお知らせいただければ有り難く存じます。

デジタルデータである利点を生かして、随時修正を行っていきたく思います。朝鮮学会の活動に変わらぬご支援を賜れましたら幸いです。

2019年5月

朝鮮学会編輯委員 長森美信

※ 第251輯（2019年4月）～第257輯（2021年7月）のデータを追加しました。2020年度以降、『朝鮮学報』は年2回発行となりました。

2021年10月追記

朝鮮学会編輯委員 長森美信